

ニ之ヲ沙河以北ニ潰走セシメ全ク其企圖ヲ挫折セリ
朕深ク爾將卒ノ忠勇克ク連日ノ勞苦ニ堪ヘ偉大ノ功績ヲ奏シタルヲ嘉ス

第九章 沙河の滯陣

沙河の會戰後我軍の沙河左岸に停止するや敵亦其右岸に止り彼我共に爾後の會戰を準備し相峙して動かず。

十月十七日 支隊は朝來主力〔歩兵第九聯隊本部第二大隊（第五中隊欠）並に第二中隊、騎兵第六聯隊（第一中隊と第三中隊の一小隊欠）同第十一聯隊（第二中隊欠）、騎砲兵中隊、機關砲二門、工兵第四大隊第一中隊の一小隊〕を以て大台より太平庄に互る線を、豊邊支隊〔歩兵第九聯隊第一大隊（第二中隊欠）騎兵第三聯隊（第三中隊欠）、同第十四聯隊、機關砲二門〕を以て李大屯屯を、騎兵第九聯隊（第三中隊欠）を以て韓山台を、小池支隊（歩兵第九聯隊第一第五中隊、騎兵第十三聯隊、機關砲二門）を以て沈且堡を守備し益々防禦設備を堅固にし警戒線を黒林台、富家庄、金山屯、北台子、柳條口、黑溝台の線に置き敵情を搜索せり、而して支隊主力の前面に在りては午前八時三十分頃白雲庄の南端に敵の歩兵約一旅團、騎兵約一聯隊、砲兵一中隊在りて十時四十分頃其歩兵約二大隊瓜旦台に約一大隊三家子に前進す、乃ち支隊長は敵の來襲を豫期せるに際し、軍總豫備隊の右翼後に移りし結果第四師團の獨立して現在の位置を固守せざる可からざるを知り、諸隊をして益々防備を堅固にし敵の前進に備へしも其後三家子、瓜旦台の線に停止し十一時に至り其騎兵約一中隊白雲庄より孟達堡方向に前

支隊配備の
状態

敵兵三家子
瓜旦台に前
進

進せしに過ぎず、又豊邊、小池兩支隊前面の情況概して變化なく寶相屯に敵の監視兵在りて我斥候の侵入を許さず、土民の言に依れば同村に敵の騎兵二百歩兵若干砲四門あるものゝ如く、其騎幕は二台子、孤家子、張庄子、南部長灘の線に在り、又長灘に歩兵約五十、騎兵約百其北方北台子に歩騎兵約二百、大叭拉堡子に歩騎兵約一千砲數門あるが如く午後に至るも前面の情況概して靜穩にして其後小池支隊より二台子、孤家子、大、小韓台間に少數の敵騎往復し又新台子に砲十二門を有する諸兵連合の敵あり、大韓台に今朝敵の騎兵約四百新台子より來り孤家子に同二百其北方に約五百あり、今早朝同村西方渾河右岸にも約二百來着せりこの土民の言等の報告を受け尋で長灘附近の敵兵稍増加せるを知り依然大台、李大屯、沈且堡の線に在りて警戒を嚴にし夜を徹せり。

十月十八日 支隊前面の敵の警戒線は三家子、瓜旦台、孟達堡、寶相屯、二台子、孤家子、周官堡、張庄子の線にあり、而して午前十一時三十分頃砲三、四門を有する敵の騎兵約一聯隊東北方より白雲庄を経て午後三時頃孟達堡に前進し、夕に至る迄同地南端に在り、六時頃同約三百寶相屯より金山屯に向ひ前進し、同地の我騎兵第九聯隊の搜索隊（第二中隊）は韓山台に退却す、乃ち同聯隊は之に備ふる所ありしも其後敵兵金山屯に停止し、夕に至り寶相屯に退却せり、又小池支隊方面に在りては砲六門を有する敵の騎兵約一聯隊午後五時頃大韓台より北台子に向ひ前進し、其砲兵孤家子より北台子を射撃せしに依り、同地の我小哨は沈且堡に退却せるを以て、諸隊は配備を整へ近接を待つや、其約二中隊は北台子に侵入し沈且堡に向て前進す、依て我機關砲隊之を猛射して撃攘す、敵は北台子に少時停止の後主力は大韓台に一部は周官堡に退却せり。

十月十九日 前日金山屯に侵入せし敵兵其後北方に退却し、韓山台の騎兵第九聯隊第一中隊の一小隊は再び同

地を占領せり、又敵の騎兵約一百富家庄に來襲せしも我騎兵前哨之を撃攘せり、而して瓜旦台、白雲庄、孟達堡、楊樹林子附近の敵は防禦工事を繼續し三家子、寶相屯に依然敵の歩騎兵あり、尙ほ第四師團左翼隊方面に對するものは歩兵約一旅團、騎兵五、六中隊、砲兵二、三中隊、寶相屯方向より李大大人屯に對するものは歩兵約一聯隊、騎兵五、六中隊、砲兵一中隊、又沈且堡方面に對するものは騎兵五、六中隊、砲兵一中隊なるが如し、而して前日北台子に侵入せし敵は其後前進せず、雖、大韓台附近のものは孟達堡方面に移りし疑あり、乃ち支隊は主力を李大大人屯に移すに決す、次いで六時將來の作戰準備に關する第二軍命令に接し左の部署を爲せり。

一、歩兵第九聯隊第二大隊(二中隊欠)は小台、太平庄を準備し第四師團の左側を掩護す。

二、歩兵第九聯隊の二中隊、騎砲兵中隊、機關砲二門は明日三家子を経て李大大人屯に到る。

三、騎兵第六聯隊(第一中隊、第三中隊の一小隊欠)は明日三家子に移り李大大人屯、小台間の連絡を保持し其一中隊(二小隊)は前哨と爲り黑林台に到る。

四、騎兵第十一聯隊(第二中隊欠)は明日韓山台に移り同地の騎兵第九聯隊(第三中隊欠)を河村中佐の指揮に屬す。

五、支隊長李大大人屯到着後豊邊支隊の編成を解く。

十月二十日 支隊は午前七時より八時の間に支隊主力を以て李大大人屯に進出し騎兵第十一聯隊(第二十隊欠)を韓山台に移せり、然れども支隊の警戒線は黑林台、富家庄、金山屯、北台子、柳條口の線に在ること故の如し。當時渾河左岸の敵の騎幕は依然三家子、瓜旦台、寶相屯、二台子、孤家子、張庄子の線に在りて概して靜穩なり

しも朝來の濃霧午後一時霽るゝや砲四門を有する敵の騎兵五、六中隊大韓台方向より沈且堡に來襲し、北台子の前哨及柳條口の騎兵一中隊並歩兵一小隊は壓迫せられ沈且堡に退却す、同時騎兵約三百金山屯に來襲し同地にある河村支隊の小哨も韓山台に退却す、敵は金山屯南端に現はれ其半數は韓山台に一部は李大大人屯に向て前進せるも其地守備隊の爲に撃退せられ約百は啞叭台に向ひ前進せるも其地に在りし騎兵第十三聯隊第二中隊の下十餘の急射に遭ひ退却し、金山屯に停止せしも夕に至り北方に退却せり、乃ち我警戒部隊は金山屯、北台子、柳條口を占領して警戒す、然るに渾河右岸の敵は漸次南進の徵あり、土民の言に依れば長灘の敵は増加して約一千を爲り大叭拉堡子に歩騎兵二千、砲七門あり、後馬統客子の敵騎増加して百となり牛心坨附近に同五百ありて其監視兵は茨榆坨、馬圈子、烏邦牛、阿司牛、カ力馬に在るものゝ如し、乃ち支隊長は午後六時豊邊大佐をして騎兵第十四聯隊(一中隊欠)を率る明日沈且堡に到り小池中佐令下の部隊を併せ指揮し該地の守備に任し同時一部隊を啞叭台に派遣し韓山台、沈且堡間の連絡を保持せしむ。

十月二十一日 支隊(歩兵第九聯隊(第三中隊欠)騎兵第一旅團騎砲兵中隊機關砲六門騎兵第三(第三中隊欠)同第六(第一中隊欠)同第九(第三中隊欠)同第十一聯隊(第二中隊欠)工兵第四大隊第一中隊の一小隊)は第四師團の左翼に連り小台より李大大人屯、韓山台を経て沈且堡に互る線に防備を施し近く敵と對峙す、然るに大韓台附近の敵兵増加せしに依り沈且堡方面の守備を嚴にせん欲し騎兵第十四聯隊(第四中隊欠)を沈且堡に送致し小池支隊を合し豊邊大佐の指揮に屬し(爾後沈且堡守備隊を豊邊支隊と稱す)沈且堡の守備に任し且つ渾河兩岸の地區を搜索せしむ。

十月二十二日 敵の歩兵約一聯隊騎兵約一旅團砲兵二、三中隊來勝堡方向より前進し午前十一時頃瓜且台附近に達せり、又正午頃敵の騎兵約一中隊小樹子の騎兵第十四聯隊第三中隊の小哨に來襲せるも直に小韓台方向に擊退せり、第二軍司令官は支隊方面の敵兵活動の狀あるものゝ如きを以て後備歩兵第二聯隊第一大隊を支隊に屬す、乃ち大隊長石關少佐は主力(本部第二第三中隊)を依然牛居に置き支隊の左側掩護に任じ且つ渾河右岸の敵情を搜索し其他を以て豐邊支隊に合せしむ。

十月二十三日 午前九時頃敵の砲兵一中隊寶相屯方向より北台子及荒地附近を射撃し、尋て其騎兵五、六中隊寶相屯方向より金山屯に前進し來りしも十一時三十分頃李大屯の騎砲兵中隊之を射撃し擊退せり、此日豐邊支隊は後備歩兵二中隊來着せしにより從來屬せし歩兵第九聯隊第五中隊を韓山台の河村支隊に増如す、夕に至り後備歩兵第一大隊は更に全部豐邊支隊に轉屬し廿五日以後第二中隊は黑溝台に第四中隊は長義套に其他は沈且堡に位置す。

十月二十六日 敵の砲兵各約一中隊楊樹林子及寶相屯方面より富家庄及李大屯を射撃し午後二時頃其歩兵富家庄の村落内に密集し尙ほ約一中隊、孟達堡方向より同村に侵入し、三時二十分約一聯隊富家庄より寶相屯に互り展開して李大屯に來襲せしも同地の砲兵第十三聯隊第四中隊之を射撃し潰亂敗走せしめたり。

十月二十八日 在李大屯の砲兵第十三聯隊第四中隊は楊樹林子東南方寶相屯北方及金山屯東側の敵砲兵及其附近の歩兵を射撃す、敵の砲兵は桑欄子及後三道崗子附近より前三道崗子及佟孤家子、千家窪子附近を、英窩附近の重、野砲二中隊は同村及拉木屯、三家子附近を、周官堡附近の五、六門は小樹子、北台子、沈且堡を射撃す

尙ほ支隊左翼方面にありては敵の騎兵七、八中隊、歩、砲兵各約一中隊新台子方向より前進し午後一時三十分以後逐次周官堡に侵入し、尋て其砲兵沈且堡を射撃し後徒歩兵約一百北台子及柳條口を攻撃せしも、當地守備隊悉く之を擊退せり。

十月三十日 午前十時頃兵力未詳なる敵の騎兵黑林台に侵入し前哨たる騎兵第六聯隊第三中隊の一小隊半は大台に退却す、尙ほ歩兵約一大隊騎兵約一聯隊、砲兵約一中隊の敵兵富家庄の前哨たる騎兵第三聯隊第二中隊(一小隊欠)を壓迫して同村南端を占領し前哨は李大屯に退却せり、正午敵の騎兵約二中隊太平庄に移り李大屯東北陣地の騎砲兵中隊を襲撃せしも約五百米に近接せるや同砲兵は散彈を急射し多大の損害を與へ之を擊退し、更に富家庄の敵の集團を射撃して之を潰亂せしめ、尙ほ寶相屯附近の敵の騎砲兵を射撃して同地を撤退せしめたり、乃ち富家庄の舊前哨は午後三時頃再び同地を占領せり。

此戦闘に於ける騎砲兵中隊の費消彈藥約二百六十發、敵は「ドン」哥薩克騎兵師團の三聯隊及び哥薩克騎砲兵二中隊、哥薩克騎兵第十九第二十聯隊の徒歩部隊にして我騎砲兵中隊に來襲せるものは哥薩克騎兵第十九聯隊第三中隊にして中隊長以下死傷四十を生じ大庄料に退却せり。

河村支隊前面にありては此時頃敵の歩兵一小隊騎兵一中隊金山屯に前進し來り該地の前哨たる騎兵第九聯隊第二中隊(一小隊欠)は韓山台に退却せしも午後三時過ぎ敵兵退却せしに依り同地を回復す。

豐邊支隊前面にありて午前九時徒歩せる敵の騎兵約二中隊孤家子より北台子の前哨たる騎兵第十四聯隊第二中隊に來襲せるも該前哨の猛烈なる攻撃を受け周官堡方向に退却せり。

此日各方面共砲戦終日熄まず、殊に沙河堡附近の重、野砲は熾烈を極む。

十一月三日 各方面共極めて靜穩なり、此日は天長節に付御下賜の祝杯を舉げ士氣頓に揚れり、支隊長訓示して曰く、敵は我國の祝日に乘じ來襲するやも計り難ければ警急に際し直ちに應じ得る準備を爲し置くべし。

十一月七日 支隊前面に於ては楊樹林子附近の敵の砲兵約一中隊李大屯、金山屯を射撃するも情況概ね靜穩なり。

當時前面の敵兵二三日前より稍減少の狀なりしを以て豐邊支隊は黎明騎兵第十三聯隊第一中隊同第十四聯隊第三中隊を寶相屯方向に、同第十四聯隊第四中隊及後備歩兵第二聯隊第二中隊を孤家子方向に、騎兵第十三聯隊第四中隊及び後備歩兵第二聯隊第三中隊を周官堡方向に派遣し、威力を以て其の狀況を搜索し、主力は午前五時五十分徒歩集合し沈且堡北端陣地に據て之を掩護す、秋山支隊長も亦在韓山台河村支隊より一部隊（騎兵第九聯隊長平佐少佐の率ゐる同聯隊第二中隊同第十一聯隊第三中隊及歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊）を金山屯に派遣し豐邊支隊を援助し尙ほ李大屯支隊主力も歩兵第九聯隊第八中隊を同村西北端の陣地に就け搜索隊を掩護す。

豐邊支隊の搜索隊は午前七時運動を起し七時二十分頃より八時四十分に至る間に二台子、孤家子、張庄子間の敵の騎幕を突破して進出し其歩騎兵の依然瓜且台、大韓台、周官堡の線を守備せるを知れり、十時三十分大韓台西方の敵砲數門我各搜索隊を射撃せしに依り同隊は各處に斥候を殘置し沈且堡に歸還す、其後敵の騎兵約一旅團寶相屯附近に、三、四中隊周官堡附近に前進し其砲兵約一中隊も亦午後一時頃孟達堡附近に現出し金山屯及沈且堡方向を射撃す、依て李大屯の我騎砲兵中隊之に應射し、尋て其騎兵集團を射撃するや四時頃より漸次楊樹林子

方向に退却せり、此間我前哨は敵の砲火を避け退却せしも五時頃再び黒林台、富家庄、金山屯、北台子の線に進出警戒せり、是より先午後三時敵砲周官堡より柳條口を砲撃し火災を起せり。

搜索隊の損害は歩兵下士卒戦死一名負傷五名負傷馬一頭にして俘虜一名を獲たり。

附記 前面の敵は「ドン」哥薩克騎兵師團なり。

十一月十二日 徒歩騎兵五、六十荒地に來襲し同地の騎兵第十四聯隊第二中隊の小哨は啞叭台に退却せしも後敵兵退却し之を回復す。

騎兵第十三聯隊は渾河右岸の敵情搜索の爲午前九時沈且堡出發大台、古城子を経て黒溝台に到り敵情を搜索す。

十一月十三日 午後二時頃敵の歩兵約一小隊騎兵一中隊黒林台に前進し同地の前哨たる騎兵第六聯隊第二中隊の二小隊は小台に退却せしも三時頃大台の我砲兵第四聯隊第一中隊の射撃に依り瓜且台方向に退却せり、依て前哨は四時舊位置に復せり、尙ほ四時頃騎兵約一中隊富家庄に來襲せしも同地に在りし騎兵第三聯隊第二中隊之を瓜且台方向に撃退せり。

十一月十四日 全線概して平穩なりしが敵の騎兵約一百黒林台に、徒歩兵約二百富家庄に來襲せるも同地守備隊悉く之を撃退せり。

十一月十五日 午前十一時頃敵騎約二中隊金山屯に侵入し續て韓山台に侵入せんとするの狀ありしも騎砲兵中隊之を荒地方向に撃退せり。

十一月十六日 午後二時頃渾河右岸三台子に兵力未詳の敵の砲兵現出し頻りに黃騰陀子を砲撃し、尋て其歩騎

兵各約二小隊黃臘坨子に侵入して民家に火し三台子方向に退却せり。

十一月十七日 騎兵第十三聯隊は黑溝台より三家子に轉移し七台子、黃臘坨子に搜索隊を派遣し渾河右岸の敵情を搜索す。

十一月十九日 敵砲三四門渾河右岸の蕭寨門に現出し媽々街を砲撃す、尙ほ外に騎兵約一百七台子を攻撃せるも同地の守備隊たる後備歩兵第三十五聯隊第一中隊の一小隊之を蕭寨門方向に撃退せり。

十一月二十二日 騎兵第十三聯隊第二中隊第三小隊の一分隊は黃臘坨子に在りて監視中午前十一時敵の斥候三騎前進せるを以て近接を待ち急射して下士一馬一を傷せり。

編者は當時敵の動靜を目撃し之に感じたるを以て左に附記す。

敵の斥候長我射撃に依り負傷落馬し他の二騎退却するや、斥候長の馬亦之に跟随す、尋て追撃射撃の爲他の馬斃れて起たす、騎手は徒歩退却す、之を知りたる他の一騎は我銃火の中に駐立し跟随せる斥候長の馬を捕へて之に乘らしめ相與に退却せり。

十一月二十三日 未明黑林台及金山屯に敵の小夜襲あり、金山屯の騎兵第十一聯隊の前哨第一中隊(一小隊欠)は直ちに之を撃退したるも黑林台の騎兵第六聯隊の前哨たる第二中隊の半部は暫時大台方向に後退し敵兵退却の後午前八時回復せり。

午前六時三十分頃北台子の前哨たる騎兵第十四聯隊第二中隊は敵の徒歩兵約一中隊の襲撃を受け其包圍する所爲り苦戦中沈且堡より後備歩兵第二聯隊第三中隊の増援を得、極力攻撃して孤家子方向に撃退せり(我死傷下士

卒六名馬六頭)

十一月二十九日 三家子附近に在りて渾河右岸の敵情搜索に任じたる騎兵第十三聯隊は午前八時同地出發、牛居、五家子、大台を経て在沈且堡豐邊支隊に復歸す。

十二月二日 豐邊支隊は後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊及第三中隊、騎兵第十四聯隊第二第三中隊の約二分隊を以て夜半午前一時十五分孤家子西南端に突撃して敵の徒歩兵約二百を北方に撃退し同時三十五分同村を占領し敵の據點となるべき建物を焼却す(我死一傷十三名)

十二月三日 敵の騎兵約三十金山屯、李大屯間を南進するを以て在金山屯の騎兵第十一聯隊の小哨と同第十三聯隊第二中隊の將校斥候協力して之を撃攘せり。

十二月七日 午前五時敵の徒歩兵約一中隊黑林台に來襲し同地の騎兵第六聯隊第二中隊の一小隊は在小台歩兵第十八聯隊第二大隊より派遣せる斥候の援助を得協力攻撃して之を回復せり。

工兵第八大隊(第一中隊欠)は軍命令により李大屯に到着秋山支隊長の指示を受け防禦工事に任ぜり。

十二月十九日 李大屯及金山屯に敵の夜襲あり、彼我猛烈に銃火を交ひ各之を撃退せり。

十二月二十二日 支隊は騎兵第五聯隊(第二中隊欠)同第八聯隊(第一中隊の一小隊欠)を増援(廿一日第二軍に屬せられたるもの)せられたるを以て騎兵第五聯隊長種田大佐をして増加隊の全部及從來豐邊支隊に屬せし後備歩兵第二聯隊第四中隊を指揮し種田支隊と稱し黑溝台附近に位置し韭菜河子より烟台子、黃臘坨子、三台子を経て七台子に互る間を警戒し且つ渾河右岸の敵情を搜索並地形を偵察せしめ豐邊支隊の警戒區域を啞叭台、柳

條口間に定限し種田支隊は此夜黒溝台に到着し同地の守備に任す。

十二月二十四日 豊邊支隊前面にありては午後一時三十分敵の歩兵部隊南部長灘附近に現出し、二時三十分其約一中隊鴨子泡に前進し來りしに因り柳條口守備隊〔森田大尉指揮し柳條口に騎兵第十四聯隊第三中隊（二小隊欠）長義套に後備歩兵第二聯隊第一中隊の一小隊騎兵第三中隊の一小隊、鴨子泡に同中隊の一小隊あり〕は在長義套の騎兵小隊を鴨子泡に増加す、三時敵の第一線鴨子泡北方約五百米に達するや、鴨子泡の守備隊は射撃を開始し王家窩棚に派遣せる停止斥候を收容す、此時長義套の歩兵小隊は同村北端陣地に、柳條口の騎兵一小隊は其西端陣地に就き共に敵の左翼を猛烈に射撃するも、敵兵漸次其左翼を延伸し王家窩棚附近を占領せしに依り鴨子泡守備隊は其包圍攻撃を受け防戦頗る努む、是に於て柳條口守備隊長森田大尉は同地の騎兵一小隊を長義套西端に赴援せしむ、時に四時二十分頃なり。

是より先在沈且堡豊邊大佐は敵兵森田守備隊の前面に來襲の報を得、四時三十分騎砲兵小隊をして王家窩棚を射撃せしめ且つ後備歩兵第二聯隊第一第三中隊の各一小隊、騎兵第十三聯隊第三中隊を柳條口に急派増援せり、然るに當時敵兵我砲撃の爲め稍動搖せるも尙ほ兵力を増加して王家窩棚附近を維持せしが、七時馬狼祖より騎兵第十三聯隊第四中隊の一小隊鴨子泡に來援し猛烈に攻撃するや、遂に八時頃より退却を始めたなり。

支隊前面の敵は孟達堡、大韓台、四方台附近に位置し其騎幕は瓜且台、孟達堡、楊樹林子、寶相屯、二台子、孤家子、周官堡、張庄子、長灘、前鮎魚泡、張家窩棚、馬鏡峇子、茨榆坨、馬圈子、烏邦牛、カ力馬の線に在りてグレコフ及コソゴフスキー兩少將の率ゐる騎兵支隊の歩兵九大隊、騎兵四十三中隊、砲二十四門なり、而して渾

河右岸の敵の騎幕は漸次嚴密となり彼我斥候の衝突連日絶えず。

明治三十八年一月一日旅順陥落の報を得たり。

一月四日 支隊長は敵の歩騎兵約二千大叭拉堡子方向より鮎魚泡を経て四方台方向に前進せるを知り豊邊、種田兩支隊をして特に四方台方向の敵情に注意せしむ。

一月八日 支隊は四方台の敵歩騎兵約一萬、砲十四門を爲り其騎兵團は九日同地附近を發し營口方面に向ひ前進せしこゝを偵知したるに依り支隊長秋山少將は直ちに各支隊をして嚴に渾河右岸の敵情に注意せしめ且つ第二軍參謀長大迫少將に對し今後優勢なる騎兵の牛莊、海城方面に運動するの顧慮あるも支隊は頗る廣正面に互り警戒せるが故に之を拒止し難し、依て第一第四軍の騎兵を集結し小北河方面より渾河右岸に移し遼、渾兩河間の搜索及警戒に任せしめられんことを通報せり。

冬營（沙河對陣）以來近く敵に對峙し小戰絶ゆること無かりしも未だ著しき敵の行動を認めず、然るに一月十日ミシチェンコ中將の騎兵團營口方面に南下し、十一日牛莊城を占領し、後營口に前進せり、而して敵は其騎兵團を營口方面に活動せしむるに共に我左翼方面に於ても亦企圖する所あるものゝ如く、渾河右岸四方台方面の敵兵漸次増加し、七日頃奉天停車場附近に在りし六七千西方に移轉し、十日約一師團奉天停車場より渾河右岸に沿ひ鮎魚泡附近に移動せり、尙ほ土民の言に依れば四方台附近の敵は早晚黃臚坨子、媽々街、七台子を攻撃せんことをものゝ如くにして、支隊前面の敵の若干は西方に移りし狀あり、依て總司令官は第一軍に屬せる騎兵第二旅團を直轄し爲し、十七日中に小北河に集合せしむ。

是より先支隊は遠く敵の右側背を搜索せしめんを欲し第一挺進騎兵隊の編成を令し、一月三日完結翌、四日蘇麻堡に集合し其出發を九日とせり、乃ち同隊は騎兵第八聯隊長永沼中佐之を指揮し蘇麻堡を出發し小北河西南の場蜡附近を経て、十日小北河西南約五里太子河の左岸なる轉抽子に到り、ミシチエンコ騎兵團の南進を知り、翌十一日北進の途に就けり、其後支隊長秋山少將は南下せし敵の騎兵團の背後を脅威し、且つ情況に應じ遠く北進して敵本軍の背後を擾亂せしめんを欲し、十二日更に第二挺進騎兵隊の編成を令し、長谷川少佐之を指揮し三日以内に出發準備を整へしむ。

第二軍司令官は十一日支隊長秋山少將の報告に依り、敵の騎兵集團の南進せるを知り且つ支隊長の意見に依り、大東山堡西南地區に互りて滿洲軍の總豫備隊たる後備歩兵第八旅團を李大人屯方面の警備に充て、秋山支隊の主力を渾河右岸に派遣し軍の左側背を警戒し、且つ敵情を搜索せしむるの策を案じ、支隊長の意見と共に之を總司令官に具申せしも、當時旅順攻圍軍たりし第三軍既に北進輸送を開始し、敵の南進を憂ふるに足らざるの故を以て容るゝ所ならす、然れども支隊長秋山少將は敵騎の南進を坐視するに忍びず、午後六時二十分更に意見を具し小台、李大人屯、啞叭台の諸隊を第四師團長の指揮に屬し又沈且堡、黑溝台、七台子附近の守備を後備歩兵第二聯隊に譲り我騎兵第一旅團の全部及騎兵二、三聯隊歩兵一大隊を以て小北河附近よりカ力馬方面に運動せんを欲せしも軍司令官より總司令官の意圖を傳へられ支隊は依然現配置に在りて嚴に警戒す。

一月十三日 (濃霧近寒の爲樹木に凝結して雪の如く霞の如く其奇觀名狀す可からず) 支隊長は豐邊支隊の守備せし西啞叭台を河村支隊、種田支隊の守備せし韭菜河子を豐邊支隊の擔任せし、種田支隊より黃腰坨子及七台

子に各約一中隊を派遣し渾河右岸の搜索を確實ならしむ。

一月十五日 午後敵兵約一師團第四師團の前面を通過し支隊前面に移りしに依り、支隊長は十六日工兵第八大隊第三中隊の一小隊及機關砲一門を韓山台の河村支隊に、二門を黑溝台の種田支隊に増加す、午後四時第二軍司令官の通報に依り騎兵第二旅團の明十七日以後北大溝附近を根據地とし主として渾河右岸の敵情を搜索し、滿洲軍左側の警戒に任ずるを知り、直ちに種田支隊をして其旅團と連絡せしめ、且つ十五日以來小北河に集合せる第二挺進騎兵隊へ其狀況を通報し、情況に依り直ちに北進すべきを命ず、此夜長谷川第二挺進騎兵隊長より敵の騎兵集團午後遅く阿司牛、カ力馬の線以北に退却せりとの報告あり、尋て十七日同挺進騎兵隊長より十九日北進の途に就くべき報告ありしも、十八日支隊長は騎兵第十一聯隊を原師團に復歸せしむべき命令に接したるを以て、其挺進騎兵隊に屬するものを原隊に復歸せしむ。

一月十八日 支隊前面の敵兵逐次増加せるを以て、野戰砲兵第十三聯隊第四中隊を支隊に屬せられ、此日到著したるを以て、十九日李大人屯の騎砲兵中隊(一小隊欠)の内一小隊を在韓山台河村支隊に、其他を在沈且堡豐邊支隊に増加す。

一月二十日 鴨綠江軍編成あり、第十一師團同軍に編入せられ、從て騎兵第十一聯隊原師團に復歸を命ぜられ、騎兵第十聯隊代りて此日李大人屯に到着直ちに韓山台に到り、同地附近の諸隊と共に舊河村支隊の任務を繼承せり(三岳支隊と改稱す)

一月二十三日 午前二時頃敵兵霽々たる降雪中を冒し孤家子方向より北台子に來襲し、同地の前哨退却するや、

敵は民家に放火して退却せり、依て直ちに之を回復す。

第十章 黑溝臺附近の會戰

會戰前の狀況

一月二十四日 黑溝台方面の情況愈切迫し、敵は此方面に對し攻撃の意圖あるものゝ如く、依て支隊〔歩兵第九聯隊(第三大隊欠)、後備歩兵第二聯隊第一大隊、騎兵第三聯隊(第三中隊欠)同第五聯隊(一小隊欠)同第六聯隊(第一中隊欠)同第八聯隊(第一中隊の一小隊欠)同第九聯隊(第三中隊欠)同第十聯隊(第一中隊欠)同第一旅團、騎砲兵中隊、野戰砲兵第十三聯隊第四中隊、第一繫駕機關砲隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊、同第八大隊(第一中隊欠)〕は第二軍の左翼の警戒並に守備に任じ支隊の主力〔歩兵第九聯隊(第一第五中隊及第三大隊欠)騎兵第三第六聯隊(各一中隊欠)野戰砲兵第十三聯隊第四中隊、工兵第八大隊本部及第二中隊の一小隊及第三中隊(一小隊欠)機關砲五門〕は李大屯附近、三岳支隊〔歩兵第九聯隊第一第五中隊、騎兵第九第十聯隊(各一中隊欠)騎砲兵中隊の一小隊機關砲一門、工兵第四大隊第一中隊の一小隊同第八大隊第三中隊の一小隊〕は韓山台附近、豊邊支隊〔後備歩兵第二聯隊第一大隊(第四中隊欠)騎兵第一旅團 騎砲兵中隊(一小隊欠)〕機關砲三門工兵第八大隊第二中隊(一小隊欠)〕は沈且堡附近、種田支隊〔後備歩兵第二聯隊第四中隊、騎兵第五第八聯隊(各一小隊欠)〕機關砲二門〕は黑溝台附近を守備し、第二軍の兵站守備隊は支隊の左翼より小北河に互る

間を守備し、其後備歩兵第二聯隊本部及第二大隊(第六中隊欠)は牛居、黃腫坨子、頭泡に、同第三十五聯隊第一大隊(第二中隊欠)は七台子、媽々街、北大溝に、後備歩兵第五聯隊第二大隊、同第四十六聯隊第三中隊、戰利野砲中隊、第九師團後備工兵第一中隊(一小隊欠)は小北河に在りて守備す。

冬營以來各隊防禦工事を施し、殊に沈且堡は緊急なる據點たるを以て殆き永久的防備を施し、本日をして以て竣功せり、時恰も俘虜の言に依れば黒鳩公將軍は廿五日假攻撃を爲し、約十五日間の豫定を以て我守備線を衝き遼陽を回復せんと企圖なりと。

午後五時頃機關銃を有する敵の歩兵荒地に侵入せるに依り豊邊支隊は沈且堡より騎砲兵を以て射撃せるも益々増加して退却せず。

一月廿五日の狀況

支隊前面の形勢頗る不穩と爲り殊に砲兵を有する敵の歩兵約一旅團半は黑溝台及韭菜河子附近に於て渾河左岸に進出せんとするの狀にあり。

1 李大屯方面の狀況

午前三時頃黒林台に兵力未詳の敵兵來襲し、該地の前哨たる騎兵第六聯隊第三中隊の約二小隊は其壓迫する所を爲り小台に退却せしも、四時三十分更に黒林台に前進し、敵騎約五十を撃退して之を回復せし以來情況概して靜穩なりしも、十時に至り敵の砲兵約一中隊孟達堡、楊樹林子間より富家庄を射撃し同時三十分其歩兵約二大隊瓜旦台より大韓台方向に行進し、楊樹林子東北方にも未詳の一部隊停止せるを以

て支隊の主力は警戒を厳にし其情況を搜索す、午後三時三岳支隊の報告に依り敵の歩兵約一中隊金山屯に進入し荒地の敵兵其後漸次増加して歩兵約一中隊半を爲りしを知り、砲兵一小隊を李大屯西南端の陣地に就け砲撃を準備せしむ、四時頃敵の歩騎兵約三百富家庄北方約千五百米の松林附近に前進して、防禦工事を開始せるを以て我砲兵中隊之を射撃す、當時敵の歩騎兵約六十黒林台北方約六百米に近接し、且つ同数のもの其後方に防禦工事を施し五時三十分歩兵約一中隊富家庄北方の松林附近に増加して約三中隊を爲り、頗に散兵壕を構築せり、此頃敵の大部隊楊樹林子より西南方に向ひ行進せるも兵力未詳なり。

支隊長は夕迄に麾下各支隊の概況及狼洞溝附近に後備歩兵第八旅團、大新庄子（狼洞溝東南約二里）附近に第八師團、郝家屯附近に歩兵第十七旅團長兒玉少將の率ゐる部隊あるを知り、午後六時四十分より七時三十分交互に於て命令を下し豊邊支隊をして第八師團及後備歩兵第八旅團と協同動作し且つ萬一に際せば狼洞溝、郝家屯間に退却せしめ、三岳支隊をして兒玉少將の率ゐる部隊と連絡し、危急に際せば之が應援を求めしめんせり。午後十時頃前哨たる騎兵第三聯隊第二中隊の二小隊は家富庄附近の敵の襲撃する所となり、應戦の後本陣地に退却せしに依り李大屯の諸隊は戦備を厳にし、其來襲に備へしも遂に前進せざりき。

2 韓山台方面の状況

三岳支隊は前日金山屯、荒地敵手に歸せしに依り今朝之を回復せんと欲し、午前七時三十分より騎砲兵小隊を以て金山屯を射撃するや、敵兵退却の狀あるを以て、乃ち十時騎兵第九聯隊第一中隊（一小隊欠）をして該村を占領し前哨を爲さしむ、然るに同時三十分に至り同中隊は實相屯東端より敵砲二門の射撃に遭ひ斥候を残置し十一時四十分東啞叭台に退却す、是より先騎兵第九聯隊第一中隊の一小隊及在西啞叭

台の歩兵第九聯隊第五中隊の半小隊（義江中尉指揮す）は荒地回復の命を受け歩兵半小隊をして荒地の敵の兵力を偵知せしむ、乃ち該隊は午前十時三十分西啞叭台西端より荒地に前進し南方約六百米に達せしも、同村南端の敵兵頑強に抵抗し且つ漸次増加して約一中隊となりしに依り十一時三十分遂に退却せり、此際韓山台の騎砲兵小隊及在西啞叭台の歩兵第九聯隊第五中隊の半小隊、騎兵第九聯隊第二中隊の一小隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊及同第八大隊第三中隊の一小隊は各村端に據り之を收容せり、其後午後零時三十分敵の歩兵約三百二十台子より荒地に、二時三十分約二百實相屯より金山屯に侵入す。

夜に入り歩兵第九聯隊第五中隊及騎兵第十聯隊第二中隊の各一小隊を守備線に就け殘餘の部隊を以て韓山台に宿營す、前面の敵は金山屯の南端に防禦工事を施し、同地と荒地間は其の交通頻繁なりしも、概して靜穩に経過せり、午後十一時三十分頃歩兵第十八聯隊第一大隊支援として韓山台に到着せしも、家屋乏しく東啞叭台に到り宿營す。

在沈且堡豊邊大佐は三岳支隊の金山屯及荒地の攻撃を援助せんとし、騎兵第十三聯隊長小池中佐をして後備歩兵第二聯隊第三中隊、騎兵第十三聯隊第二中隊同第十四聯隊第四中隊及機關砲一門を指揮し沈且堡を出發せしめ、騎砲兵中隊（一小隊欠）をして午前七時迄に同村東側の陣地に放列を布き金山屯及荒地方向に對し砲撃を準備せしむ、乃ち小池中佐の率ゐる部隊は午前六時四十分沈且堡出發七時小台子に著す、時に西啞叭台守備隊より荒地に敵の歩兵約二中隊、機關銃約四挺、實相屯に歩兵約一大隊、金山屯に小部隊ありとの通報に接し、尋て荒地西端附近に散開せる少數の敵の歩兵及十數の敵騎徘徊するを知り、小池中佐は歩騎兵各一小隊を以て威力に依り荒

地の敵を搜索せしも唯敵の一部同地西南端より應戦せしに過ぎず、十時十分在啞叭台歩兵の一部荒地に向ひ威力を以て搜索すとの通報に接し、更に歩兵一小隊を荒地方向に進めて之に協力せしめしに、同地南端に散開せる敵は歩兵約二中隊なるを知りたり。

大台及古城子附近の小原中佐の指揮せる後備歩兵第三十一聯隊は午前二時四十分豊邊支隊より前夜優勢の敵兵金山屯に來襲し、該地の我警戒部隊は韓山台に退却し、三岳支隊は黎明金山屯及び荒地の敵に對し回復攻撃を企圖す、依て當支隊は歩兵一中隊、騎兵二中隊、機關砲一門を小台子若くは啞叭台方向に派遣し之を援助せんとすとの通報に接し、豊田少佐の指揮せる第一大隊（第一第二中隊欠）を啞叭台に差遣し豊邊支隊に増援せしむ、乃ち第一大隊は四時十分大台を出發し七時啞叭台に到着し豊邊、三岳兩支隊の要求に依り西啞叭台中央に位置し待機の姿勢に在り、然るに聯隊長より黒溝台に移轉すべき命令を受領す、然れども現在地の守備薄弱なると豊邊、三岳兩支隊の要求に依り大隊長豊田少佐は第四中隊を現在地に殘し、午後三時十分第三中隊を率る古城子に向ひ出發す。

3 沈旦堡方面の狀況

豊邊大佐は昨夜古城子及大台附近に在る後備歩兵第三十一聯隊長小原中佐に敵兵明後廿六日を期し我を攻撃せんむするものゝ如く、若し危急に瀕せば貴隊より長義套、啞叭台に應援を請ふに至るべく、尙午後四時三十分荒地の我前哨敵の歩兵四小隊、機關銃一挺の擊退する所と爲り、我砲兵は同地を砲擊中なる旨を通報す、乃ち小原中佐は前夜半第五中隊を長義套に、同夜午前一時二十分第二中隊を沈旦堡に派遣し豊邊支隊を支援す、乃ち第二第五中隊は未明沈旦堡、長義套に到着し該地守備隊に合せり。

午前九時三十分敵の騎兵約一聯隊頭台子附近に現出せるを以て、在沈旦堡騎砲兵中隊は之を射撃し潰亂せしむ、同時二十五分敵砲八門周官堡附近より沈旦堡西端を射撃し、同時四十分更に大韓台附近より北台子を砲撃し火災を起せり、乃ち同地の小哨は斥候を殘置し沈旦堡の本陣地に引揚げたり、其後十時より十一時に至る間前面の敵兵前進の狀無しと雖、左翼の情況を綜合するに渾河右岸に在りては敵の歩兵約七大隊騎兵約一中隊午前八時四方台より鮎魚泡に、歩兵一小隊九時十分長灘西南より散開して馬狼祖に、騎兵約一聯隊同時三十分鮎魚泡より土台子に向ひ前進し歩騎兵各四、五百、十時鮎魚泡より土台子に侵入せるものゝ如く、續て敵砲十六門長灘附近より鴨子泡を射撃し、尙は後續部隊を有するに似たり、其他黃臘砲子附近に砲聲起り火煙を揚ぐるに至る、是に於て豊邊大佐は十一時二十分荒地方向に派遣せる小池中佐に命するに、荒地を略取せば之を三岳支隊に譲り、若し之を能くせざれば騎兵一中隊を小台子に殘置し、其他を擧げ沈旦堡に歸還すべき旨を以てせり、依て騎兵第十三聯隊第二中隊を小台子に殘し其他を率る正午沈旦堡に歸還す、而して小台子に殘留したる第二中隊は夜に入り沈旦堡に歸還せり。

長義套附近の守備隊たる永山騎兵大尉の指揮せる後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊及騎兵第十四聯隊第一中隊（未明來援せる後備歩兵第三十二聯隊第五中隊は長義套に在り）及三天子を守備せる騎兵第十四聯隊第四中隊の諸部隊は午前八時在鴨子泡の小哨より敵の歩兵七大隊騎兵約二百四方台より鮎魚泡に前進し、尙は後續部隊ありとの報告を得、尋て敵の歩兵一小隊南部長灘より散開して馬狼祖に前進するを見、乃ち永山大尉は之を豊邊大佐に報告し、直ちに長義套の後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊を其西端散兵隊に據らしめ、在柳條口騎兵第十四聯

隊第一中隊（二小隊欠）を長義套に招致し徒歩戦を準備せしむ、九時三十分に至り長灘附近の敵の砲兵長義套、馬狼狙、三犬子を砲撃し歩兵約一旅團は二縱隊となり渾河右岸に沿ひ長灘より南進し、十時四十分騎兵二中隊候家窩棚方向より前進し、十一時其一中隊は馬狼狙に、他の一中隊は韭菜河子に侵入し該地に在りし我下士哨及小哨は共三犬子に退却す、同時三十分敵の歩兵小部隊に分れて馬狼狙に侵入し、歩兵約一中隊候家窩棚方向より渾河左岸に沿ひ韭菜河子に、歩兵約二大隊騎兵約二聯隊鮎魚泡方向より土台子に前進す、然るに午後零時三十分長義套の後備歩兵第三十一聯隊第五中隊は聯隊長小原中佐の命に依り同地出發黒溝台に赴援せり、乃ち永山大尉は長義套方面は早晚優勢なる敵の歩兵と對戦せざるべからざるこゝ明かなるが故に、一時現況を豊邊大佐に報告し増援を請へり。

豊邊大佐は一時三十分秋山支隊長より沈且堡を固守すべき命令を受け、同時に第八師團は將來沈且堡、黒溝台間より渾河右岸の敵に向ひ前進すべき通報に接す、依て現在地を固守し第八師團の運動を掩護せんを欲し、之を諸隊に令し特に長義套附近の永山大尉の指揮する部隊をして、極力現陣地を固守せしむ、然るに二時二十分に至り永山大尉の報告に接せしに依り、直ちに騎兵第十四聯隊第二中隊を長義套に増派赴援せしむ。

沈且堡前面に在りては其後敵の歩兵の前進を見ざるも、其砲火頗る猛烈を爲り野砲の外に十五珊米白砲を以てし沈且堡東北端陣地の機關砲一門損害を受けたり。

長義套、三犬子方面に在りては午後一時三十分敵の歩兵約三百李家窩棚より柳條口に向ひ前進し、同時在鴨子泡の小哨は敵の壓迫する所を爲り長義套に退却し、其西端の陣地に據れり、茲に於て永山大尉は長義套に招致せる

長義套、三犬子午後

騎兵第一中隊（二小隊欠）を再び柳條口に派遣し、同村北端の陣地に就け、李家窩棚方向の敵に對せしむ、二時過ぎ沈且堡より騎兵第十四聯隊第二中隊増援として長義套に到着せり、當時敵の歩兵二中隊騎兵二小隊鴨子泡に侵入し、長義套西端陣地の我歩騎兵と交戦中にして、他の歩、騎兵各一聯隊長灘より王家窩棚に向ひ前進し逐次同地に侵入せり、依て永山大尉は騎兵第十四聯隊第二中隊をして長義套北端の陣地に就かしめ、同時三十分頃我全線射撃を開始す、然れども敵兵益々前進して我を包圍し、相距る約八百米にして激烈なる戦鬪を以て四時に及べり、尙ほ柳條口北方の敵も漸次我右翼を包圍せんに至る、然るに三犬子方面の水野中尉の指揮せる騎兵第十三聯隊第四中隊は韭菜河子及馬狼狙附近の優勢なる歩、騎兵の壓迫する所となり、老橋に向ひ退却せるを以て四時三十分敵の歩兵約二大隊の第一線三犬子に侵入せり、長義套方面に在りては敵上の如く能く二百乃至五百米に敵を支持せしむ、兩翼共に包圍せられ退路を失はんに至るに及び、加之彈藥將に盡きんとせしに依り五時三十分先づ柳條口の部隊を、尋て長義套方面のものを古城子に退却せしむ、此時沈且堡前面に在りては敵の歩兵約三大隊孤家子に前進す、豊邊大佐は直ちに騎砲兵中隊をして之を射撃せしむるや、小韓台附近の敵砲兵之に應射す、又周官堡附近の敵砲兵及三犬子の敵歩兵約二大隊は長義套附近より退却する我部隊を猛烈に射撃せしむ、我退却部隊は小隊毎に大距離を取り、各兵大間隔に散開して退却せるを以て、損害極めて寡なく六時過ぎ悉く古城子に集合せり。

是より先西啞叭台を出發せし豊田少佐の率ゐる後備歩兵第三十一聯隊第三中隊は四時三十分古城子北端に達す此時同聯隊の主力は黒溝台に於て優勢なる敵の包圍攻撃を受け、苦戦中なるを知り、且つ同時姚坨子方向より我

後備歩兵第三十一聯隊第三中隊の古城子に於

騎兵の退却し来るを目撃せしが故に、第三中隊を古城子北端の土壁に據らしめ、此騎兵を收容せり、四時五十分大隊長豊田少佐は永山大尉の言に依り敵兵約一旅團長義套に襲撃し、又我騎兵二中隊は古城子に駐止すべき豫定なるを知り、第三中隊を率ゐる黒溝台に前進せんとし、五時十分老橋東方約六百米に達せし時我騎兵約百同村北端に退却し來り散開せる敵の歩兵約一大隊其北方に現出して射撃を開始せしに依り、同中隊は黒溝台に前進するを得ずして古城子に退き其西北端に據れり。

永山大尉は古城子に在りて此情況及本夜在黒溝台種田支隊の除家窩棚若くは佟二堡方向に退却の豫定なること及大台、古城子附近の後備歩兵第八旅團の依然現在地附近に在りて沈且堡、金家窩棚の警戒に任ずるを知り、乃ち諸隊を率ゐる沈且堡に向ひ出發歸還せり。

豊邊大佐は午後六時迄長義套、三犬子附近に在りし我部隊の古城子方向に退却せしを知らず、後備歩兵第二聯隊第三中隊をして北部沈且堡西南堡壘を、同第二中隊の一小隊及騎兵第十三聯隊第三中隊をして小臺子を守備せしめ、殘餘（在小樹子の後備歩兵第二聯隊第一中隊は情況之を許せば依然同地を守備せしむ）を豫備隊とし警報に際せば後備歩兵第三十一聯隊第二中隊（一小隊欠）を沈且堡北端北台子に通ずる道路の兩側堡壘、同中隊の一小隊を西南部沈且堡南端、騎兵第十三聯隊の一小隊を沈且堡西北砲兵陣地、同第十四聯隊第三中隊を機關砲一門と共に沈且堡西端砲兵陣地南側堡壘の守備に任じ、其他騎兵兩聯隊の殘餘をして悉く馬裝を整へ宿營地に在りて後命を待たしめ、工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）及機關砲一門は現在の配備に在らしむ、六時十五分永山大尉の報告に依り長義套、三犬子守備隊の午後五時三十分古城子に退却せしを知り、八時同隊を

古城子附近に在りて沈且堡、黒溝台間の連絡に任じ其騎兵第十四聯隊第二中隊及歩兵一小隊を明早朝沈且堡に歸還せしめんせしも、此命令の到達せざるに先だち八時三十分同隊は沈且堡に歸來せり、同時頃豊邊大佐は後備歩兵第八旅團の通報に依り第八師團は大新庄子附近に集合の後明日狼洞溝北方より黒溝台方面の敵を攻撃する豫定なること今夜後備歩兵第八旅團は沈且堡、金家窩棚間を警戒し、種田支隊は夜に乘じ黒溝台を撤退することを知り尙ほ九時三十分迄に得たる情報に基づき長灘方向より支隊の左翼に迫りし敵は歩兵約一旅團騎兵三中隊にして山砲約十二門は渾河右岸鮎魚泡附近より射撃し、其後歩騎兵は柳條口より三犬子に互り紅河の線に前哨を配置せるを知れり、夜半頃金山屯方向に烈しき銃聲起り百餘の敵兵北台子に侵入し、同地の小哨たる騎兵第十四聯隊第三中隊の一小隊は交戦少時の後本守備線内に退却せり。

4 黒溝台方面の状況

種田支隊は黒溝台の守備並に渾河右岸の搜索及吳家崗子附近に在る騎兵第二旅團との連絡に任じ其主力を黒溝台に置き後備歩兵第二聯隊第四中隊の一小隊を前烟台子に、騎兵第八聯隊第一中隊を后烟台子に、騎兵第五聯隊第二中隊の一小隊を黄臘坨子に、同第一中隊を七台子に派遣し警戒す。

黒溝台は第二軍占領陣地最左翼の據點なるを以て、沙河滯陣當初より致々として防禦工事に勉めしも、未だ完成せざりしを以て在佟二堡歩兵第五聯隊第三大隊より一小隊（第十二中隊）の援助を受け諸隊を督勵して工事を急げり、然るに種田大佐は午前四時三十分頃砲守備隊たる後備歩兵第二聯隊第五中隊（一小隊欠）の通報に依り黄臘坨子の今朝敵の包圍する所を爲りしを知り（是日午前四時三十分頃優勢なる敵の攻撃する所と爲り、守備兵多くは敵手に落ち殆んど潰滅し、五時頃頭泡に數名の兵卒遁れ來れり、乃ち戦死卒二十二椎名中尉野口特務曹長及

下士卒五十九敵の俘虜を爲れり。又六時三十分牛居守備隊たる後備歩兵第二聯隊より敵の歩兵約一大隊午前四時頃三台子方向より我に向ひ前進すとの通報を得、七時此情況を在古城子後備歩兵第三十一聯隊及後二堡歩兵第五聯隊第三大隊に通報し、八時斥候を派遣して黄臘坨子の情況を詳にし、且つ頭泡守備隊に連絡せしむ、當時土台子方向に稍烈しき銃聲起り、尋て敵兵烟台子及黑溝台を砲撃す。

騎兵第八聯隊は午前八時三十分在后烟台子小哨の報告に依り、敵の歩兵約一中隊土台子より我に向ひ前進中にして在烟台子警戒部隊の漸次退却せんことを知り、直に之を種田大佐に報告す、依て同大佐は九時其所屬の後備歩兵第二聯隊第四中隊をして后烟台子東南砂山に對し、黑溝台北端陣地に又工事援助を以て滞在せる歩兵第五聯隊第十二中隊の一小隊をして西端の陣地に就かしめ、殘餘の部隊に警急集合の準備を爲さしめ、九時二十分機關砲各一門を北端及西端の陣地に就かしめ、尋て騎兵兩聯隊を村落の中央に集合す。

午前十時頃烟台子附近の我警戒部隊は土台子附近の敵砲兵より射撃を受け黑溝台に退却す、此頃迄に種田大佐は敵の歩兵約一大隊砲三門午前八時三十分頃北方より土台子に、尙ほ歩騎兵の一縱隊(歩兵は一聯隊餘)九時頃四方台より鮎魚泡に侵入し、又歩兵約一大隊候家窩棚附近に於て同時三十分渾河を渡り南進中の情報を得、尋て十時二十分頃に至り歩兵約一旅團張家窩棚附近より漸次南下するを知る、此時在古城子後備歩兵第三十一聯隊長小原中佐より該聯隊の主力を率ゐて増援の途に就きし通報ありしに依り、種田大佐は此歩兵隊と協力して黑溝台を固守するに決し、騎兵第五聯隊をして北端の陣地を守備せしめ、同第八聯隊を豫備隊として依然村落の中央に置き、十一時頃敵の歩兵約一聯隊韭菜河子附近に現出せるも、同地及土台子方向より前進する敵は約二聯隊砲四

門を算すに雖、亦急に壓迫し來るの狀無く、尋て敵の歩兵約一旅團鮎魚泡より黄臘坨子方向に前進し十一時五十分頃其先登土台子附近に達せり。

古城子に在りし後備歩兵第三十一聯隊は午前七時五十三分在黑溝台種田支隊の通報に依り、黄臘坨子敵の包围する所を爲りしを知り、黑溝台附近の敵情益々切迫せるを察し、直に聯隊の殘餘なる第一中隊及第二大隊(第五中隊欠)を古城子西北端の陣地に就け敵情を搜索す、九時四十分種田支隊より敵の歩兵約一中隊土台子より烟台子に向ひ前進中にして我支援の歩兵中隊は既に黑溝台の陣地に就き支隊は警急集合を準備せりとの通報を得、聯隊長小原中佐は該支隊を赴援するに決し、在啞叭台の第一大隊及在長義套の第五中隊に此情況を通報し、且つ敵情妨げなければ直に復歸すべきことを命じ、其手裡に存する全力を率ゐ十一時古城子を出發し、午後零時三十分黑溝台に到着し種田大佐の命に依り午後一時第二大隊を第一線として黑溝台西端及北端の陣地を守備し第一中隊を豫備隊として村落の中央に位置せしむ。

午後一時頃より敵兵益々壓迫し黑溝台を包围せんことを如く、歩兵各約一聯隊は韭菜河子及前、后烟台子の兩方面より、約一旅團は黄臘坨子方面より漸次近接し同時三十分頃より黄臘坨子東方の敵砲約十二門、后烟台子西南端の約六門、韭菜河子西方の約四門猛烈なる射撃を開始す、此時種田支隊の豫備隊たる騎兵第八聯隊は黑溝台中央に在りて同時黄臘坨子方面より前進せる敵の一部は頭泡方向に、主力は黑溝台に向ひ其先頭既に千二、三百米に接近せるを知り聯隊長代理藤繩大尉は獨斷を以て第一中隊(一小隊欠)及第三中隊(銃數約百)を第一線第二中隊(銃數約三十)を援隊として西端の土壁に據り且つ之を種田大佐に報告し其前面七百乃至千二百米に近

接せる敵に對し射撃を開始す、時に二時頃にして敵兵我射撃を冒し七、八百米迄接近して應射し二時三十分頃に至り敵の攻撃益猛烈にして我機關砲は敵火の損ふ所を爲り、散兵線の損害も亦頗る多く情況危急に瀕せしに依り藤繩大尉は此情況種田大佐に報告し應援を請ふ、同大佐は其豫備隊たる後備歩兵第三十一聯隊第五中隊の一小隊を現在地に殘し、其他を騎兵第八聯隊第三中隊の左翼に散開せしむ、然れども西方面の敵兵益々増加し攻撃愈急にして三時三十分頃既に六、七百米に近接し、就中敵兵十五、六我前方三、四百米に散在せる高粱桿及堆土に進み其後方に潛み頻りに我を狙撃せり、此に於て藤繩大尉は其援隊たる騎兵第二中隊の一小隊を同第三中隊の伍間に増加す、當時敵の砲兵頭泡を守備せる歩兵第五聯隊第三大隊を射撃中にして此間北方面の情況大なる變化なかりしも三時五十分頃に至り韭菜河子方向より敵の歩兵約一大隊前進し、我右翼前約七百米に迫り尙ほ韭菜河子西方より砲火を受けしも諸隊は勇を鼓して敵の前進を拒止せり、其後敵兵逸巡敢て迫らざりしも四時五十分頃東北の敵兵再び前進し西南方の敵亦密集隊形の第二第三線を隨へ怒濤の如く捲土前進し來り我陣地は三面より敵の銃砲火を受け村内數處に火災を起し炎々たる猛火に包まれしも守兵敢て動かす、戰鬪益々熾烈となれり。

倭二堡に在りし歩兵第五聯隊第三大隊は黑溝台方面の危急を知り獨斷を以て先づ第九第十中隊を五家子に派遣し第十二中隊を以て午前十一時十五分五家子に達せり、午後零時四十五分敵の歩兵約一旅團黃臘坨子より頭泡に向ひ前進し、其一部散開して五家子西北方約千米に達す、乃ち第九第十中隊の全部を西北端に散開して此敵を射撃せしも敵は一部を以て應射し、其主力は依然黑溝台に前進せり、二時頃在頭泡後備歩兵第二聯隊第五中隊の蘇麻堡に向ひ退却するを見、直ちに一小隊を頭泡に派遣す、同小隊は頭泡に進入し得しに因り、第十中隊の一小隊を

屬し直ちに前進し其北端を占領す、當時種田大佐よりも敵の右側背を脅威せんことの希望あり、恰も敵は黑溝台を攻撃中にして其右翼我前面四、五百米に在り、乃ち猛烈に其側面を射撃するや敵兵頗る混亂して約千米退却し其右翼を守勢鉤形を爲して再び抵抗せり、三時頃より益々増加し右翼を延伸して我を包圍せんとし、且つ黑溝台を射撃せる砲八門は目標を同村に變換し更に四門を加へ砲撃し、村内に火災を起し六時我左側背四百米に達す、我兵勇戰奮闘せるも漸く苦境に陥れり、然れども銃聲漸次衰へ且つ日没に至りしが故に七時十分運動を起し、七時二十分五家子に集合す、九時五十分黑溝台に派遣せし傳騎歸來し、黑溝台既に敵手に歸せるを知り、師團長の命令に依り一部を三尖泡、江家窩棚に殘し倭二堡に歸還宿營す。

小原中佐は黑溝台附近の情況切迫するや、午後四時在狼洞溝後備歩兵第八旅團に増援を請ひ、尋で五時三十分に至り同旅團より目下古城子に到着せるも第八師團長の命令なければ赴援するを得ずとの回答あり、當時黑溝台及頭泡は益々苦境に陥り、六時より七時に至る間敵の砲火特に猛烈を極む。

種田大佐は増援隊の來著するに非ずんば黑溝台を維持すること能はざるを察し、午後七時退却に決し機關砲二門を退却せしめたる後命令を下し、騎兵二小隊及後備歩兵第二聯隊第四中隊を退却掩護に任じ、諸隊を黑溝台南端に集合し、尋で蘇麻堡を経て古城子に退却せしむ、乃ち本隊は夜に乘し徐ろに手馬の位置に退き、八時三十分黑溝台南端に集合の後出發せり、而して後備歩兵第三十一聯隊長は七時種田大佐と協議し、退却準備中八時二十五分在大台後備歩兵第八旅團長岡見少將より第八師團は大新庄子附近に集合し、明日狼洞溝北方より敵を南方に撃退する豫定にして、種田支隊は自今後備歩兵第八旅團に屬す、貴隊は黑溝台を固守するを要せず、夜に乘し倭二堡

若くは除家窩棚方向に退却すべき命令に接し、之を種田大佐に通報し、九時第一第五第六中隊をして蘇麻堡より迂回し第二大隊（第五第六中隊欠）を後衛とし老橋を経て共に古城子に向ひ退却せしむ、然るに假棚帯所の傷者の後送未だ終らざるものありしに依り、後衛司令官たる第二大隊長小友少佐は第八中隊の一分隊をして敵を拒止せしめ、衛生部員及輕傷者を處理せしも此時敵兵既に黒溝台南側より侵入し、約三十米に近接し又敵の騎兵北方より我退路に迫り後衛は殆ど敵の重圍に陥りしも、辛ふじて血路を開き十一時古城子に到着し、本隊の同地に着せしは實に約十分前なりき、此夜古城子に宿營す。

此戦闘に於て死傷總計約一百（内俘虜將校一、下士卒十八）露軍は西伯利第一軍團にして其死傷將校四十五、下士卒約一千なり云ふ。

5 友軍の状況 第八師團長立見中將は黒溝台、頭泡附近の敵情を知り、午前十一時後備歩兵第八旅團山砲兵一中隊を狼洞溝東南方に緊急集合し諸隊をして出發準備を整へしめ、同時二十分後備歩兵第八旅團長岡見少將に訓令するに敵若し猛烈に攻撃し來らば師團は沈且堡、大台、佟二堡の線に於て之を遮撃せんす、依て其旅團は縦ひ獨斷前進するも古城子の線より進出すべからざる旨を以てせり、然るに正午總司令官より勉めて多數の兵力を以て直に前進し、黒溝台及韭菜河子方面の敵を攻撃すべき命令あり、當時黒溝台附近に現出せる敵は約一師團にして同地を守備する種田支隊は僅に騎兵四中隊歩兵一中隊に過ぎざるが故に永く之を支持する能はざるは明瞭なり、然れども師團の諸隊は廣地域に敷在して宿營せるが故に狼洞溝附近に集結を終るは七、八時間を要し適時黒溝台に赴援するの望なく、さりとて後備歩兵第八旅團若くは師團の一部を以て救援するは各個に敵の撃破す

る所を爲る虞あるを以て種田支隊を佟二堡若くは古城子方向に退却せしめて敵を該方面に誘致し、師團の全力を以て之に對するを得策なりとし、之を總司令官に報告するに共に、騎兵第五聯隊一部の配屬を請求し、又後備歩兵第八旅團を除く他の諸隊を大新庄子西方に集合せしむ、午後二時四十分に至り總司令官より黒溝台附近の種田支隊を其令下に屬するの命令あり、乃ち師團長は種田支隊に黒溝台を死守せず、夜に乗じ除家窩棚若くは佟二堡方向に退却し爲し得れば敵を該方向に誘致すべく訓令したり。

是より先後備歩兵第八旅團は午後二時三十分狼洞溝東南に集合せしも、在古城子後備歩兵第三十一聯隊より黒溝台は優勢なる敵の包圍する所となり、苦戦中なるの報及其來援を請ふに會ひ、獨斷を以て直に古城子に向ひ前進す。

第八師團長は午後六時大新庄子に到る途中、後備歩兵第八旅團の古城子に前進せんことを報告に接し、更に命令するに同旅團は主力を大台附近に置き、沈且堡守備隊の左翼より金家窩棚に互る間を警戒し、別命ある迄此線以外に進出すべからざることを以てし、歩兵第四旅團（第五聯隊第三大隊欠）を后小烟台及其附近に、歩兵第十六旅團を龍灣及其附近に、砲兵第八聯隊（一中隊欠）工兵第八大隊第一中隊を大新庄子及其附近に宿營せしむ。

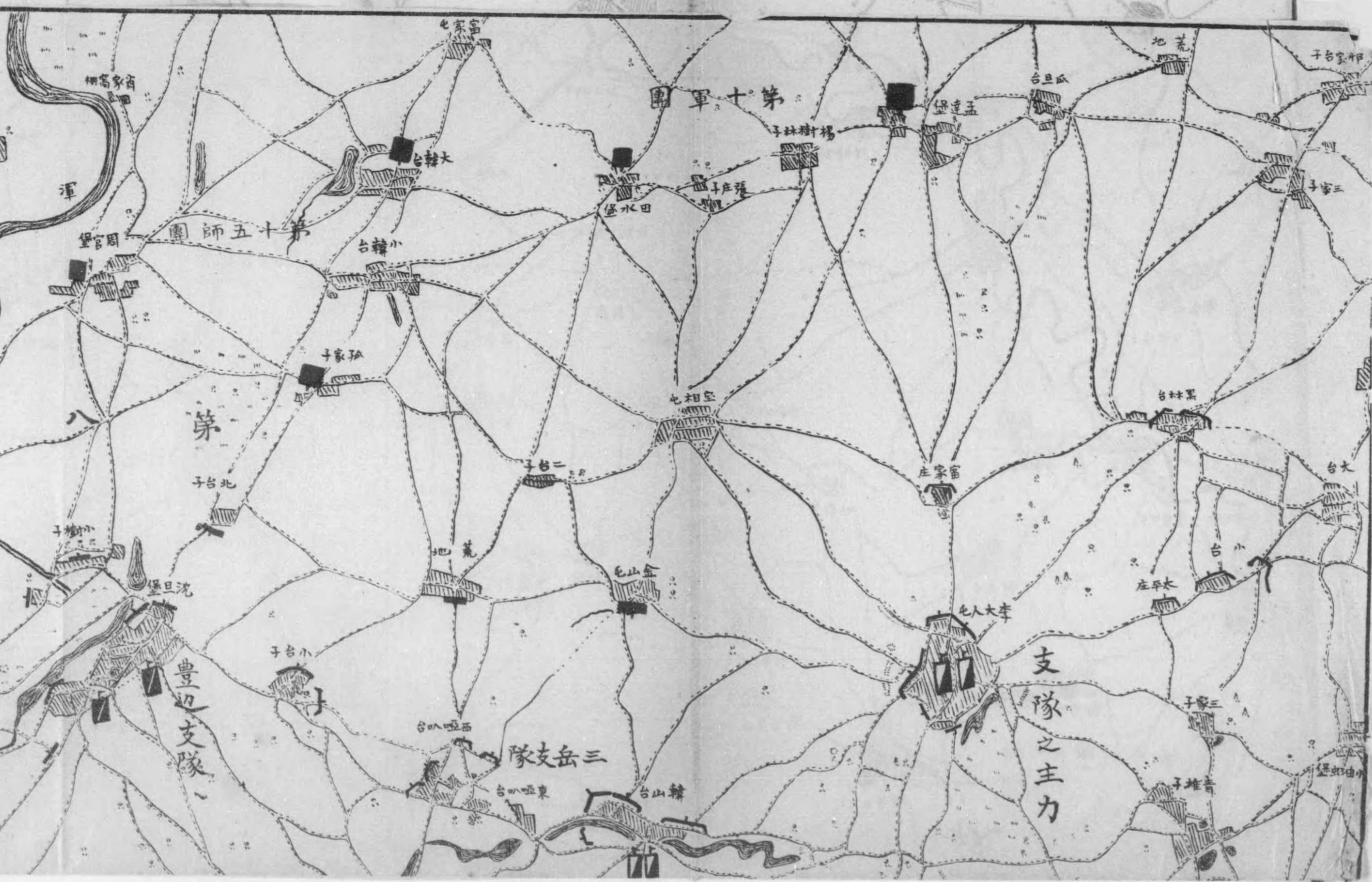
夜に入り更に明日黒溝台方面の敵を撃攘せんことを欲し、命令を下し諸隊をして古城子より金家窩棚に互る線に前進せしめ、此夜午前零時三十分砲兵第八聯隊第六中隊の到着するや、直に之を古城子西北端附近に蘇麻堡方向に對し放列を布かしむ。

七台子の守備たる後備歩兵第三十五聯隊第三中隊及騎兵第五聯隊第一中隊は午後四時頃より優勢なる敵襲を受け七時二十分頃に至り歩、騎兵約千五百村落に闖入し衆寡敵せず、歩兵は小北河に騎兵中隊は三家子に退却せり。媽々街の守備たる後備歩兵第三十五聯隊第四中隊及同第五中隊（第五中隊は當地守備交代の爲正午十二時到着せるもの）は午後三時三十分より優勢なる敵の攻撃を受け、午後八時混戦亂闘死傷續出殘兵は僅に血路を開き、此夜午前一時二十分小北河に退却せり、中隊長高橋大尉、白土中尉外下士卒二十一名戦死河野中尉以下下士卒二十五名負傷外に下士以下十五名俘虜せられたり。

騎兵第二旅團は吳家崗子に在りて、午後零時五十五分砲六門を有する敵の騎兵八、九中隊より數次の來襲を受け猛烈に奮闘之を撃退せるも其後益々敵の攻撃激烈となり、奮戦陣地を固守し四時三十分及び、然るに全般の敵火毫も減衰せざるのみならず、約一聯隊は右側背に侵入し永く現陣地を固守するときは其包圍を受け、日没前全滅に陥らんことを慮り、四時五十分第一線諸隊をして猛烈に射撃せしめ、諸隊は五時五十分海州窩棚に退き隊伍を整頓し、七時四十分創台子に到着宿營し、明日吳家崗子に向ひ前進し該方面の敵を牽制し、第八師團の黒溝台攻撃を容易ならしめんとするに決せり、此戦闘に於て死傷將校以下四十一名、馬匹十七頭、費消彈藥約三萬三千發、露軍はミシエチンコ騎兵團の右縱隊にして、高加士騎兵旅團「ドン」哥薩克騎兵第二十五聯隊、騎砲兵第二十中隊「ドン」哥薩克騎砲兵第三中隊、機關銃四挺にして混亂敗走したるは「ドン」哥薩克騎兵第二十五聯隊なり。



第六圖



第十軍團

第五十師團

第

支隊之主力

豐邊支隊

三岳支隊

渾

官周堡

大轉台

小轉台

孤家子

北台子

小樹子

沈旦堡

小台子

西咀台

東咀台

隸山台

空相屯

二台子

荒地

金山屯

富家庄

李大人屯

水平庄

三家子

青堆子

油油堡

黑林台

大台

小台

五塔堡

楊樹林子

張庄

田水堡

瓜旦台

荒地

柳家台子

三家子

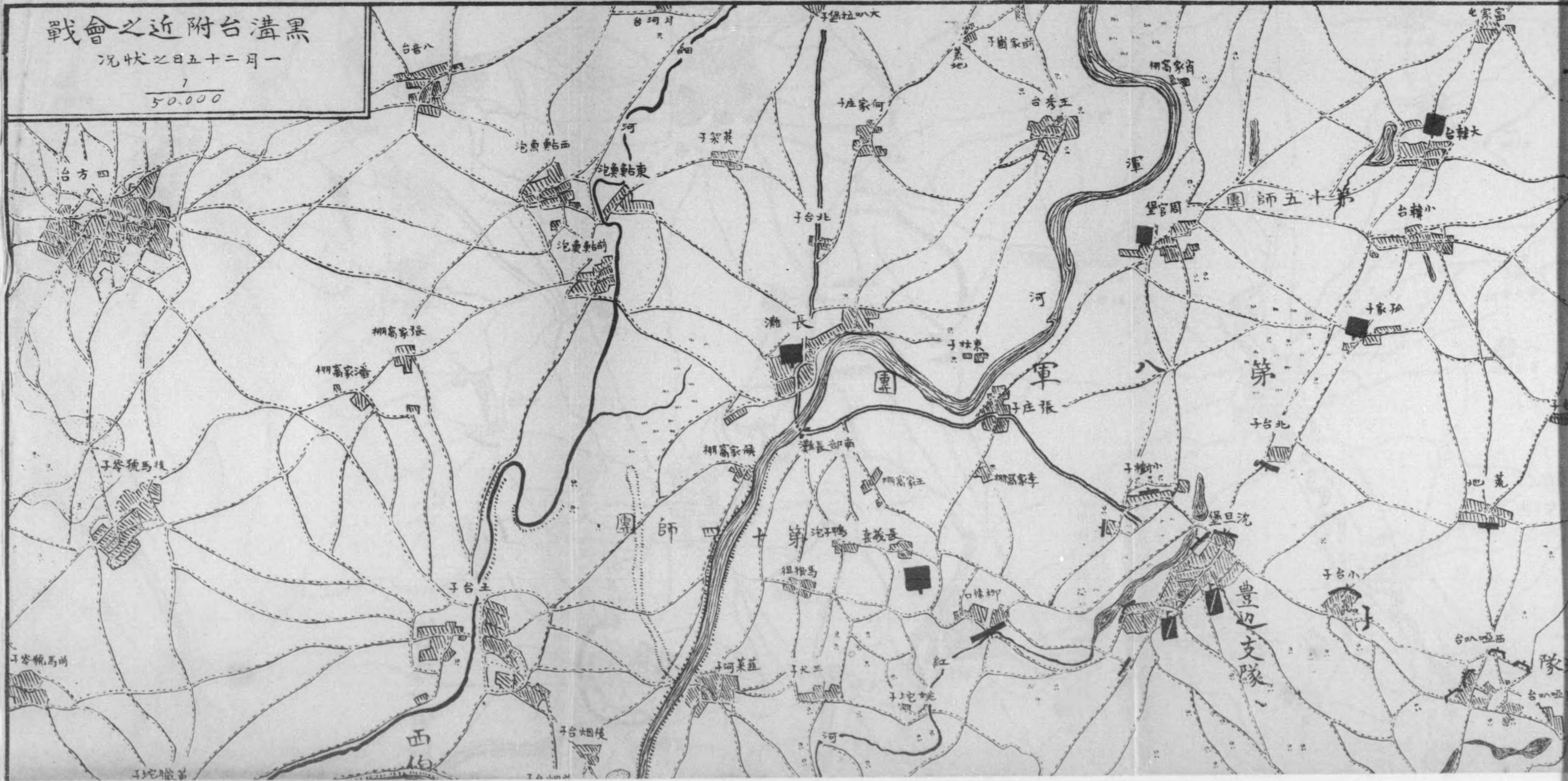
高家堡

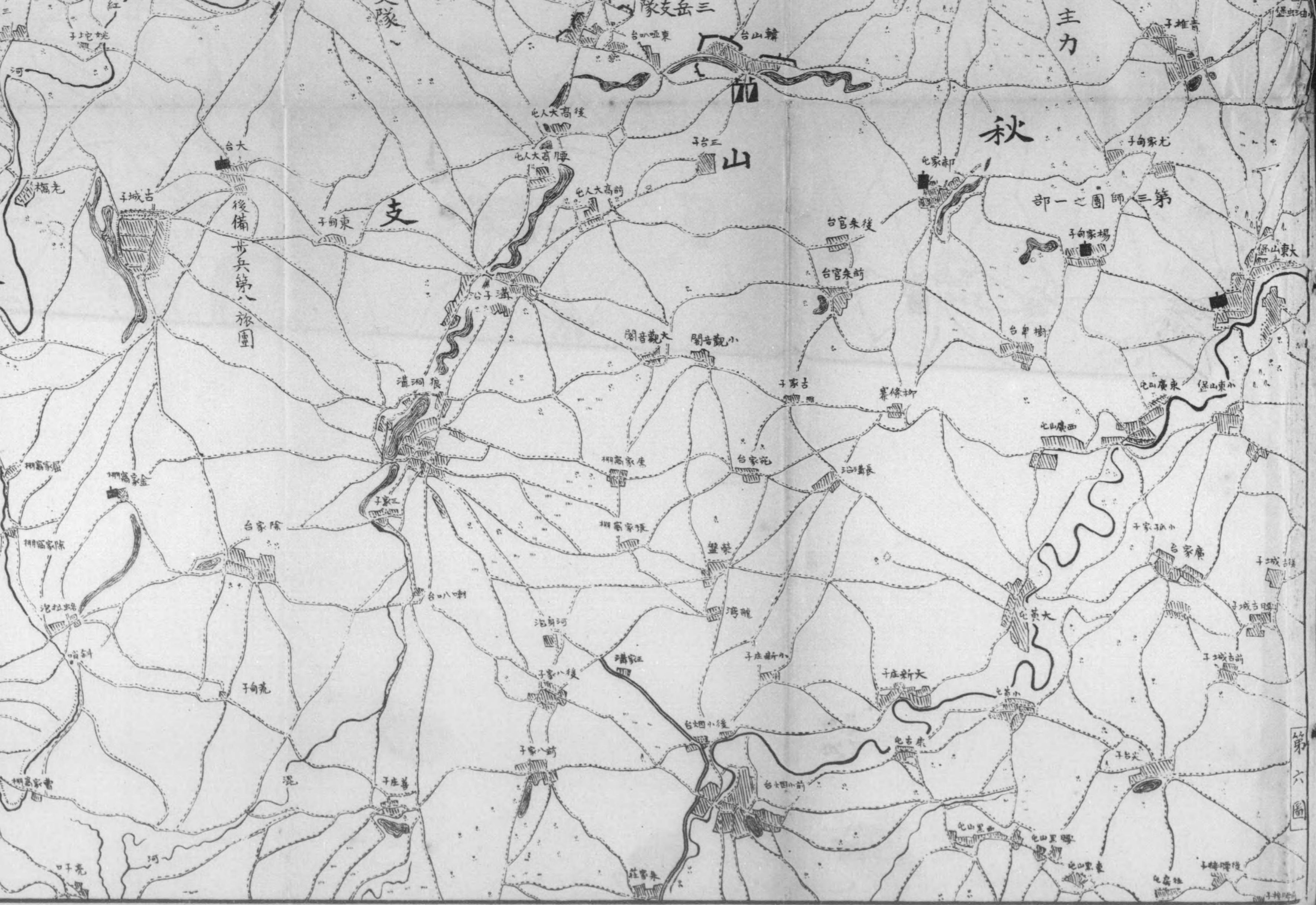
官家屯

黑溝台附近之戰會

一月二十五日之狀況

1
50,000





支岳三

主力

秋

支

後備步兵第一旅團

部一之團師三第

第六圖

子地桃

台大

化人大高後

子台三

子向家尤

樞光

子城古

化人大高腰

化人大高前

化家却

子向東

台官朱後

子向家楊

後備步兵第一旅團

台子漢

台官朱前

台車樹

閣音觀大

閣音觀小

保山東大

灌洞狼

子家古

寨條柳

化山東東

保山東小

柳高家屋

柳高家金

柳高家屋

台家苑

沿溝長

化山西

柳高家隊

台家除

柳高家隊

盤榮

子家孤小

台家廣

子城古後

泡拉路

台八喇

沿河

灣龍

化黃大

子城古前

子向荒

子家八後

子庄新小

子庄新大

子城古前

柳高家書

混

子庄善

子家八前

台四小後

化古康

子台大

子亮

莊家朱

化山黑西

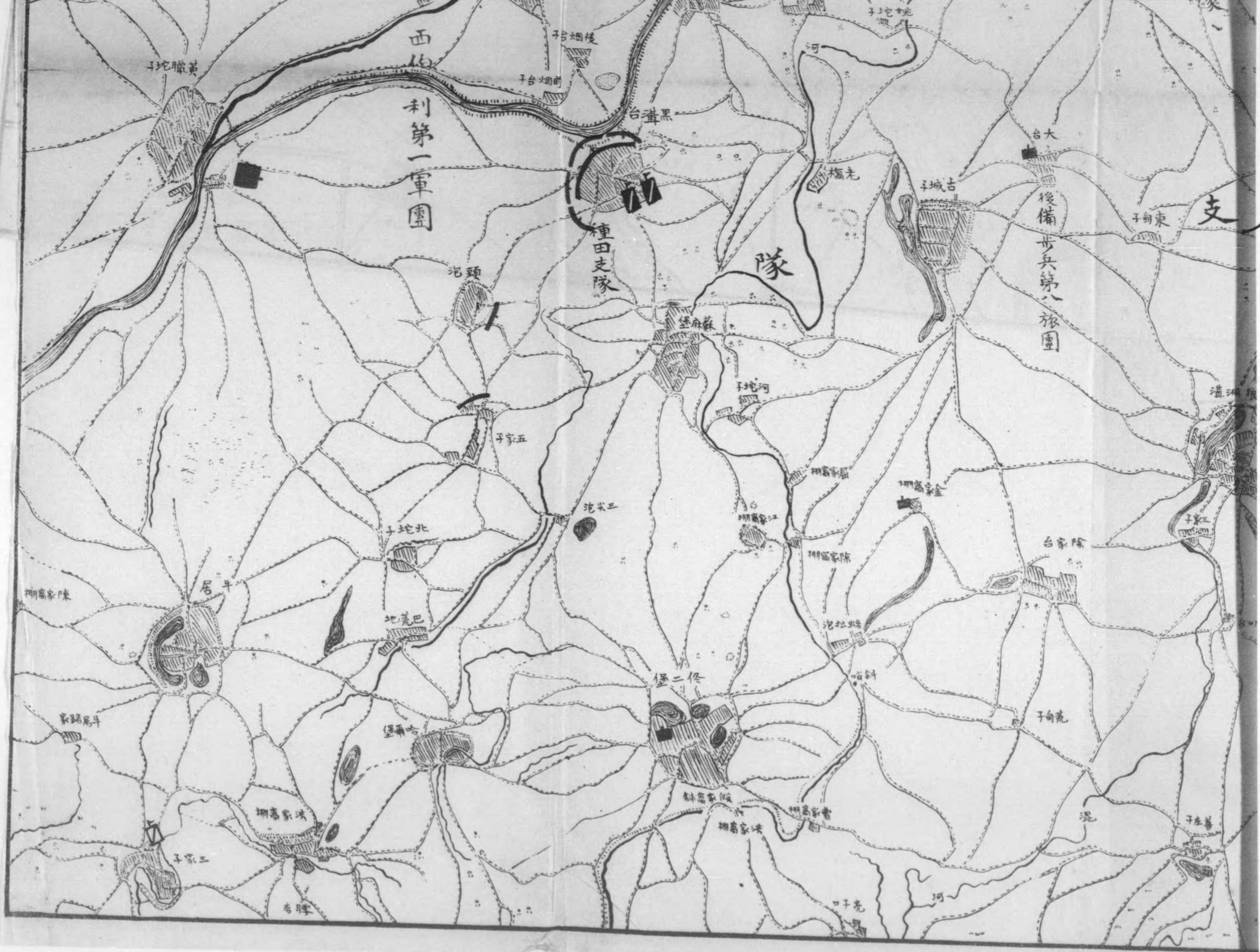
化山黑中

化山黑東

子轉障後

化家姓

子轉障前



西伯利第一軍團

種田支隊

隊

後備步兵第八旅團

支

子坨臘黃

子台烟後

子台烟前

台葦黑

梅光

子城古

台大

子甸東

泡頭

堡麻蘇

子地河

子家五

泡米三

子坨北

子坨江

柳窩家麻

柳窩家金

台家除

柳窩家陳

居牛

地美巴

柳窩家陳

泡拉路

塔斜

堡二佟

子甸亮

家路尾斗

堡麻哈

柳窩家陳

柳窩家香

柳窩家洪

子家三

台驛

子亮

河

子庄善

一月廿六日の状況 (夜來の降雪歇まず)

軍司令官は秋山支隊方向の情況を知得し目下の戦況上沈且堡の絶大なる價値あるに拘はらず、守備隊薄弱なりしに依り午後零時四十分兒玉少將をして其令下の内歩兵一聯隊(一大隊欠)砲兵一中隊を以て速に豊邊支隊を救援せしめ又砲兵彈藥半縱列を秋山支隊に屬す、然るに楊樹林子、寶相屯間の敵砲兵約三中队李大人屯を射撃し又瓜旦台西側の敵砲兵黑林台及富家庄附近を射撃し富家庄の歩哨は遂に本陣地に退却せるを知り、三時更に兒玉少將令下の機關砲六門を秋山支隊に増加せり。

1 李大人屯方面の状況

支隊主力は前夜敵兵富家庄を占領せるに依り嚴に其來襲に備へしも、爾後敢て前進せず、唯午前四時頃其歩兵二、三十黑林台前に來襲せしも我前哨之を撃退し拂曉騎兵第三聯隊は敵兵富家庄を棄て其北方千米の散兵壕に二、三の監視兵あるを知り直に第一中队の二小队を前哨とし同地に派遣す、夜來降雪續紛として遠く展望する能はざるも黑林台並に富家庄の前面共に靜穩にして敵の大部隊の行動を見ず九時支隊長 諸隊に命じ敵襲に際しては其陣地を固守し至嚴の戦備を整へ前面の搜索に努めしむ、當時支隊長は諸情報を綜合し敵兵金山屯、荒地、北台子、柳條口、韭菜河子、黑溝台、頭泡に互る線に在りて其後續部隊未詳なるも金山屯、荒地方面に約一旅團、柳條口、黑溝台方面に約一師團半ありと判断せり、十時三十分頃敵の砲兵約一中隊楊樹林子東側より富家庄を猛烈に射撃せるに依り、騎兵第三聯隊は在富家庄の前哨を將校以下約十騎に減じて其他を李大人屯に招致す十一時頃敵の砲兵李大人屯に射向を轉じ同五十分歩兵二、三十北方より富家庄に前進し幾

も無く砲兵約二中隊楊樹林子、寶相屯、李大屯、韓山台を射撃し富家庄の前哨は午後零時三十分木陣地に退却す一時敵砲兵各約一中隊三家子東南端及瓜旦台南端より黒林台に向ひ射撃を開始す、二時頃更に重砲二門邢家台子附近より黒林台並に小台附近を射撃し黒林台の前哨小台に退却するや同時三十分敵の歩兵約百、騎兵約三十黒林台に、歩兵一中隊富家庄に侵入し三時三十分富家庄の敵兵前進の状ありしも我砲兵中隊の射撃に依り村内に退却す、四時頃歩兵約一大隊白砲一門孟達堡より富家庄に侵入し同時歩兵約一大隊、瓜旦台東側に、同一、三中隊富家庄、黒林台の中間に停止し尙ほ騎兵一中隊黒林台に侵入す、又五時三十分歩兵約六中隊楊樹林子より寶相屯に前進せるも其後進來の状無く敵の砲火も日没に至り全く終熄せり。

支隊長は敵の夜襲を慮り各隊をして嚴に之に備へしめ、且つ歩兵第十七旅團より増援の機關砲六門の到着したるに依り歩兵第九聯隊に屬せり、然れども情況概ね靜穩にして時々富家庄南端附近に防禦工事を施し打杭の音響を聞くの外彼我斥候の衝突に過ぎず。

2 韓山台方面の狀況

三岳支隊方面は夜來情況變化なく天明の頃小數の敵の歩騎兵金山屯、荒地北台子間を頻繁に往復せるのみ、然れども三岳中佐は啞叭台の守備を嚴にし且つ沈旦堡との連絡を確實にせんと欲し、騎兵第九聯隊長平佐少佐をして其騎兵一中隊を率る啞叭台に到り同地の守備隊を合せ指揮せしむ、乃ち平佐少佐は第一中隊と共に午前八時韓山台出發、西啞叭台に移り同地の護隊（歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊、後備歩兵第三十一聯隊第四中隊、騎兵第九聯隊第二中隊の一小隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊、同第八大隊第三中隊の一小隊）を指揮し情況依然靜穩なりしも至嚴の戰備を整へ敵の來襲に備へたり、而して前夜、來援せる歩兵第

十八聯隊第一大隊は見玉少將の命に依り其第一中隊を韓山台に残置し早朝原隊に復歸す、然るに午後二時砲二門北方より寶相屯に、歩兵四、五十同地より金山屯に侵入し約一中隊李大屯に對し同村東側に散開し二時砲兵約一中隊寶相屯東方より熾に韓山台を砲撃し、四時三十分其歩兵一中隊二台子より荒地に侵入す、又他の歩兵約一中隊金山屯、荒地間の凹地に現出し五時散開せる歩兵約一中隊金山屯より韓山台に向ひ前進す、依て騎砲兵小隊は射撃を開始し之を金山屯に撃退す五時三十分頃敵砲四門二台子附近より韓山台及東、西啞叭台を射撃し其歩兵約一中隊二台子より荒地に進み、二台子東端森林に向ほ他の歩兵約一大隊半あり、又此頃歩兵約一大隊半楊樹林子より寶相屯に前進し前面の敵情稍活氣を呈するに至りしも金山屯、荒地の線に停止して前進せず、其砲兵も亦日没に至り射撃を止む、支隊は夜に入り戰備を嚴にし平佐少佐の率る部隊は工兵二小隊を以て西啞叭台北北部に防禦工事を施せり。

朝に於ける
配置

3 沈旦堡方面の狀況

豐邊支隊方面は夜來靜穩なりしも嚴に戰備を整へ後備歩兵第二聯隊第一大隊（第四中隊及第二中隊の一小隊欠）〔石關少佐〕は其第三中隊を以て沈旦堡西南端堡壘を守備し、同第一中隊を小樹子に置き西北方に對し警戒し殘餘は木守備線内に置き第三十一聯隊第二中隊（一小隊欠）は沈旦堡北端北台子に通ずる道路の兩側堡壘を其一小隊は南部沈旦堡西南端を警戒し、工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊及騎兵第十三聯隊第三中隊（徒歩）は稻葉工兵大尉指揮して小台子を守備し、騎砲兵中隊（一小隊欠）は沈旦堡東北端の陣地に就き騎兵第十三聯隊第一中隊の一小隊（徒歩）は騎砲兵の掩護に任し同第十四聯隊第三中隊（一小隊欠）は沈旦堡西端砲兵陣地の兩側堡壘を其一小隊は北台子にありて（北台子は前夜半

午後の状況
敵の大部
隊漸次近接す

敵手に委せしも其後回復せり。北方に對し警戒し、騎兵第十三第十四聯隊の殘餘は豫備隊となり沈且堡東部（騎兵第十四聯隊第一第四中隊は西南部沈且堡を準備す）に置き機關砲各一門を沈且堡西北端及西端騎砲兵陣地の南側堡壘に配置し以て敵の來襲に備へり。

夜來の降雪の爲め搜索甚だ困難を感じしも午前九時三十分豊邊大佐は敵の歩兵約一旅團柳條口東端より大台方向に行進。我左側背に迫るを知り、且つ在西南部沈且堡騎兵第十四聯隊第四中隊より敵の歩兵約一旅團柳條口、三夫子の中央より老橋方向に行進し其先頭午前九時二十分既に老橋附近に達し、又彼我不明なるも約一旅團の歩兵韭菜河子方向より古城子方向に行進中なる報を得、直に各隊をして其守備を嚴にし敵の近接を待たしむると同時に騎砲兵中隊（一小隊欠）を沈且堡南端の陣地に轉し且つ西南部沈且堡に位置せし騎兵第十四聯隊第一第四中隊（第四中隊の一小隊は後備歩兵第三十一聯隊第二中隊の一小隊と共に西南部沈且堡西端に在りて警戒に任す）をして木守備線内に後退せしめ、同第十三聯隊第二中隊の一小隊を騎砲兵の掩護に任し、同中隊（一小隊欠）及第四中隊の二小隊を以て沈且堡東北端堡壘の守備に任せり、此時第八師團は尙ほ古城子附近に在るものゝ如くなるも未だ該方面に砲聲を聞かず、而して柳條口より大台方向に前進中の敵の先頭午前十時西南部沈且堡の西南約千五百米に達せしも小台子、北台子、小樹子方面の敵情概して靜穩なり、然るに十時三十分頃古城子方向に砲聲起り、次て騎砲兵中隊は霏々たる降雪中大台方向約八百米を我側背に前進する敵に向ひ射撃を開始するや多數の死傷者を遺棄し、柳條口方向に潰走し其大部は紅河の線に停止す十一時二十分其砲兵約三中隊王家窩棚及李家窩棚附近より沈且堡を射撃するこゝ極めて猛烈なり。

正午以後の
状況
敵砲彈の
彈巢を爲す

正午頃歩兵約二中隊孤家子より北台子に前進し同地の我騎兵小隊は沈且堡本陣地に退却せり、然れども北台子以南に前進の狀無きが故に豊邊大佐は東北端堡壘に在りし騎兵第十三聯隊第二（一小隊欠）第四（二小隊欠）中隊をして守備を徹し豫備隊に入らしめ、騎砲兵中隊の一小隊を沈且堡西側に陣地を變換せしむ、午後一時頃敵の砲兵約一中隊更に張庄子北端附近に現はれ沈且堡を射撃す、茲に於て同地は敵砲三、四十門の射撃する所となり殊に周官堡附近のものは十五冊米重砲約四門にして家屋及堡壘を破壊し、爲に我人馬の死傷續出す、一時二十分豊邊大佐は在西南部沈且堡警戒隊より柳條口方向より前進せし敵の歩兵一中隊我陣地の西方約八百米に散開し、約二中隊其後方に續行すとの報に接し直に西端陣地の騎砲兵小隊をして之を砲撃せしめ、且つ騎兵第十四聯隊第四中隊長土屋大尉を西南部沈且堡に派遣し該地の歩騎兵各一小隊を指揮し極力之を拒止せしむ、此時李家窩棚附近の敵砲兵其火力を西南部沈且堡に集中し散開せる歩兵も亦徐々に同地に攻撃し來れり。

豊邊大佐は午後一時五十分第八師團長より後備歩兵第八旅團を以て老橋及其南方より、歩兵第四旅團を以て蘇麻堡方向より黒溝台附近の敵を攻撃すとの通報に接し、尋て秋山支隊長より増援として歩兵二大隊、砲兵一中隊、工兵一小隊を派遣すべく、依て該増援隊は縦ひ敵兵退却するも遠く追撃せず、沈且堡を堅固に守備せしむべき旨の訓令を受く、二時四十五分頃柳條口方向の敵兵益々西南部沈且堡に迫り、他の歩兵約一大隊小樹子に向ひ前進し該地の後備歩兵第二聯隊第一中隊は少時抗戦の後三時沈且堡に退却し、爾後同中隊は主力を以て小樹子に對し沈且堡の西北端堡壘を守備し、其一小隊は支隊の豫備隊と爲れり、此時豊邊大佐は敵兵漸次沈且堡に攻撃し來るの狀あるを察し増援隊の急進を促し、且つ騎兵第十四聯隊第二中隊を西端砲兵陣地の南側堡壘に、同第四中隊一

午後に於ける状況
西南端沈且堡の放棄

小隊欠)を西南堡壘に後備歩兵第二聯隊第二中隊(一小隊欠)を南端堡壘に増加す、三時三十分後備部隊を有する敵の歩兵約三大隊柳條口より紅河に沿ふて西南部沈且堡に向ひ攻撃し、第一線は既に同地西南約六百米に達す此時沈且堡に對する敵の砲火頗る猛烈にして、西南部沈且堡土屋大尉の率ふる歩騎兵各一小隊は極力防戦せしも彈藥盡き四時頃遂に本陣地内に退却し西南堡壘に據れり。

敵の砲火は其後益々激烈にして其歩兵漸次攻撃の歩武を進め、四時二十五分頃小樹子より西南部沈且堡の南方に互り一連に散開せり、則ち豊邊大佐は西北端より南端に互る陣地の諸隊をして之に向ひ射撃を開始せしめ、騎砲兵中隊も亦同村の東南端及西端の兩陣地より銳意射撃せしも、敵兵多大の損害を冒し分れて西南部沈且堡小樹子とに侵入し、五時三十分頃西南部沈且堡のものは約一聯隊、小樹子のものは約二大隊を算し、西南部沈且堡の背後に更に歩兵約一聯隊續行するものゝ如し、依て豊邊大佐は豫備隊たる後備歩兵第二聯隊第一中隊の一小隊を西南端堡壘に増加し、東南端に在りし騎砲兵小隊をして本村東北端陣地より西南部沈且堡を砲撃せしめ、又騎兵第十三聯隊第二中隊(一小隊欠)を徒歩にて東端堡壘に據り、我砲兵の掩護に任し且つ東南に對し警戒せしむ、乃ち騎砲兵小隊は直に陣地を變換して本村東北端陣地に到り、西南部沈且堡を猛烈に砲撃し該村に火災を起さしむ、六時頃敵の歩兵約一旅團騎兵約二聯隊の大縱隊柳條口北方より張庄子方向に行進中なるを發見し、西端陣地の騎砲兵小隊之を砲撃して潰走せしむ、敵は其後敢へて前進せず其砲兵も亦日没と共に射撃を中止せり、六時四十分兒玉少將の急派せる増援隊たる歩兵第三十三聯隊(第一大隊欠)は村岡少佐之を指揮し、其先頭沈且堡に到着す。

4 沈且堡増援隊の状況

楊家甸子附近に集中し待機の姿勢に在りし歩兵第十七旅團長兒玉少將は、約混成一旅團の敵兵午前十一時三十分頃、柳條口方向より沈且堡西南部に向ひ攻撃し、豊邊支隊と交戦中にして黒溝台は既に約一旅團の敵の略取する所となり、第八師團の主力之に向ひ攻撃中なるを知り、直に歩兵第三十三聯隊(第一大隊欠)砲兵第一中隊、工兵第二中隊の一小隊を村岡少佐に指揮せしめ沈且堡に急派せり、該増援隊は第三大隊を早川少佐に指揮せしめ、前衛とし郝家屯、三台子、後高大人屯を経て沈且堡に向ひ急行せしめ、其他を以て本隊とし之に續行せり、則ち前衛は第九中隊を前兵第十一中隊の一小隊を右側衛、第十中隊の一小隊を左側衛とし三時楊家甸子を出發して四時二十分其先頭後高大人屯に達す、時に沈且堡は數所に火災起り、彼我の銃砲聲頗る熾烈なり、茲に於て暫く停止し豊邊支隊に連絡して該地の情況頗る急迫し、東北部沈且堡に對する敵火猛烈にして危険なるも、西南部沈且堡方面に前進するこゝの容易なるを知り、四時三十分第九第十第十一中隊を第一線、第十二中隊を第二線とし散開して西南部沈且堡に向ひ前進し、本隊の第二大隊は一列横隊の二線となり前衛に續行す(砲兵第一中隊及其護衛たる工兵小隊は積雪のため行進遅延す)五時頃前衛の先頭西南部沈且堡の東南約千五百米に達す、此時豊邊大佐より西南部沈且堡は既に敵手に歸し、今や支隊は殆ど敵の包圍中に在るが故に、増援隊は東北部沈且堡に向ひ急進すべしとの命令に接せしも、當時該隊は西南部沈且堡より敵火を受くること甚だしく、今より東北部沈且堡に直進せば、却て救援の時機後るゝ虞ありし、速に西南部沈且堡の敵に對すに決し、第三大隊は進みて同地南方約八百米に達し敵の右翼に向ひ射撃を開始せり、時に日既に没し該地の敵火稍衰へしを以て、同大隊は漸次方向を變換して東北部沈且堡に向ひ轉進し、第二大隊は其右翼に連なり六時四

十分より七時の間に於て東北部沈且堡の東南端に集合を終り、砲兵第一中隊、工兵小隊は七時三十分沈且堡に到着せり。

豊邊大佐は増援隊の到着するや協力して沈且堡を固守するに決し、午後七時後備歩兵第二聯隊第一大隊（第二中隊の一小隊及第四中隊欠）同第三十一聯隊第二中隊を右關少佐に指揮せしめ北端の陣地に、歩兵第三十三聯隊第一大隊と第七第八中隊欠）を村岡少佐に指揮せしめ、西端砲兵陣地の北側堡壘より南端陣地間に、後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊、並に徒歩せる騎兵第十三聯隊第三中隊を工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）と共に小台子に、騎兵第十三聯隊第一中隊の一小隊を東北端の砲兵陣地附近に、騎砲兵中隊（一小隊欠）を東北端の陣地に、砲兵第三聯隊第一中隊及工兵第三大隊第二中隊の一小隊を西端陣地に、機關砲各一門を西北端及西端に配置し歩

兵第三十三聯隊第七第八中隊及騎兵第十四聯隊を豫備隊として村落の中央に置き徹夜警戒せしむ。當時敵兵小樹子附近に約六百西南部沈且堡に約一千あり、其他柳條口、王家窩棚附近に位置せるもの頗る多く、北台子方面に在りては日没頃歩兵約二中隊同地に侵入せるも、毫も前進の状なく、午後十時三十分頃に至り歩兵三、四十沈且堡北端の鐵條網破壊を企てしも、守備隊之を撃退し其後情況極めて靜穩にして夜半に至り小樹子及西南部沈且堡の敵兵柳條口及周官堡方向に退却しもの如し、此日豊邊支隊の損害は死傷百三十六名馬匹五十一頭なり。

5 友軍の状況 第八師團長立見中將は午前七時大台に到着す、當時師團は戰時定員を超過するに、銃數約二千七百にして尙ほ後備歩兵一旅團を有し、黑溝台附近の敵に比し優勢なるも黑溝台攻撃に際し、柳條口附近の

敵兵我右翼を危険ならしむるが故に有力なる豫備隊を備へ、隨時柳條口方面の敵に對し得べき處置を施し主力を以て黑溝台の敵を攻撃せんを欲し午前十時十分左の部署を爲せり。

- 一、右翼隊（長岡見少將、後備歩兵第八旅團（小北河守備たる第五聯隊第二大隊在沈且堡第三十一聯隊第二中隊在啞叭台同聯隊第四中隊欠）騎兵第八聯隊（第二中隊欠）は左翼隊に連繫し老橋及其南方の地區より黑溝台に向ひ攻撃す。
- 二、左翼隊（長依田少將、歩兵第四旅團、衛生隊半部）は直に屈家窩棚を経て蘇麻堡に向ひ前進し蘇麻堡、頭沱の線より黑溝台に向ひ攻撃す。
- 三、砲兵隊（砲兵第八聯隊、戦利野砲中隊、工兵第八大隊第一中隊）は老橋附近に於て韭菜河子及黑溝台に對し放砲を布置す。
- 四、騎兵支隊（騎兵第五聯隊（第一中隊欠）同第八聯隊第二中隊）は屈家窩棚より北坨子方向に進出し牛居守備隊と連絡して左翼隊の左側を掩護す。
- 五、豫備隊（歩兵第十六旅團）は古城子南方に位置し柳條口方向を搜索し且つ沈且堡の豊邊支隊に連絡す。

左翼隊は正午後備歩兵第十七聯隊を第一線とし、老橋南方より左翼隊に連繫して黑溝台に向ひ前進し、老橋の敵を攻撃するや敵兵益増加するを以て、同第五聯隊を其右翼に増加して攻撃するも益倍加し、我右翼を包圍せんとする狀にて難戰苦闘損傷甚しく、後備歩兵第三十一聯隊長戦死し、同第五聯隊長負傷し其他死傷將校二十三名、下士卒四百九十六名に達し、加之彈藥亦缺乏し奈何ともする能はず、霏々たる降雪中現狀を維持して日没に至り

紅河の線に後退す。

左翼隊は歩兵第五聯隊をして蘇麻堡を其右翼の目標とし、同第三十一聯隊を之に連繫して頭泡に向ひ、兩隊併列して十一時四十分前進を起し午後零時三十分蘇麻堡の敵を撃攘して之を占領し銃砲火を冒して邁進すも、前面殊に左側面の敵砲火猛烈にして損害續出し、敵前概ね九百米に達せしも攻撃意の如く進捗せず、當時敵の砲兵頭泡東北に約四門其東方に八門黑溝台西南端方向に約四門ありて熾に砲撃し、其歩兵は頭泡を右翼として東北方に互るが如きも降雪霏々として明ならず、午後二時十分砲八門黑溝台南端に現はれ豫備隊を急射し、尋て蘇麻堡を亂射し、又四門は黑溝台西南約一公里より歩兵第五聯隊第二大隊を射撃し、同時歩兵約三中隊頭泡東北端より同隊に向ひ射撃す、同大隊は黑溝台西南の敵砲兵を射撃するも其威力著大にして我損害甚だ多く、又敵の歩兵約三中隊黑溝台より前進して、第一大隊の右側を包圍し既に五百米に近接せるに依り、同大隊は敵の十字火を蒙るに至り加之三時三十分頃より黑溝台東端の敵砲八門、同大隊の右側を射撃し彈藥補充の小行李火線に近接せんとし其射撃を蒙り駄馬二十二頭死傷す、是時敵の歩兵四、五百我正面を斜行して右側背に向ひ攻撃し來たるに依り三、四百米に近づくを待ちて猛射し殆ど之を擧殺せり、然れども其後の攻撃意の如くならず現狀を維持して日没に至れり。

歩兵第三十一聯隊第二大隊は當初間隔を開きたる縱隊横隊となり、第一線の中央後約七百米に前進し、第一線の蘇麻堡、五家子の線に達するに及び、漸次六百米に接近す、此時俄然黑溝台方向より敵の砲火を受け損害尠からず、死傷續出し僅かに畑地に伏臥して之を避け日没に及びり。

歩兵第五聯隊第三大隊は左翼隊の豫備隊たるべき命を受け、佟一堡を出發し午後二時三十分北部五家子に達せしが、歩兵第三十一聯隊第一大隊の左翼に連繫し、頭泡西南端の敵に對し攻撃す、三時四十分頃より砲を有する騎兵の大部隊、歩兵約一聯隊を隨ひ北坨子方向に前進し、其砲兵は四時十分頃より歩兵第三十一聯隊の左側面を射撃するに至りしに依り、聯隊長小澤中佐は第一中隊を北部五家子の西端土壁に據らしめ、彈藥搬送手は傳令及從卒等を糾合して約八十の一隊を編成し以て最後の豫備隊となす、此時敵の砲兵一中隊黃臘坨子と牛居間より、又他の一中隊五家子西南二公里より猛烈に射撃し我損害頗る多大にして現狀を維持して日没を待つに過ぎず、殊に北部五家子は屢々砲彈の爲火災を起し慘害益々増大し、死傷將校七四名下士卒約半數に減じ二中隊に編成す。騎兵支隊は零時二十五分屈家窩棚出發一時頃北坨子に進出し、後備歩兵第二聯隊第五中隊（舊頭泡守備隊）を警戒に任せしが、敵砲兵の十字火を蒙り且つ歩、騎兵の牛居方向より包圍攻撃する所となり、午後六時頃三尖泡に退却せり。

豫備隊たる歩兵第十六旅團長田部少將は朝來大台附近に在りしが、午前十時三十分敵の歩兵約一大隊の同地北方八百米より俄然射撃を受け、直に右翼に在りし歩兵第十七聯隊第五第八中隊をして大台北端に據り攻撃せしむるや幾も無く柳條口方向に退却せり、依て第二大隊を同地に留め十一時二十分爾餘の諸隊を古城子南端に集合せしむ。

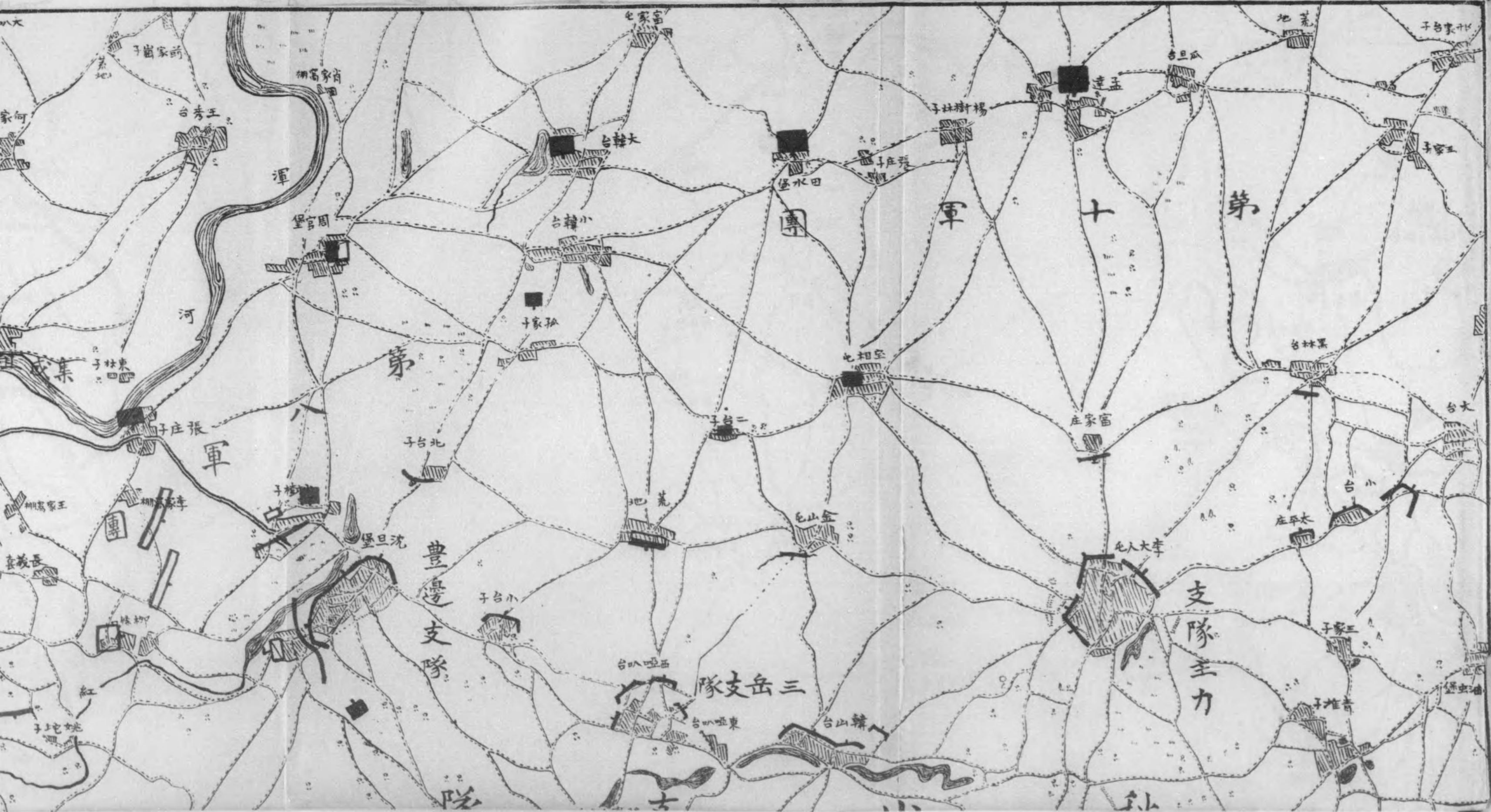
砲兵隊は老橋附近の敵を射撃し敵兵退却するや右翼隊は之を老橋西方紅河の線に追撃し同河の西方約四百米に達す、此間降雪甚しく視界を妨ぐるに乗じ二時三十分第一大隊より逐次老橋附近に陣地を變換し、黑溝台の周圍に

四圍に配列せる約三十門の敵砲に對し砲撃し、尋て右翼隊の紅河の線より前進するや黒溝台の敵歩兵を射撃し大に之を援助せり。

師團長は午後三時三十分沈且堡方向の形勢甚だ非なるを知り、豫備隊たる歩兵第十六旅團の大部を擧げて柳條口方向の敵を攻撃んとし、六時三十分頃概ね大台の線に展開前進せしも時方に黄昏を爲り此處に停止せり。

日没頃各方面の銃砲聲終熄し情況鎮靜なるも師團長は第一線諸隊を現在の姿勢を維持し夜を徹せしむ、乃ち右翼隊は老橋西方の現陣地を、左翼隊は蘇麻堡及五家子の線を占領して陣地を固守す。

朝來朔風雪を捲き終日歇まず、一望無限の平野は極目皚々村落の那邊に在るを知らず頗る方位を案するに苦しむ加之寒威凛烈午前六時攝氏零下九を下れり爲に大に戦闘動作を妨けたり、殊に左翼隊前面の敵に少くも一師團を算し、且つ其砲兵は遠く我砲の射程外に在りて威力を逞ふするに反し、我は據るべき地物なき雪中に暴露せるを以て損害頗る大なり、午後十一時總參謀長兒玉大將より第五師團をして明朝迄に狼洞溝附近に集合し、第八師團に増加せしむべき通報に接す、當時前面の敵は黒溝台を根據として我左側と同時に沈且堡を攻撃し、逐次我據點を略取するの企圖を有するが如し、依て師團長は全力を擧げて敵の根據地たる黒溝台を攻略し、以て其企圖を挫折するを急務とし同時三十分命令を下し、明日歩兵第十六旅團の主力を第一線に増加し、師團全力を擧げて黒溝台附近の敵を攻撃し、其一部を第五師團の沈且堡方向に進出する迄暫く古城子附近に留め不時の變に備へ、又第五師團狼洞溝に到着せば其主力を以て柳條口附近の敵を攻撃せしめ、尙ほ其一部を以て牛居附近の敵を撃潰せしめんとせり。



第十軍團

第八軍團

豐邊支隊

三岳支隊

支隊主力

河

子家富

子林樹楊

子庄張

子家孤

子庄張

子台北

子相空

庄家富

台林黑

堡官周

子台二

地荒

金山

化人大寺

台小

庄平水

堡旦沈

子台小

台以哇西

台以哇東

台以哇

子家三

子堆青

子家前

柳富家前

七家富

地荒

子家十

台瓜

子庄

子家五

子林東

柳富家王

套拔長

子宅姚

堡空油

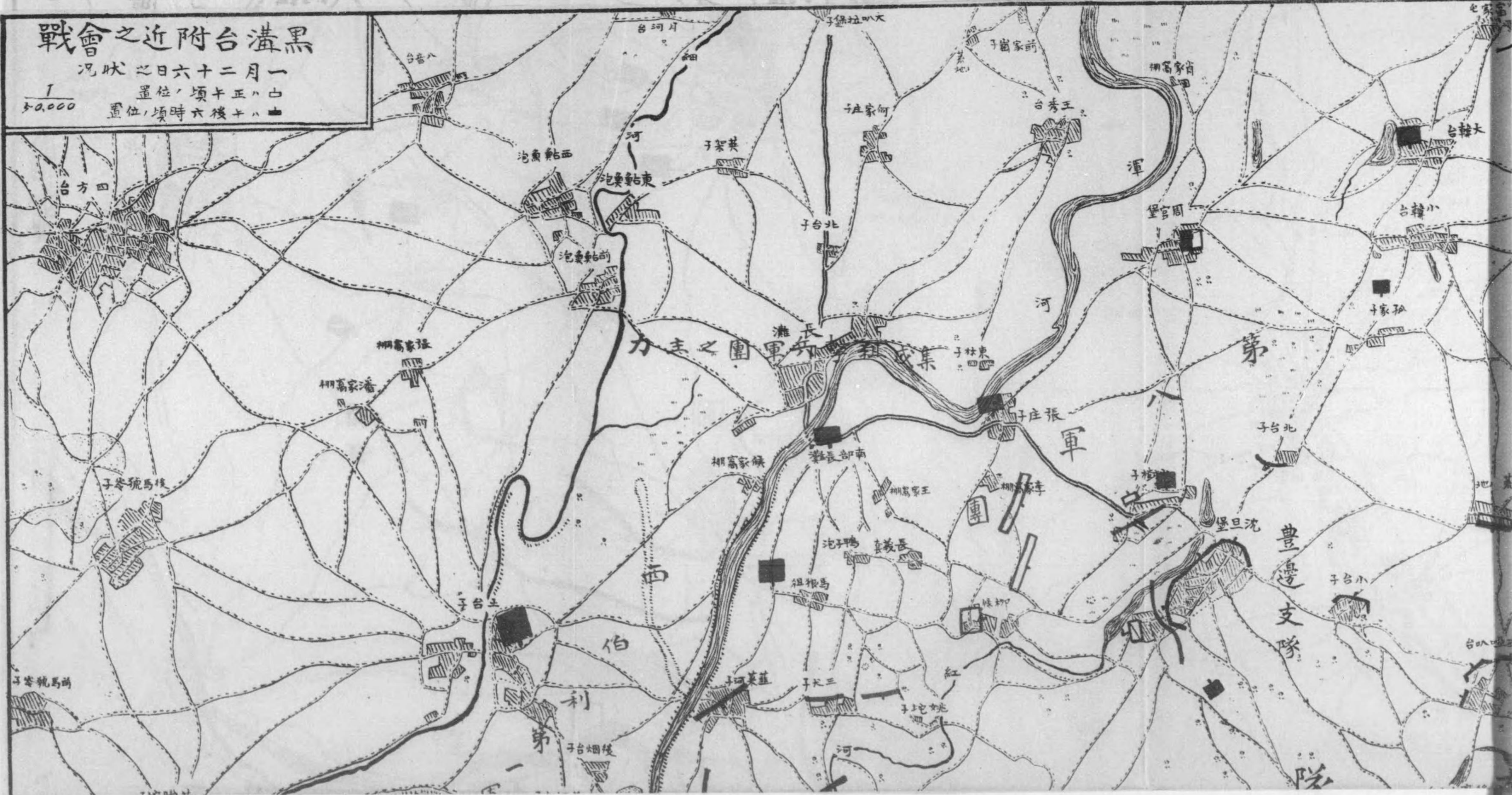
戰會之近附台濛黑

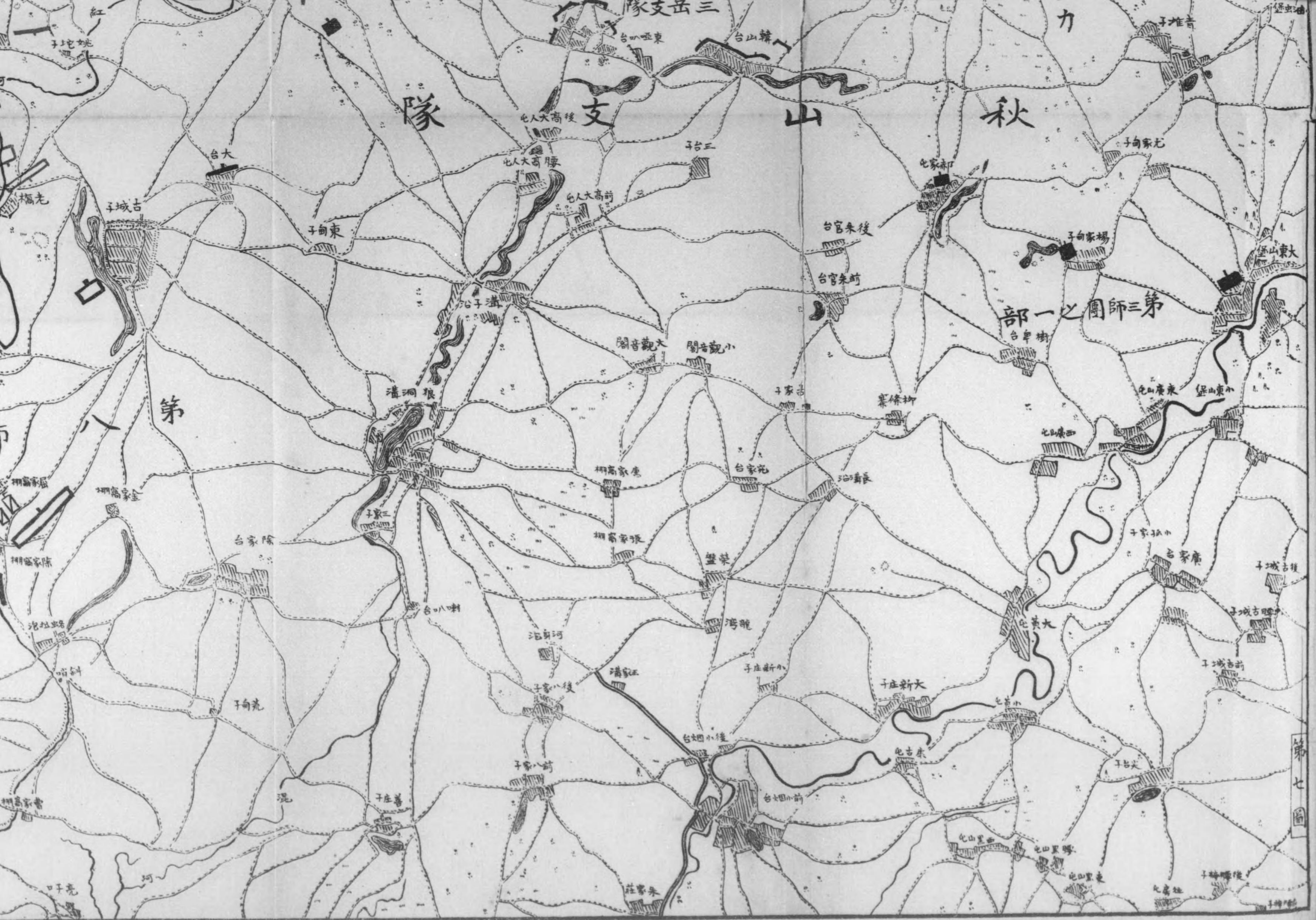
況狀之日六十二月一

置位，頃十五八

置位，頃時六後十八

1
50,000





隊

支

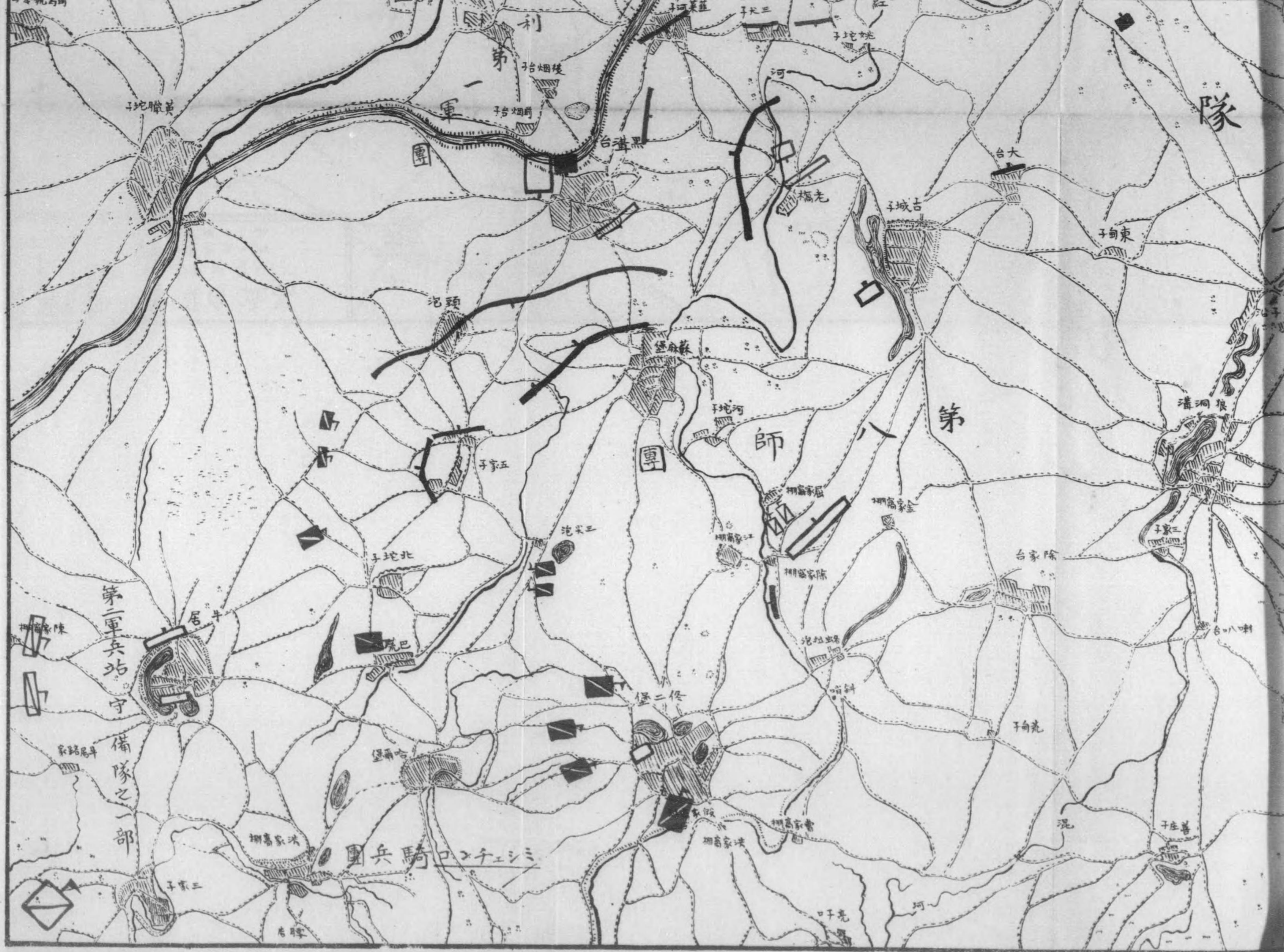
山

秋

部一之團師三第

第

第七圖



隊

利

第一

師

第八

團

第二軍兵站守備隊之一部

團兵騎コ>チエシ

子地職黃

子地姚

子台烟樓

子台烟前

台蓋黑

橋老

子城古

台大

子甸東

泡頭

堡蘇蘇

子地河

子家五

泡尖三

子地北

棚窩家陳

棚窩家金

台家除

灌洞狼

子家三

居牛

堡巴

堡二佟

泡拉虫

哨斜

子甸亮

家路尾牛

堡南古

棚窩家洪

棚窩家洪

棚窩家曹

混

子庄善

子家三

右驛

子亮

河

第二軍兵站守備隊に屬する牛居——小北河間の各守備隊は此日多くは敵騎の驅逐する所となり、牛居守備隊は狼洞溝に退却し其他も個々に退路を求めて退却し、敵騎は此夜斜哨、巴荒地、後二堡を占領し該地に宿營せり。
小北河方面は靜穩にして、騎兵第二旅團は此方面にありて行動せるも戰鬪を交へることなく、是夜創台子に歸還し宿營す。

一月廿七日の状況 (降雪歇まず)

軍前面の敵は朝來砲兵を以て各方面を射撃し、殊に瓜旦台、寶相屯、金山屯附近の約二十四門は小台、李大人屯、東啞叭台を射撃するこゝ猛烈なりしに依り、軍司令官は李大人屯の秋山支隊長の請を容れ、午前十時三十分歩兵第十八聯隊第一大隊を箕形少佐に指揮せしめ三台子に派遣し韓山台、啞叭台の三岳支隊に増援するの準備に在らしめ、且つ陳家柳塘溝の戦利臼砲中隊をして李大人屯附近より射撃せしめんと欲し、午後十時秋山少將に命ずるに陣地の構築を以てし、該砲兵中隊を東部揚家灣に招致す。

1 李大人屯方面の状況 支隊主力前面の敵情夜來極めて靜穩なりしも警戒を嚴にし、備ふるこゝ前日の如し、午前八時三十分頃敵の十五冊米臼砲及野砲は小台及李大人屯を射撃し九時十五分頃より漸次猛烈となり其位置臼砲は明らかならざるも、野砲は瓜旦台東側及楊樹林子東南に各八門、寶相屯西南附近に十六門を算せり、十一時頃歩兵約一中隊荒地(瓜旦台東北)南方を東方に、他の歩兵一中隊寶相屯より金山屯に前進し、其他に依然前日來の陣地に在りて我を砲撃し、屢李大人屯に火災を起せり、故に防備を嚴にせんまし工兵隊をして防禦設備

を増補せしむ。

2 韓山台及啞叭台方面の状況

三岳支隊前面の情況夜來概して靜穩なりしに雖敵兵著しく増加せり、然るに從來此地に在りし歩兵第十八聯隊第一中隊の早朝原隊に復歸せるに依り、午前八時秋山支隊長に歩兵一大隊の増援を請へり、十時頃寶相屯西南端の敵砲八門及金山屯西北の四門韓山台及東、西啞叭台に向ひ射撃を開始し、同時五十分敵の歩兵約一中隊、騎兵約五十寶相屯より金山屯に尋て騎兵約一中隊金山屯より荒地に侵入せり、然れども其後敵兵前進の景況なく、午後一時三十分頃歩兵第十八聯隊第一大隊韓山台の南方三台子に到着し、萬一の變に際し支援に任せり、二時頃敵の騎兵約五百二台子より荒地に侵入し、歩兵約一中隊荒地南端より散開して西啞叭台に向ひ前進す、當時同地は敵彈に依り火災を起せしも、啞叭台守備隊（平佐少佐の率るる歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊、後備歩兵第三十一聯隊第四中隊、騎兵第九聯隊第一中隊、同第二中隊の一小隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊、同第八大隊第三中隊の一小隊）は直に陣地に就き之を荒地に擊退せり、時に三時頃にして砲火亦日没に至りて熄む、夕に至り三台子より歩兵第十八聯隊第三第四中隊の増援を受け、東啞叭台を守備せしめ且つ平佐少佐の率るる部隊をして西啞叭台に複廓の構築を繼續せしむ。

3 沈且堡方面の状況

豐邊支隊方面に在りては小樹子及西南部沈且堡の敵兵夜半より退却せしもの、如く、午前二時頃小樹子方向に嚙々たる車輛の音響漸次北方に移動するを聞き、又未明我兵は西南部沈且堡に判りしも敵兵前夜退却し唯傷者及屍體の遺棄せるもの一百餘、雪中に累々たるのみにして、北台子方向の情況亦極めて靜穩なり、而して豐邊大佐は第五師團の此日狼洞溝に到着して、第八師團長の令下に入るべきこと、及第八師

團の在大台の一部を以て沈且堡、古城子間の連絡を保たしめ、而して全力を擧げて早朝より黒溝台附近の敵を攻撃せんことを知り、依然夜來の配備を以て現地を固守し、第八師團前面に於ける戰況の發展を待てり、七時二十分敵の歩兵約一旅團大韓台より周官堡に向ひ行進す、則ち我騎砲兵中隊は直に之を射撃し潰亂せしむ、八時頃我第一線の歩兵部隊は斥候を以て小樹子及西南部沈且堡を占領す、九時三十分頃敵の歩兵二中隊孤家子、周官堡方面より北台子に侵入し、又李家窩棚、王家窩棚、長義套、柳條口に各歩兵二中隊乃至一大隊ありて、其警戒線は李家窩棚より柳條口を経て姚坨子の線に互り、尙ほ其砲兵約二中隊王家窩棚附近に在り、此頃より敵砲四門荒地東北より西啞叭台及小台子を、八門は周官堡附近より沈且堡を射撃す、十一時頃長義套、鴨子泡、馬狼狙附近に敵の歩兵密集部隊或は停止し、或は南方に移動するより豐邊大佐は砲兵第三聯隊第一中隊（昨夜増援のため來着し今朝沈且堡西端の陣地に就けり）をして之を砲撃せしむ、乃ち同中隊は柳條口より鴨子泡方向に移動する歩兵縱隊を砲撃して之を潰亂せしむ、同時三十分頃敵の歩兵約三中隊孤家子より北台子に侵入せしも、其後前進の狀無く荒地及周官堡附近の敵砲兵は依然小台子、沈且堡を射撃し、而も其砲火漸次猛烈と爲り、午後一時頃更に現出せる小韓台附近の野砲十六門、十五珊米臼砲二門及東林子附近の野砲八門と共に熾に沈且堡を砲撃す、爲に諸隊皆掩蔽下に馬匹亦家屋内に在りし雖損害漸く多く、且つ村内諸處に火災を起せり、二時頃に至り散開せる歩兵約四、五十荒地より小台子東北約七百米に前進せしも該地守備隊之を擊退す、同時三十分頃豐邊大佐は後續部隊を有する敵の歩兵約一千、午後一時三十分頃王家窩棚より鴨子泡、長義套に進出し大台方向に前進する狀あるの報に接せしも、第五師團は午前十一時三十分迄に狼洞溝附近に開進の豫定なるを以て、同師團の戰況發展する

を期待し、後備歩兵第二聯隊第一中隊を小樹子に差遣し張庄子、柳條口方向に對し警戒せしむ、然るに五時頃第五師團大台北地區に進出し、該方面の銃砲聲漸く盛と爲り、同時三十分第五師團長より師團は大台附近より柳條口に向ひ攻撃中にして右翼の歩兵二大隊は東方より同村に向ふ、故に小樹子に一部隊を派遣し協力せんことを望むに會ひ、直に歩兵第三十三聯隊第八中隊を小樹子に派遣し、曩に差遣せる後備歩兵第一中隊と協力して、第五師團の攻撃を援助せしめ、且つ騎砲兵中隊（一小隊欠）をして北台子を、砲兵第三聯隊第一中隊をして王家窩棚附近の砲兵を射撃せしむ、乃ち歩兵第三十三聯隊第八中隊は七時小樹子西南端を占領せしも日既に没し、第五師團亦攻撃中止せしに依り沈且堡に歸還せしめ、同時後備歩兵第一中隊も亦若干の監視兵を残置し歸還せしむ、然れども夜に入り柳條口方面の銃聲激烈なりき、此日豊邊支隊の損害は死傷三十四名、馬匹六十五頭なり。

4 友軍の状況 第八師團長は前日來の情況に鑑み、敵軍眞撃なる攻勢に轉じたるものと判断し、黒溝台を攻略して敵を兩斷するか、否らざるも其大部の渾河左岸の地に進出するを遅延せしめんを欲し、全力を擧げ黒溝台を攻撃するの策を探り、而して在沈且堡豊邊支隊との間に空隙を生ずるも、第五師團の此方面に進出するは半日以内なるべきが故に姑く之を忍ぶべしとし、前夜命令を下し左翼隊たる歩兵第四旅團をして現在の地より、豫備隊たりし歩兵第十六旅團（第十七聯隊第一大隊及第三十二聯隊第三大隊欠）を新に中央隊として午前五時大台を出發し、其左翼を蘇麻堡に托し右翼隊たる後備歩兵第八旅團（第五聯隊第二大隊第三十一聯隊第二中隊欠）をして中央隊に連繫し、共に午前八時を期し黒溝台に向ひ攻撃せしめ、砲兵隊をして拂曉老橋西側附近に放列を布き天明後黒溝台を射撃し、豫備隊たる歩兵第十七聯隊第一大隊同第三十二聯隊第三大隊、騎兵第八聯隊第三中

隊の一小隊を午前八時古城子南側に集合せしめ、後備歩兵第二聯隊第四中隊を拂曉より古城子北部に置き、北方に對して警戒し騎兵第八聯隊（第二中隊欠）を午前五時より大台に於て沈且堡、古城子間を、騎兵支隊（騎兵第五聯隊（一小隊欠）同第八聯隊第二中隊）を師團の左翼に配置して在沈且堡後備歩兵第二聯隊と連絡し、師團の左側を警戒せしむ。

右翼隊は八時後備歩兵第五聯隊（第二大隊欠）（尾上中佐負傷し楨村少佐代理す）同第三十一聯隊（第二中隊欠）（小原中佐前日戦死し豊田少佐代理す）を併列して老橋の西南に展開し、同第十七聯隊（遠山大佐負傷し野治少佐代理す）を豫備隊とし老橋西方紅河内に置き、乃ち後備歩兵第五聯隊は第二第三第四中隊を第一線とし、同第三十一聯隊は第一大隊（一中隊欠）（代理阿部中尉）を第一線として展開し、共に黒溝台附近の敵に向ひ前進す、砲兵第八聯隊は老橋南方紅河左岸に沿ふ丘阜上に、戦利野砲中隊は古城子南端附近に放列を布き黒溝台附近の三十餘門の敵砲及同村東北約七百米の敵の歩兵線を射撃し、右翼隊の前進を援助す、午前九時頃より敵の砲火激烈を極め且つ黒溝台附近の敵兵漸次老橋方向に接近し來りしに依り、右翼隊長岡見少將は豫備隊たる後備歩兵第十七聯隊第五第八中隊を老橋西北紅河内に展開し、第一線を増援せしも爾後攻撃進捗せず穩に現狀を維持するに過ぎず。

中央隊は午前五時大台を發し、古城子南端より歩兵第十七聯隊（第一大隊欠）を右縱隊、同第三十二聯隊（第三大隊欠）を左縱隊とし、蘇麻堡東端に向ひ前進し、七時左縱隊の先頭たる歩兵第三十二聯隊第二大隊は蘇麻堡東端に達して開進し、歩兵第五聯隊と連絡す、幾くもなく敵の歩兵一大隊蘇麻堡東北八百米の丘阜の西方散兵壕に展

開す、此に於て第一大隊も亦第二第三中隊を第一線とし、第二大隊の右翼に開進す、當時歩兵第十七聯隊（第一大隊欠）は同第三十二聯隊の右翼に開進中に在りしも、突然猛烈なる敵の銃砲火を受けしに依り、直に第二第三大隊（第七第八第十二中隊欠）を併列して第一線とし、歩兵第三十二聯隊の右翼に展開す、即ち第一大隊は第五中隊を第一線に、第六中隊を豫備隊とし、第三大隊は第九第十二中隊を第一線、第十中隊を豫備隊とし共に紅河の右岸に據らしむ、此頃後烟台子附近の敵砲八門射撃を開始せしに依り、第一線諸隊は逐次躍進して紅河右岸を占領す、九時三十分黒溝台南の敵兵二大隊餘に増加す、乃ち中央隊長田部少將は攻撃命令を下し、歩兵第三十二聯隊を蘇麻堡東方の地區より、同第十七聯隊を同第三十二聯隊の右翼に連繫し、共に黒溝台東南端に向ひ攻撃せしむ、十時前面の敵兵増加し約三大隊となり尋て同歩兵約一大隊我中央、左翼兩隊の中間に向ひ前進し、同時に左翼方面に激烈なる銃聲起りしを以て歩兵第三十二聯隊は第二大隊を直後の紅河内に退け、更に之を蘇麻堡西北端に移して此敵に當らしむ、十時三十分在三尖泡騎兵支隊より敵の騎兵約二聯隊我背後に迂回せりとの通報に接し、同時四十分黒溝台南方の敵の歩兵續々蘇麻堡西方に向ひ運動するを見、豫備隊の歩兵第三十二聯隊第四中隊を同聯隊の左翼に増加す、十一時二十分更に在三尖泡騎兵第八聯隊第二中隊より、敵の騎兵約二師團機關銃及野砲を伴ひ佟二堡方向より三尖泡に前進し、目下對戦中にして情況に依り漸次退却せんとする旨通報ありしを以て、豫備隊の内歩兵第十七聯隊第七中隊を河坨子に派遣し、我左側背の警戒に任せり、歩兵第五聯隊を左翼隊は主力を以て頭泡を攻撃せんし、歩兵第三十一聯隊をして早朝より頭泡の攻撃に任し、歩兵第五聯隊を依然夜來の陣地に置き、同第三十一聯隊の前進を掩護せしむ、乃ち歩兵第三十一聯隊は午前七時より頭泡の敵に向

午後八時に於ける第八師團の状況

ひ攻撃す、蘇麻堡附近の歩兵第五聯隊は同時四十分頃より射撃を以て其前進を援助せしも、敵兵増援を得たるもの如く、大に戦線を擴張して我前進を拒止す、九時三十分頃より敵砲八門黒溝台西方より歩兵第五聯隊に向ひ射撃を開始す、幾も無く其歩兵約三大隊黒溝台方面より同聯隊に迫り彼我機に射撃す、十時二十分頃敵の歩兵約三中隊更に頭泡の東側を経て前進し、歩兵第三十一聯隊第二大隊の左側に迫り、歩兵第五聯隊前面の敵兵其援助を藉り前進して、十一時頃前方約五百米に接近せしも、同聯隊殊に其第二大隊及同第三十一聯隊第二大隊は奮戦して殆ど其大部を殲し大に之を動搖せしめたり。

右翼隊方面の敵は午後に至り益々兵力を増加し、三時三十分頃老橋附近の我部隊は優勢なる敵の攻撃を受くるに至り、右翼隊長は更に後備歩兵第十七聯隊第一大隊を其右翼に増加す、幾も無く師團の豫備隊たる歩兵第十七聯隊第一大隊も亦古城子方向より前進し、右翼隊の右側に達し共に北方の敵に對し協力して之を撃退せり、此間右翼隊の左翼方面に於ては敵の抵抗頑強にして、殊に其砲兵漸次増加し我後備歩兵第五第三十一聯隊は中央隊に連繫して前進せんせしむ日没となり現狀を維持して夜を徹せり。

中央隊前面の敵も午後一時四十分頃より漸次増加し、蘇麻堡西北約九百米より黒溝台東南に互り、約四大隊を算し尙増加の狀あり、而も後烟台子附近の敵砲兵は頻りに我第一線の右翼を、黒溝台西方の八門は蘇麻堡を射撃し、第一線は依然現狀を維持するに過ぎず、中央隊長は四時二十分在河坨子の歩兵第十七聯隊第七中隊より蘇麻堡西北小丘阜の我左翼隊の一部敵の包圍する所となり、遂に退却し當面の敵兵蘇麻堡西方に迫れりとの報告を得、乃ち歩兵第三十二聯隊に其第四中隊を復し、且つ蘇麻堡西北端附近を死守すべきを命ぜり、然るに五時三十分頃よ

り敵火激烈となり、其砲兵蘇麻堡を射撃し北部の家屋火災を起せしも、戦闘酣にして消火する能はず、同時敵砲三門黒溝台南方無名寺の西側に放列を布き左翼隊方面を射撃せしも、歩兵第三十二聯隊第七中隊之を撃退せり、其後各方面の銃砲聲漸次沈静せしも歩兵一、二中隊蘇麻堡西北丘阜を占領し尙前進の状ありしに依り、第一線部隊は各其占領地區に防禦工事を施し（土地凍結し器具の使用困難なりしに依り多くは土囊を用る成形せり）警戒を嚴にし敵襲に備へたり。

夜半に至り優勢なる敵兵來襲し、蘇麻堡西北端の歩兵第三十二聯隊第八中隊に對し執拗に數回突撃し終に土壁を越え村内に侵入せんとす、乃ち同中隊は奮然迎へ戦ひ其五、六十を殲して一度其突進を拒止するを得たりしも、敵の一縱隊道路上より突進し來りしに依り、聯隊長森川中佐は豫備隊たる第六中隊を道路北側土壁に據らしめ、之を側射せしむ、又同村西南部に迫りし敵は西方正面のみならず、遠く南方より歩兵第五聯隊方面に迂回し村内に侵入せしに依り、同聯隊第一大隊（代理夏脇大尉之を指揮す）は第三第四中隊をして西面の敵に當らしめ、夏脇大尉は第一中隊及第三中隊の一小隊を提げ南方の敵を逆襲し、接戦格闘之を撃退し村落中央に隊伍を整頓す、此間第三第四中隊は西面の敵に對し極力抵抗せしも遂に支ふる能はず、退却して歩兵第三十二聯隊本部の位置に到る、即ち聯隊長森川中佐は之を激勵し該聯隊本部南方の土壁に據らしむ、然るに敵の一部は既に西南方より村内に侵入し、又村落の北部は敵の包圍する所と爲り戦況甚だ危急に瀕せり、殊に村落の西北角を突撃せる敵兵部隊を集合し更に前進せんとするものゝ如し、乃ち森川中佐は歩兵第三十二聯隊第三中隊をして、蘇麻堡北端中央民家の土壁に據る敵に對し數次突撃を反復せしめし毎に損害多くして功を奏せず、第四中隊は全く敵の包圍す

る所となりしも奮戦血路を開きて、聯隊本部の位置に來り合す、時に午前五時にして當時森川中佐は其手裏に一名だも有せざるに至りしに依り直に之を豫備隊とせり、然るに蘇麻堡北部の敵は家屋防禦を企て其斥候村内到處に徘徊し彼我終夜紛戦亂闘遂に天明に至れり。

附記 蘇麻堡に來襲せし露軍は東狙兵第一師團長ゲルングロス中將の率るる東狙兵第三聯隊同第四聯隊の一大隊狙撃兵第六聯隊及東狙兵第三十四第三十五聯隊にして其兵力十二大隊なりしと云ふ。

左翼隊方面にありては午後一時三十分頃敵の歩兵約一大隊更に頭泡方向より前進し、歩兵第五聯隊の左翼に迫れり、乃ち聯隊長津川大佐は其豫備隊たる第二中隊を第二大隊の伍間に増加す（増加隊は各個に躍進せしも其約半數は途中に死傷し、又此頃聯隊長津川大佐及第二大隊長塚本少佐負傷せるも尙其隊を指揮せり）三時頃に至り敵の逼迫益々激しく其砲七門烟台子方向より黒溝台東南に進出し、同村西側の八門と共に熾に蘇麻堡及其西北丘阜一帶の地を射撃せり、此時第二大隊の左翼に在りし歩兵第三十一聯隊第二大隊（第六第八中隊欠）は其左側より敵の歩兵約一大隊の包圍する所と爲り、力戦奮闘せしも大隊長藏田少佐以下概ね之に斃れ、殘兵遂に蘇麻堡方向に退却せり、此に於て歩兵第五聯隊第二大隊は直に此敵を射撃して其前進を拒止せり、然れども敵は其兵力を増加し四時五十分頃正面のものに相俟て、同大隊の左側背に肉薄せしに依り、大隊長塚本少佐以下負傷せる將卒悉く創を裏み銃を執りて敵に當り奮戦せしも死傷相踵き、遂に其地を保持し得ざるに至り其殘兵を率る午後七時蘇麻堡に向ひ退却せり。

此際歩兵第三十一聯隊の主力方面に在りては、午後三時三十分敵の歩兵約一千米の正面に散開して、頭泡より攻

撃し来るを以て約四百米に近接するを待ち急撃して之を卻け、其後數回の攻撃に對し毎に其企圖を挫折せしむ、敵の砲兵依然正面及側背より射撃し五家子の各處に火災を起し、六時稍前敵の一部西方より南部五家子に迫り約三百米迄接近せしむ、同時五十分撃退せり、日没後前面の敵兵頭泡方向に退却せるものゝ如く全線靜肅にして斥候の衝突あるのみ。

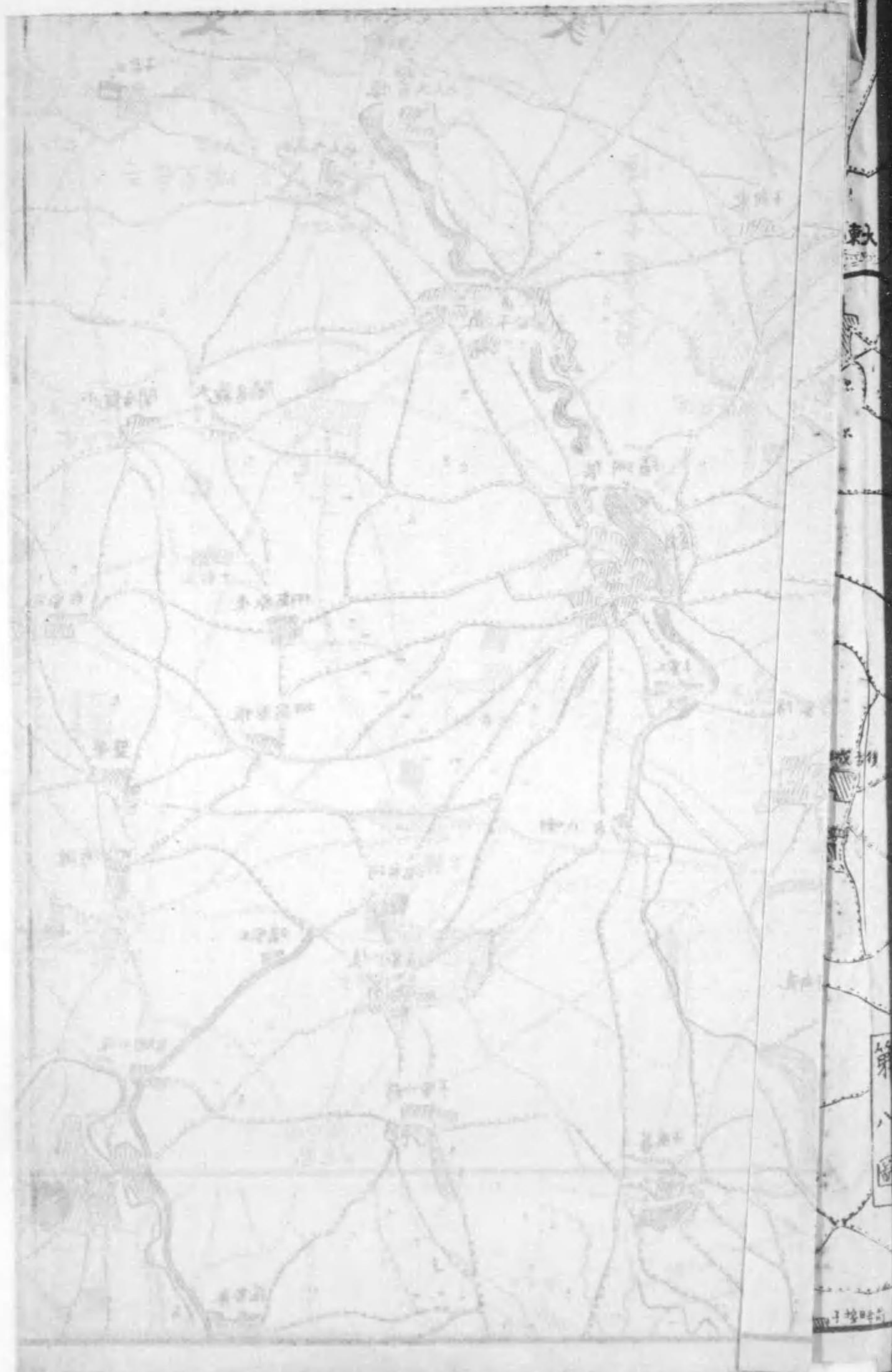
村山支隊は午前十時三十分狼洞溝出發除家台の東側に到りて開進し、正午除家窩棚、蛤拉泡附近の敵を攻撃せんを欲し、歩兵第二十一聯隊（第一大隊欠）を第一線とし、除家台東端に置き砲兵第五聯隊第三中隊をして、除家台西南端附近に放列を布置し、騎兵第五聯隊第二中隊の一小隊をして荒甸子方向を搜索せしむ、乃ち午後零時三十分砲兵第三中隊の將に除家台西南に進入せんとするや、敵の騎兵約三中隊、蛤拉泡方向より來襲せしむ我砲兵火の爲西方に潰亂敗走せり、同時敵砲約十門屈家窩棚附近に放列を布き、除家窩棚の砲兵と共に我砲兵を射撃す乃ち我砲四門は除家窩棚の敵砲に他の二門は屈家窩棚の敵砲に應射せり、然れども敵の砲火猛烈にして我損害甚だ多く二、三の砲車は殆ど全砲手を失ひ、繼かに發射を繼續し得るに過ぎず、歩兵第二十一聯隊（第一大隊欠）〔稻葉中佐〕は同時五十五分第三大隊〔松永少佐〕を以て先づ除家窩棚の敵を攻撃せしむ、乃ち第三大隊は第九第十第十二中隊を第一線とし、後備歩兵第二聯隊の一部亦其右翼に連なり、相共に除家窩棚に向ひ前進するや、敵の騎兵一中隊除家窩棚附近に於て徒歩戦を開始し、屈家窩棚附近の敵砲兵亦之に参加し、午後一時我第一線の除家台西方約六百米に遷する頃同騎兵約四百蛤拉泡より我左翼に來襲せしむ直に西方に撃退せり、六時蛤拉泡に其一部殘留せるを以て聯隊長稻葉中佐は第二大隊を第三大隊の左翼に増加し之を攻撃せしむ、當時除家窩棚附

近に新に敵の徒歩兵増加したるものゝ如く其射撃頗る熾にして而も同時三十分機關銃二挺除家窩棚附近に、他の二挺蛤拉泡東端より發射し我第一線の損害多大なりしも、平坦開闢にして據るべき地物なく専心敵に向ひ前進せり、其間我砲兵第三中隊は蛤拉泡の敵の機關銃を撃破し、二時稍前第二大隊は同地附近の敵を終二堡方向に撃退し續きて斜哨を略取せしむ雖、敵の徒歩兵約一大隊頑強に除家窩棚を防禦し第三大隊の戰鬪進捗せず、是に於て支隊長村山少將は第一大隊を其左翼に増加して前進を督勵し、兩大隊及後備歩兵第二聯隊第七中隊の一小隊並に第八中隊は相連なりて前進し、將に除家窩棚を包圍せんとするや同地の敵兵退却を始む、乃ち諸隊は機に乗じて突進し四時四十分同村を略取し、第四第十一中隊は更に進みて江家窩棚を略取し、敵を巴荒地方方向に撃退し更に左翼隊を以て終二堡を攻撃せんせしむ日没を爲り果さず、蛤拉泡附近に位置し夜を徹せり。

第五師團の大部は積雪を冒し困難なる夜行軍を以て十里河を出發し、午前八時其前衛を以て狼洞溝に達し、十一時將に狼洞溝東端に開進を終らんとするや師團長は左の部署を爲せり。

- 一、歩兵第四十二聯隊は大台を経て柳條口の敵を攻撃す。
- 二、歩兵第四十一聯隊の一大隊は東甸子を経て歩兵第四十二聯隊の右翼に連繫し柳條口の敵を攻撃す。
- 三、砲兵第五聯隊（第三中隊欠）は歩兵第四十二聯隊に續行して大台に到り、同地附近に放列を布置し師團の攻撃を援助す。

四、歩兵第四十一聯隊（一大隊欠）は師團の豫備隊となり、第一線大隊に續行し東甸子南端に集合す。諸隊は薄霧野を蔽ひ飛雪之に混じて展望を妨げ、爲めに我運動を秘匿するを得て柳條口に向て展開急進し、比較



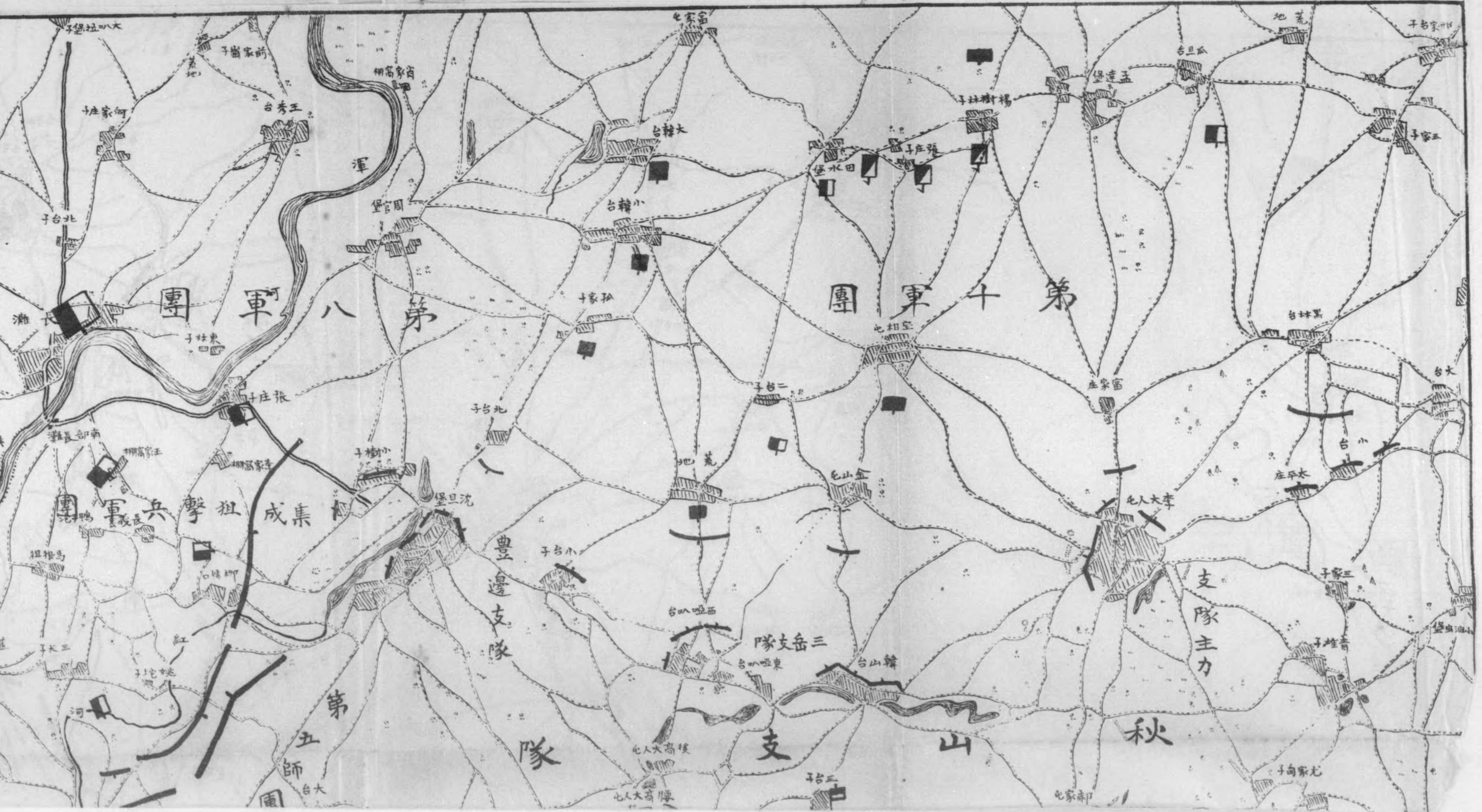
小北河方面
の状況

一月廿八日の状況 (降雪歇まず)

的損害を受くる。こゝ少く砲火を冒して敵前一千七百米に近接するや、柳條口及姚坨子附近より俄然敵歩兵の射撃を蒙り、前進稍困難を爲りしも當時黒溝台附近の戦勢を挽回するの必要ありしが故に敵火を冒して前進せり、時に午後三時三十分頃にして我砲兵第五聯隊は此情況を認め、直に姚坨子附近の敵砲兵に向ひ射撃を開始するや、敵の砲兵其大部を以て之に應射せしも幾くも無く、砲火衰へ且つ其一部退却せしものゝ如く、尋て全砲火沈黙したるに依り午後三時三十分増加せられたる歩兵第四十一聯隊本部及第一大隊は四時十分第一線の右翼に達し、同第四十二聯隊も亦第八師團の右翼に連接し、同時四十分頃第一線は敵前約一千二百米に達し射撃を開始す、當時敵兵柳條口より姚坨子に互る線を隠蔽して占領せるに反し、我は白雪皚々たる曠野を前進せるが故に敵彈の散兵線に命中せるもの甚多く、而も敵の歩兵益々増加し我死傷續出す、然れども兩翼隊は前進を繼續し敵前七、八百米に達す、此頃柳條口、姚坨子附近の敵兵少くも歩兵一旅團機關銃七、八挺となり、其砲約三十門馬狼狙附近に在るを以て兩翼隊は此敵に向ひ前進せしも幾くも無く日没と爲れり。

師團長は夕に至り兩翼隊に命令を與へ攻撃を中止し、各現在の位置に在りて夜を徹せしむ、七時十八分第八師團長より同師團の左翼及中央兩隊は腹背敵を受け甚だ危殆に瀕せしが故に、霽澤支隊を左翼隊方面に使用せんことをの通報ありたり。

小北河方面は靜穩にして騎兵第二旅團は依然該地附近に位置し滿洲軍左側背の掩護に任せり。



第八軍團

第十軍團

集兵擊兵軍團

豐邊支隊

三岳支隊

支隊主力

第五師團

支

山

秋

戰會之近附台溝黑

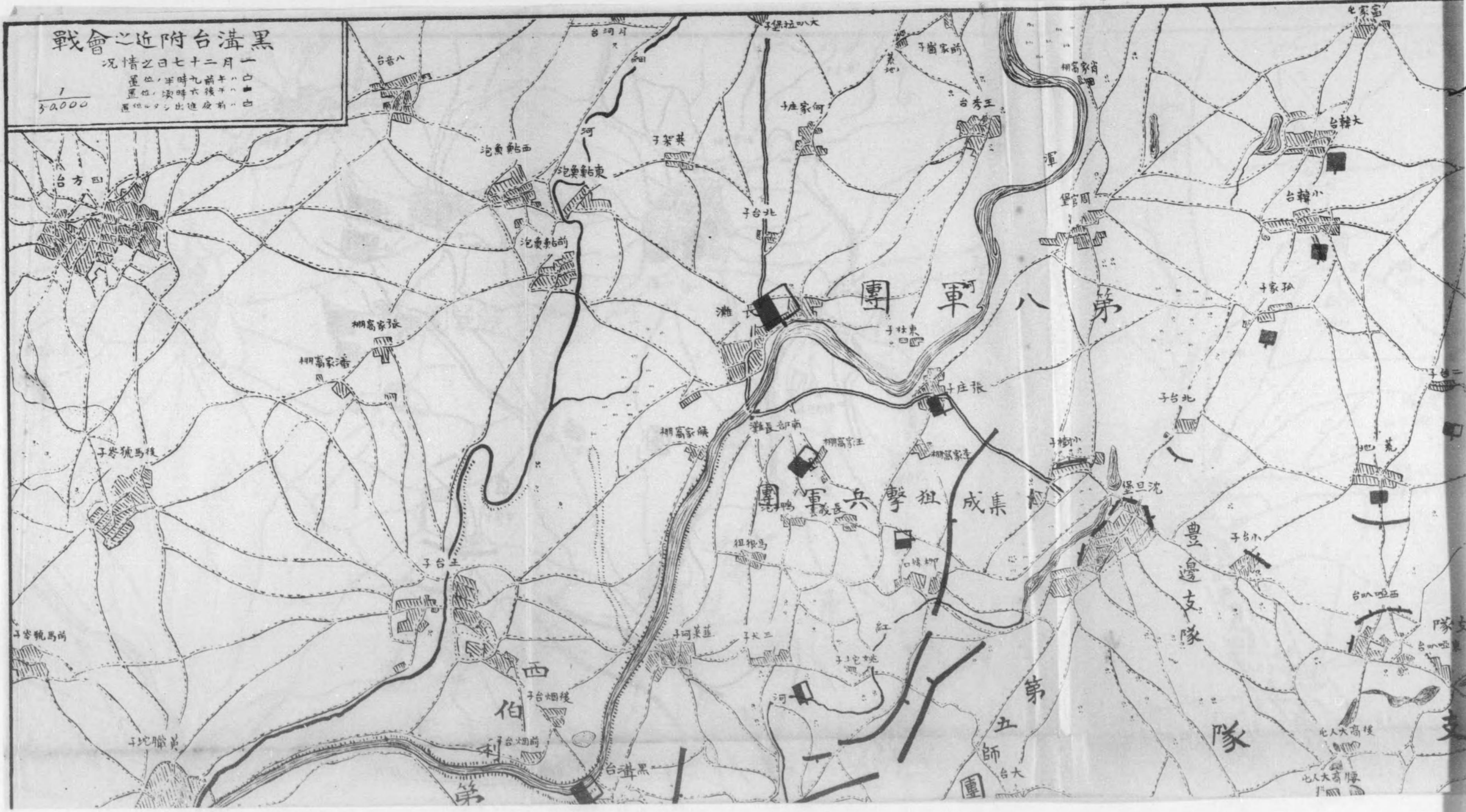
況情之日七十二月一

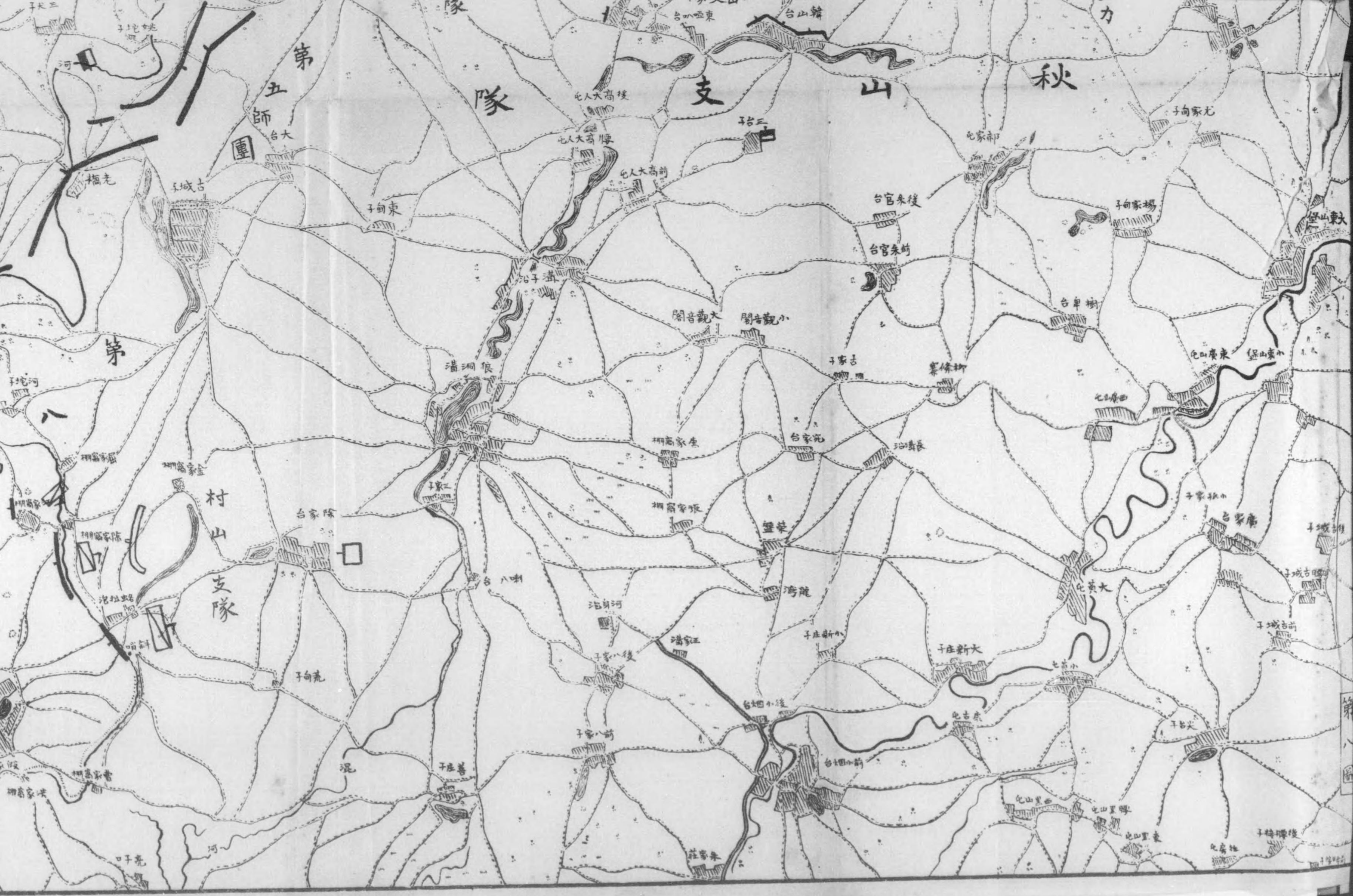
置位、半時九前十ハ白

置位、頃時六後十ハ白

置位、タシ出進夜前ハ白

1
50000





第五師團

支隊

支

山

秋

村山支隊

秋山支隊

梅老

古城

台大

子甸東

化人大高後

化人大高腰

化人大高前

台三

化家部

子甸家尤

台官朱後

台官朱前

子甸家場

台車樹

閻音觀大

閻音觀小

潘洞狼

子家古

寨條柳

化山廣西

化山廣東

堡山廣小

柳高家堂

台家死

台清長

柳高家

台家除

柳高家張

堡華

子家秋小

台家廣

子城古

支隊

台八喇

化河

灣龍

化黃大

子城古前

泡拉路

子甸亮

子家後

潘江

子庄新小

子庄新大

化古小

子台火

台烟小後

台烟小前

化古朱

化山廣西

化山廣東

化山廣中

子梅塘後

子甸亮

混

子庄善

子家前

莊家

化家桂

子梅塘前



1 李大人屯方面の状況

支隊主力方面は夜來少數の敵兵李大人屯に近接せし外概ね靜穩にして、午前九時三十分頃敵の砲兵始めて寶相屯西方より李大人屯を、三家子、邢家台子附近より小台を射撃せるも頗る緩徐にして攻撃氣勢無く午後零時十分頃に至り、其歩兵約一大隊瓜旦台より孟達堡に達し、同約二中隊は東方より瓜旦台に來りて之に代り、尋て一時三十分頃騎兵四中隊砲若干楊樹林子より田水堡南方を経て、西南に行進し二時頃歩兵約一中隊黒林台より瓜旦台に退却せり。

是より先戦利十五珊米臼砲中隊は午前十時四十分揚家灣に於て我支隊に屬すべき第二軍命令を受け、郝家屯に到り支隊より掩護の爲派遣せる騎兵第六聯隊第二三中隊の各一小隊に合し、共に李大人屯に前進し午後三時同地に到着し、直に同地東端に陣地を選定し工兵の援助に依り砲台建築に着手し、五時未だ完成せざるも富家庄に向ひ射撃を開きて火災を起し敵を擾亂せしむ、然れども敵兵日没迄砲撃を持続せり。

2 韓山台、啞叭台方面の状況

三岳支隊方面には午前八時敵砲二門二台子より、東啞叭台を射撃せし外、情況變化なく午後一時三十分頃に至り、敵の歩兵約一中隊二台子より金山屯に前進せるを以て、我騎砲兵小隊直に之を射撃するや、二時二十分頃金山屯西南端圍壁内より砲二門を以て、熾んに東啞叭台及韓山台を射撃せり。

是より先午前十二時三十分砲兵第十三聯隊(第一中隊及在李大人屯第四中隊欠)長佐野大佐は歩兵第十八聯隊第二大隊(小島少佐)工兵第二中隊(一小隊欠)を指揮し速に韓山台附近に放列を布き富家庄、金山屯、荒地附近の敵を驅逐すべき第三師團命令を受け、午後一時二十分青堆子出發、楊家甸子を経て二時三十分郝家屯に到達す

聯隊長佐野大佐は更に韓山台に赴き陣地を偵察せり、時に歩兵第十八聯隊第二大隊及工兵第二中隊（一小隊欠）は既に同地に在り、乃ち佐野大佐は韓山台北端に陣地を選定し、砲兵聯隊を招致せんせしも三岳中佐は該地より射撃を開始せば、敵の砲火を誘致し在韓山台の人馬の損傷せんことを慮り村落内に陣地を選定せんことを要求せしに依り、韓山台西方に陣地を變更し夜に乗じて進入するに決し之を第三師團長に具申せり、然るに五時五十分該師團長より其聯隊の射撃は敵の西方に移動するを妨碍するに在るが故に富家庄、金山屯、荒地附近の敵を射撃して此方面の敵を牽制せざる可からず、隨て縦ひ前面の敵情切迫せざるも速に射撃を開始し、能ふべくんば該地附近の敵を驅逐すべしとの訓令に接し、斷然北端陣地に進入せしめんせしも當時砲兵聯隊は尙ほ郝家屯に在りしに依り日没前に射撃を開始するを得ず、乃ち三岳支隊に交渉して騎砲兵小隊を以て金山屯、荒地附近を射撃し敵を牽制するや敵砲兵之に應じ頻に韓山台に砲火を集注せしも、日没と共に彼我射撃を止む、此に於て歩兵第十八聯隊第二大隊は第七中隊を工兵第二中隊（一小隊欠）と共に韓山台に残置し其他を以て郝家屯に宿營す、其後狀況靜穩なりしも啞叭台に敵襲ありしを以て守備を嚴にし夜を徹せり。

午後四時頃敵砲四門、更に荒地南端に増加して、西啞叭台を射撃し同地の家屋を破壊し、守備兵の損傷亦少からず、是に於て守備隊長平佐少佐は敵の來襲を豫期し、諸隊をして警備を嚴にし敵の動靜に注意せしむ、五時二十分頃に至り敵の歩兵約三中隊荒地南端に現はれ漸次我に接近し、其後方に後續部隊を有するものゝ如し、乃ち同少佐は直に諸隊をして東、西啞叭台北端の陣地に就かしむ、午後六時十分頃既に我第一線前五、六百米に達す、乃ち第一線の諸隊は猛烈に之を射撃するや、敵亦之に應じ六時三十分頃に至り其兵力歩兵約三大隊を爲り其大部

小台子の放棄

は西啞叭台に對せるも同約一大隊は小台子の前面約五百米に達し、漸次小台子守備隊を包圍せんとするの狀あり、依て該守備隊は其豫備隊たる工兵第二中隊（一小隊欠）を兩翼に増加して敵の包圍を拒止し、極力抗戦せしも敵兵其砲火（五時三十分頃より荒地の敵砲熾に小台子を射撃す）の援助の下に漸次近接し益々我を包圍せんとし剩へ後續部隊を有するものゝ如きが故に、同地守備隊長〔稻葉工兵大尉〕は先づ騎兵第十三聯隊第一中隊を後高大人屯に、工兵中隊の各一小隊を溝子沿及沈且堡に退却せしめ、後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊をして之が掩護に任し、少時抗戦の後溝子沿に退却せしめ八時より九時の間後高大人屯、溝子沿及沈且堡に到着せり。

西啞叭台に對する敵は此間益々前進し、後備歩兵第三十一聯隊第四中隊に猛烈なる火力を集注せしに依り、該隊は少時背後の集團家屋附近に避けしも、午後七時二十分頃に至り敵の銃火漸く衰へ、次て退却せるが如き情況を知り舊陣地に復せり、此時守備隊長平佐少佐は工兵第四大隊第一中隊の一小隊を同第八大隊第三中隊の一小隊の右翼に増加す、是より先同少佐は午後六時三十分頃敵の攻撃猛烈なるを知り、急を東啞叭台の歩兵第十八聯隊第三第四中隊に告げ應援を求む、乃ち此兩中隊を指揮せる第三中隊長上野大尉は直に其一小隊を現在地の守備に、第四中隊（一小隊欠）を東、西啞叭台中間の守備に残し第三中隊（一小隊欠）と第四中隊の一小隊を率ゐる西啞叭台に向ひ、七時二十分頃同地に到着せり、然れども當時前面の敵兵既に退却せし後なりしに依り、平佐少佐は其第三中隊の一小隊を後備歩兵第三十一聯隊第四中隊に増加し、其他を南端中央の複廓附近に豫備隊たらしめたり。三台子に在りし歩兵第十八聯隊第一大隊〔箕形小佐〕は午後五時四十分中部啞叭台の第四中隊より敵兵午後四時金山屯、荒地間に砲兵を増加し其歩兵部隊荒地より我左翼に向ひ前進中なりとの報告あり、六時更に敵の歩兵約

啞叭台の敵の夜襲

一聯隊午後五時四十分頃より西啞叭台を攻撃すとの報に接し、直に緊急集合し六時三十分三台子出發、七時二十分西啞叭台に到る、當時前面の敵兵既に退却し情況沈靜せり。雖、同地に在りし平佐少佐と協議し直に第一中隊を東啞叭台、第二中隊を中部啞叭台の守備に任し、從來此兩地に在りし第三中隊の一小隊及第四中隊(一小隊欠)を西啞叭台に招致し、從來の豫備隊と共に復廓の兩翼を、又騎兵第九聯隊第一中隊を以て其中央正面を守備せり。然るに八時頃に至り敵の兵力著しく増加して啞叭台に來襲し、其一部漸次左翼に迂回せんとするの狀あり、同時三十分頃西北端を守備せし工兵第四大隊第一中隊の一小隊は殆ど敵の包圍する所となり、復廓内に退却し其左翼の同第八大隊第三中隊の一小隊も亦猛烈なる攻撃を受け、漸次西啞叭台、後高大人屯間に退却し其主力と連絡を失へり、又北端を守備せる後備歩兵第三十一聯隊第四中隊歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊及同第十八聯隊第三中隊の一小隊は共に中部啞叭台に退却するや、敵兵之に尾し復廓に迫れるを以て守兵は勇を奮ひ之を射撃し、我第一線部隊を收容せしも敵の一部遂に復廓の圍壁を攀ち廓内に侵入せり、乃ち騎兵第九聯隊第一中隊及工兵第四大隊第一中隊の一小隊は手榴彈を放擲し大に奮闘し、遂に其氣勢を挫き攻撃を中止せしむるを得たり、時に八時五十分頃にして敵兵漸次退却し九時三十分頃復廓前三、四百米の地に停止せるものゝ如きを以て、曩に中部啞叭台に退却せし後備歩兵第四中隊(一小隊欠)歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊、同第十八聯隊第三中隊の一小隊は同時西啞叭台に來りたるを以て、第三中隊を一小隊は原中隊に復歸し、其他を復廓の後方に置き豫備隊とせり、然れども歩兵第十八聯隊第一大隊長箕形少佐は敵の再舉を慮り、更に中部啞叭台の第二中隊より一小隊を西啞叭台に招致せり。

是より先楊家甸子に在りし歩兵第十八聯隊長石原大佐は午後六時五十分歩兵一大隊を率ゐ、即時出發三台子に到り同地の第一大隊を併せ指揮すべき第三師團命令を受け、直に第三大隊〔濱藤少佐〕に緊急集合を命じ七時十五分出發都家屯、三台子を経て八時二十分中部啞叭台に到着す、然れども同大佐は尙ほ左翼の危險を察し東啞叭台附近の第一中隊及第二中隊(一小隊欠)を西啞叭台に移して原大隊に復歸せしめ第三大隊をして之に代らしむ。十時四十五分敵の一部我左翼後に迂回せんとするの狀ありしが故に、箕形少佐は更に第二中隊の一小隊を第三中隊の左翼に増加して西方及西南方に對して警戒せしめ、且つ騎兵隊をして該方向を搜索せしめ、尋て第一第二中隊(一小隊欠)の西啞叭台に來るや、之を豫備隊として嚴に警戒し夜を徹せり。

3 沈旦堡方面の狀況

豐邊支隊は前日重、野砲の爲馬匹の損傷甚だ多きに鑑み、騎兵第十三第十四聯隊の各一中隊を沈旦堡に置き、其他を後高大人屯に後退し馬匹を留め小數の監視兵を附し、日没後再び沈旦堡に歸還せしむ、乃ち騎兵第十三聯隊は午前五時第一第三第四中隊を後高大人屯に後退し、其第一中隊は馬匹を同地に置き直に小台子に到りて第二中隊に代り、第二中隊は交替後沈旦堡に歸還し、同第十四聯隊は第一中隊を沈旦堡に留め其他を以て後高大人屯に到れり。

午前八時頃敵の歩兵約二中隊李家窩棚東端附近に現はれ、第五師團右翼隊の攻撃を妨得せしに依り、歩兵第三十三聯隊第八中隊は小樹子西南端を占領し、同師團の前進を援助す、尋て九時頃敵の野砲(舊式九珊米)約四門二台子と荒地間より沈旦堡に向ひ射撃を開始し、同時三十分歩兵四、五十北台子南方に前進す、乃ち我騎砲兵中隊之を射撃し北台子の村落内に退却せしめしも、敵兵更に小韓台及周官堡に野砲(舊式九珊米)各約四門を増加し

猛烈に沈且堡を射撃す、爲に我騎砲兵は少時砲撃を中止せり。
歩兵第三十三聯隊は北台子方面の敵兵動もすれば攻撃せんとする状ありしが故に、午前十時其第三大隊（早川少佐）を以て沈且堡南端の守備を撤し東端に集合せしめ豫備隊を爲し、同時第十二中隊の一小隊を以て東北端を守備し敵の攻撃に備へり、其後前進せざりしも日没に至る迄砲撃を繼續し、爲に家屋の破壊又は焼失せるもの甚だ多し。

豊邊大佐は午後七時三十分頃小台子守備隊より同地撤去の報を得、直に騎砲兵中隊をして小台子に向ひ十數發砲撃せしめ、又騎兵第十四聯隊第一中隊の一小隊を以て後高大人屯の通信所を護衛し、別に騎兵第十三聯隊第二中隊の一小隊及同第十四聯隊第二中隊の一小隊を以て沈且堡東南端の後高大人屯及溝子沿に通ずる道路附近を守備せしめ（此兩小隊は後に至り歩兵第三十三聯隊の部隊に守備を譲り原隊に復す）同時在後高大人屯諸隊に命ずるに即時乘馬して沈且堡に歸還すべきことを以てし、又歩兵第三十三聯隊をして一部隊を以て小台子に對し、村落の東側を守備し砲兵第三聯隊第一中隊を東南端に移し、小台子方向に對し放列を布かしむ、然るに小台子の敵は其後同村南端に防禦工事を施せるもの如し。

沈且堡前面は晝間砲撃のみにて情況概ね靜穩なりしも日没後に至り、小韓台附近より重砲三、四門を以て沈且堡を射撃し午後八時三十分頃歩兵約一大隊同地方方向より沈且堡に向ひ前進し、我堡壘前約六百米に近接して熾に射撃し、我守兵たる後備歩兵第二聯隊第一大隊（第二中隊の一小隊及第四中隊欠）同歩兵第三十一聯隊第二中隊機關砲二門（石關少佐指揮す）之に應戦し騎兵中隊亦射撃を開き戰鬪激烈なりしも、九時三十分頃北方に退却し情

況全く沈靜せり、爾後支隊は益警戒を嚴にし依然現在の姿勢に在りて北台子方面を搜索中、十時三十分頃敵の歩兵約五中隊再び沈且堡北端に襲來し、我堡壘前の鐵條網を破壊せんむす、則ち正面の我諸隊再び之を射撃す、歩兵第三十三聯隊は豊邊大佐の命に依り、西正面の同第六中隊を東北端に移して、後備歩兵第二聯隊第三中隊に増加し、又小樹子に派遣せる第八中隊を招致して豫備隊とし攻撃約一時間の後北方に撃退せり。

在後高大人屯騎兵第十三第十四聯隊は小台子並に西啞叭台の敵襲を知り、且つ小台子の敵手に歸せし報を得、直に緊急集合し且つ現在の危険を慮り獨斷を以て、午後九時三十分頃溝子沿に移りしも豊邊大佐より招還の命に接し十一時三十分頃沈且堡に歸還せり、豊邊大佐は此時迄に三岳支隊方面に於ける敵の襲來を、第五師團前面の敵兵長義套、鴨子泡、馬狼祖の線に敗退し、第八師團の本夜中黒溝台を略取せんむするを知り、依然現在の姿勢に在りて陣地を固守す。

溝子沿に退却せし後備歩兵第二聯隊第二中隊の一小隊は此夜大行李を掩護し、同地に宿營し翌日午前五時沈且堡に歸還す。

附記 此日小台子に侵入したる露軍は第十軍團の歩兵第百二十二聯隊の二大隊、啞叭台を攻撃したるは同第百二十三聯隊の二大隊、沈且堡に攻撃し來れるものは第八軍團なり。

4 友軍の狀況 第五師團長は柳條口を攻略せんむし、昨夜十時三十分命令を下し、歩兵第四十一聯隊をして午前七時三十分より柳條口附近の敵を攻撃せしめ、同第四十二聯隊（第一大隊本部及第三第四中隊欠）をして現在地に在りて、第八師團に連撃し砲兵第五聯隊（第三中隊欠）をして拂曉陣地に就き、共に歩兵第四十一聯隊

の攻撃を援助し、同第四十二聯隊第一大隊（二中隊欠）を師團の豫備隊とし、七時迄に大台東端に位置せしむ。歩兵第四十一聯隊第三大隊（第九中隊欠）〔清水少佐〕は敵を張庄子南方に牽制せんとし、午前七時三十分朝霧に乘り大台附近を出發して柳條口東方に向ひ、同聯隊の主力は概ね従前の位置に在りて攻撃を準備し、八時十分霧稍霽るゝや前面の敵に向ひ射撃を開始す、同時砲兵第五聯隊（第三中隊欠）及同第十七聯隊（第一大隊欠）は柳條口、姚坨子間の敵を射撃し歩兵第四十二聯隊〔堀江中佐〕も姚坨子附近の敵に對し、射撃を開きて之を牽制し共に同第四十一聯隊の攻撃を援助せり、九時過ぎに至り柳條口附近の敵の火力漸次衰退の狀あるを以て、歩兵第四十一聯隊の主力は前進し尋て敵の退却を始めしを知り、直に柳條口に突入し敗殘兵を驅逐して其十餘を捕虜せし、十時三十分全く之を占領せり、而して敵の大部は長灘方向に一部は北方に退却せり、此間同聯隊第三大隊（第九中隊欠）は小樹子、柳條口間に向つて前進し、沈且堡西北約千米に達するや張庄子及柳條口附近より猛烈なる射撃を受け死傷續出す、乃ち止りて李家窩棚附近の敵と相對せり、又我右翼隊の柳條口に進入するや、各方面の敵砲兵同時に射撃を集注し爲に多數の死傷者を生せしも、我砲兵兩聯隊は退却せる敵兵を射撃して潰亂せしむ、爾後兩砲兵聯隊は同第五聯隊第一中隊を以て馬狼狙附近の砲兵を、自餘を以て姚坨子以南の歩兵を射撃して第八師團の攻撃を援助し、殊に午前十時三十分頃同第十七聯隊（第一大隊欠）は三犬子より姚坨子に向ひ前進せんことを敵の歩兵部隊を射撃して潰亂せしめたり。

歩兵第四十二聯隊は正午頃第三第二大隊を併列して姚坨子を攻撃す、乃ち第二大隊〔中村少佐戰死近藤大尉代理す〕は第八第五中隊を第一線とし、第三大隊〔俣野少佐〕は第十第十一中隊を第一線とし敵火を冒して躍進し、

午後二時四十分第二大隊は姚坨子東南端紅河の線を占め、第三大隊は同村北方に迫り豫備隊は中央より同村に進入し、三時全く附近の敵を撃攘して姚坨子を略取せり、當時該村落内に敗殘兵潛匿せるに依り、第二中隊をして戸毎に搜索せしめ俘虜九名を得たり、此間歩兵第四十一聯隊第一大隊は側面より左翼隊の攻撃を援助せり、而して姚坨子附近の敵は歩兵約一聯隊機關銃八挺にして、其大部は長義套方向に退却し、其一部三犬子に停止して抵抗も日没さなれり。

是夜第一線たる歩兵第四十二聯隊（第一大隊本部及第三第四中隊欠）は姚坨子、同第四十一聯隊は柳條口を守備し、砲兵第五聯隊（第三中隊欠）同第十七聯隊（第一大隊欠）及豫備隊は大台附近に宿營す。

第八師團は前日の戰鬪局を結ばずして夜に入り、殊に蘇麻堡の夜襲を受け、纔に村内の一部を維持して天明に至る、午前七時四十分蘇麻堡北方及西北方に方り激烈なる銃聲起るゝ同時に、歩兵第三十二聯隊長森川中佐は同第二大隊長三村少佐より敵の歩兵約一聯隊襲來すとの報告に接し、直に第四中隊を第二大隊の左翼に増加す、乃ち同中隊は土壁に據り、第七第八兩中隊前面の敵を側射して之を撃退し、第六中隊及第八中隊の一小隊は機に乗じ蘇麻堡西北部の敵を突撃して同地を奪回し、更に退却せる敵を射撃し將校以下七十餘を捕虜とす、時に八時にして同時二十分歩兵第十七聯隊の一小隊來援して敵の左翼を射撃し、同第五聯隊第一大隊も森川中佐の命に依り、同第三十二聯隊の左翼に展開するや、幾も無く敵の左翼黒溝台に向ひ退却を始めしも北端家屋に據りし其一部は依然頑強に抵抗し、歩兵第三十二聯隊第一大隊の左翼を掃射し損害頗る多し、此に於て森川中佐は九時第三中隊をして之を強襲せしめ、數回突撃を反復せしも奏功せず、十時四十分に至り中央隊長渡部大佐〔田部少將負傷歩

兵第十七聯隊長之に代れり」より速に此敵を撃攘すべき命令を受け、第六第八中隊をして強襲せしむ、然れども頗る頑強にして抜く能はず、第三中隊をして該家屋に火を放たしめしも尙頑として動かず、此に於て森川中佐は河埗子附近に到着せる砲兵第二聯隊に該家屋を射撃せんことを求めしも、當時第二師團の巴荒地附近の敵の攻撃に全力を傾注せるの故を以て之を果さざりしに依り、午後二時頃更に第六中隊に突撃を命じ、第三第八中隊をして西方より之を援助せしむ、乃ち第六中隊長中村大尉は暫く戦を止め三時過ぎ急に起つて突入するや事の不意に驚き錯愕爲す所を知らず、其大部遂に降服し（將校以下約二百二十を捕虜とす）一部は黒溝台に向ひ退却せるも附近の各中隊は歩兵第十七聯隊第二大隊と共に之を射撃し殆ど殲滅に歸せしめたり。

右翼隊は夜來の位置にありて午前八時二十分より黒溝台東北の敵に向ひ射撃を開始し、十一時師團長より猛烈に攻撃すべき命を受け同四十分攻撃を始め、午後二時敵前約九百米に達せしも頗る頑強にして、殊に其砲兵及機關銃の掃射甚しく其後の攻撃毫も進捗せず、而も漸次彈藥缺乏し損害亦多く殊に歩兵第五聯隊を最とす、依て砲兵掩護に任せし工兵第一中隊を以て彈藥を補充し攻撃せるも進捗せず、第一線諸隊は敵の陣地を距る六百乃至千米に停止して日没を爲りしに因り、七時三十分歩兵第十七聯隊第一大隊、同第三十二聯隊第三大隊（二中隊欠）及後備歩兵第十七聯隊をして夜襲せしむ、乃ち歩兵第十七聯隊第一大隊（代理石川大尉）後備歩兵第十七聯隊（代理野治少佐）及歩兵第三十二聯隊第三大隊（第十一第十二中隊欠）（湯澤少佐）は併列し各隊は縦隊横隊の一線と爲り、各中隊は斥候を先遣し互に連繫して前進し、敵を距る約三百米に達し其射撃を受けしも夜暗くして損害大ならず、乃ち諸隊は蹙進して突撃に移り、黒溝台東北に據れる敵を驅逐し十時五十分同地を略取し、直に防禦工

事を施せり（土地凍結せしに因り多くは携帶天幕を以て土囊に應用せり）爾後敵兵屢々回復攻撃を企て、且つ各方面より激烈に射撃せるも終に之を固守せり、此間後備歩兵第三十一聯隊及同第五聯隊（第一大隊欠）は老橋に集合して豫備隊となり同地に夜を徹せり。

中央隊長渡部大佐は午後後備歩兵第八旅團の黒溝台東方丘阜に向ひ攻撃中なるに、村山支隊の黒溝台西方哈爾堡に向ひ攻撃せるを知り、直に黒溝台南側の敵を攻撃するに決し、歩兵第三十二聯隊（第五中隊及第三大隊欠）をして黒溝台西南角に、同第十七聯隊（第一大隊及第七中隊欠）をして之に連繫して黒溝台に向ひ攻撃せしむ、乃ち歩兵第三十二聯隊は第一第二大隊（第五第六中隊欠）第一線、第二大隊を基準とし該大隊右翼の目標を黒溝台西南端に取り、第二大隊（代理田坂大尉）は第八中隊を第一線とし、蘇麻堡西北端に散開するや黒溝台西南の敵兵射撃を開始し、殊に其砲火蘇麻堡西端に集注す、此時第一大隊（關口少佐）は第一第二中隊を第一線（第三中隊は蘇麻堡に於て捕虜の護衛後大隊に復し豫備隊と爲る）とし黒溝台に向ひ前進し、敵前約五百米に近接せしも猛烈なる敵の機關銃及小銃火を受け、而も其左右兩翼に連なる、第二大隊及歩兵第十七聯隊と連絡を失ひ遂に其地に停止せり。

歩兵第十七聯隊（境大尉指揮す）は午後四時五十分、歩兵第三十二聯隊第一大隊の前進と共に黒溝台及其南方の敵に向ひ攻撃を始め、右翼の第十一中隊をして敵砲兵を射撃せしめ、第二第三大隊を第一線とし、歩兵第三十二聯隊に連繫して攻撃を始め、乃ち第二大隊（第五第七中隊欠）（野村少佐戦死し赤座大尉代理す）第三大隊（第九中隊欠）（長谷川少佐負傷式田中尉代理す）は一線に展開し共に黒溝台附近に向ひ前進せり、此時第二師團の砲兵

蘇麻堡東南に進出し老橋附近の砲兵と共に黒溝台を射撃し、我前進を援助すと雖も黒溝台及其南方の敵兵猛烈に射撃し、殊に五時二十分以後黒溝台南端の機關銃の射撃頗る猖獗を極め、尙同時三十分頃蘇麻堡西北約七百米の無名寺附近の敵亦蘇麻堡西北端を射撃するこゝ猛烈なり、當時歩兵第三十二聯隊第二大隊は其左翼に連繫して攻撃すべき歩兵第五聯隊第一大隊の進出を待ち蘇麻堡西北端に在りしも、森川中佐は第二大隊を以て無名寺附近の敵を撃攘せしむ、時に蒼色蒼然たりしも前進して七時三十分遂に無名寺附近の敵を突撃せり、此間歩兵第五聯隊（第三大隊欠）及同第三十一聯隊第五中隊も亦獨斷を以て中央隊の左翼に連繫し、黒溝台東北の敵砲兵及南方無名寺附近の射撃を冒し無名寺附近に進せり、同第十七聯隊も亦其右翼に連なり前進せしも諸隊は終に日没前に陣地に突入するこゝ能はず、七時十分全線敵前五百乃至七百米に近づきしも敵火の拒止する所と爲り、八時三十分歩兵第十七聯隊（第一大隊欠）は第一線を蘇麻堡北方丘阜の舊位置に退け、更に隊伍を整頓し夜襲の時機を待ち、同第三十二聯隊第一大隊は同村北方獨立家屋附近に退却す、然るに是夜十一時過ぎ敵の歩兵約一大隊歩兵第十七聯隊（第一大隊欠）の左翼及同第三十二聯隊第一大隊に來襲せしも協力して之を撃退せり。

左翼隊の主力は前日五家子に在りて優勢なる敵の包圍する所と爲り、且彈藥缺乏せるも後方の連絡斷絶し補充するを得ざりしが故に、左翼隊長依田少將は一たび退却して三尖泡を確實に保有し以て、第二師團の進出に便し且彈藥を補充し、又他隊と連絡し再び五家子を回復せんを欲し、午前二時二十分命令を下し歩兵第五聯隊第三大隊（樋口少佐）をして所要の部隊を残置し他を以て三時出發三尖泡に到り、其西端を警戒し同第三十一聯隊（第二大隊本部及第五第七中隊欠）をして退却掩護の部隊を現在地に殘して、同第五聯隊第三大隊に跟隨せしめ、同聯

隊（第三大隊欠）及同第三十一聯隊第二大隊（第六第八中隊欠）を依然現在地に置き、乃ち歩兵第五聯隊第三大隊、同第三十一聯隊の主力は運動を始め四時三十分三尖泡に到り、歩兵第五聯隊第三大隊は第一線と爲り、三尖泡——五家子道の兩側を占領し、同第三十一聯隊第一大隊は第二線と爲り、第一線の右翼後に位置して蘇麻堡に對し警戒し、同村の歩兵第五聯隊と連絡し五時三十分、歩兵第三十一聯隊第三大隊（第九第十二中隊）を江家窩棚に派遣し、後方の連絡を確實にせり、然るに八時に至り敵の歩兵約一大隊五家子東端を占領し、十一時頃迄に村山支隊の屈家窩棚より斜哨に互る線に在りて敵と對峙せるこゝ、及摺澤支隊の幾も無く屈家窩棚に到着すべきを知り、歩兵第五聯隊第三大隊を本道に跨り三尖泡の前端に、同第三十一聯隊第一大隊を該大隊の右翼に展開し共に五家子に向ひて攻撃を準備せしめ、又歩兵第五聯隊の主力をして中央隊と協同して黒溝台を攻撃せしむ、同時頭泡方面五家子西南及巴荒地附近の敵砲兵三尖泡に向ひ射撃を開始するや、午後零時四十五分我第二師團の砲兵一大隊屈家窩棚北側に放列を布き此敵砲兵に對し射撃を開始せり。

午後二時過ぎ彈藥到着せしに依り、分配の後歩兵第三十一聯隊（第五第七中隊及第三大隊欠）及同第五聯隊第三大隊を第一線とし、五家子に向ひ攻撃を開始す、乃ち歩兵第三十一聯隊は第一大隊（第四中隊欠）を第一線、第四第八中隊を第二線とし、歩兵第五聯隊第三大隊は第十一中隊をして三尖泡西南端を占領し、巴荒地方面に對し大隊の左側を掩護せしめ、第九第十二中隊を第一線とし共に五家子に向ひ前進す、此時五家子西南の敵砲兵退却し、巴荒地附近の徒歩兵二、三大隊、機關銃三、四挺、砲八門は頭泡方面の敵と共に熾に射撃せるも、鋭意前進して三時三十分頃第一線の將に五家子東端に達せんを比に、第二師團の第一線部隊たる歩兵第十五旅團三

尖泡に達し、其機關砲四門を同村西南端に布き巴荒地の敵を射撃し以て我前進を援助せり、乃ち四時頃五家子の歩兵約一大隊を驅逐し之を回復せり、依て依田少將は更に頭泡を略取せん欲せしも、同地の敵兵前日より兵力を増加し廣大なる正面を以て頑強に抵抗し、且つ黒溝台西南及西北の敵砲兵猛烈に射撃するに反し、我の應射すべき砲兵無きが故に兵燹に罹りし同村内に在りて日没を待ち、七時三十分頃に至り敵砲熄みし時第二線の歩兵第三十一聯隊第三第四第八中隊及同第五聯隊第十中隊は頭泡に向ひ前進し、其村端四、五十米に達せしも激烈なる敵の機關銃及小銃火を受け、且つ優勢なる敵歩兵の包圍を受けんとせしに依り、遂に退却し五家子を保有して夜を徹せり。

砲兵第八聯隊は略前日の位置に在り、戦利野砲兵中隊は若干前進して共に黒溝台附近の敵を射撃し専ら右翼中央兩隊の攻撃を援助せり。

摺澤支隊は午前一時三十分狼洞溝に於て第八師團長より午前七時迄に屈家窩棚に前進し、村山支隊の右翼に連繫して當面の敵を撃攘し、更に五家子方向より黒溝台を攻撃すべき命令を得、乃ち摺澤少將は二時歩兵第十一聯隊、砲兵第十七聯隊（第一大隊欠）をして午前五時迄に狼洞溝西南に集合せしむ、然るに砲兵隊の所在不明なりしが故に追及せしむるに決し、歩兵第十一聯隊第一大隊（大城少佐）を前衛、其他を本隊として六時狼洞溝を出發し七時二十分屈家窩棚東方に達し開進して騎兵第八聯隊（第二中隊と第三中隊の一小隊欠）を併せ前面の敵情を搜索し、歩兵第一大隊を第一線第二第三大隊を豫備隊とし、蘇麻堡に前進せり、此時砲兵第十七聯隊より夜來何等の命無きに依り、今朝獨斷を以て大台北方に於て第五師團の戦團に參與せり、而して今より支隊方面へ轉進するは

時機を失するの虞あるが故に、現状を維持し後要あれば屈家窩棚に前進すべしとの報告あり、九時十五分第八師團長より砲兵第十七聯隊（第一大隊欠）は第五師團に復し又第二師團（歩兵八大隊、砲兵一大隊）は今朝狼洞溝に到着し、正午頃支隊に同任務に就くが故に情況之を許せば、第五師團に復歸すべき命令を受領す、當時支隊は蘇麻堡南方を前進中なりしが故に現況を將來五家子方面に前進せんとする希望を報告し、依然前進を繼續し十一時其第一大隊を以て蘇麻堡西北端より西南端約百米迄を占領し、其他を以て同村東南約四百米の凹地に開進せり然るに午後一時八分第八師團長より當面の攻撃に參與し、第二師團到着後其令下に入るべき命令に接し、同時二十分之を第二師團長に報告して今後の命を請ひ、二時五十五分同師團より歩兵第十五旅團は午後一時頃屈家窩棚の線を發し、巴荒地附近の敵を驅逐したる後右方に旋回して黒溝台附近の敵を攻撃する豫定なり、依りて支隊は暫く現在地附近に停止し後黒溝台に向ふべき命令に接し、三時十分歩兵第十一聯隊本部及第三大隊（山口少佐）を第一大隊に増加し蘇麻堡西端より三尖泡に互る間を占領せしむ。

摺澤少將は午後四時四十五分歩兵第十六旅團長代理渡部大佐より今より黒溝台を攻撃せんとする旨の通報に接し第一大隊をして之を援助せしめんとせり、六時五分第二師團長より情況之を許せば第八師團右翼隊の黒溝台東北陣地に對する攻撃を援助すべき命令を受領し、六時十分歩兵第十一聯隊（第二大隊本部及二中隊欠）をして第八師團の左翼に連なり、黒溝台の攻撃を援助せしむ、即ち歩兵第十一聯隊長石田中佐は六時三十分蘇麻堡西南より其第一大隊（第四中隊欠）（大城少佐）及第五中隊をして歩兵第五聯隊長代理井坂少佐の率る部隊の左翼に連なり、黒溝台に向ひ前進するや敵兵猛烈に射撃し、且つ機關銃四挺之に加はりしも黒溝台と頭泡との中間に向ひ前

進し、十一時黒溝台西南約五百米に達せり、時に井坂少佐の率ゐる部隊は其の右翼無名寺附近に、歩兵第三十二聯隊は更に其右翼にあり。

大城少佐の率ゐる歩兵第十一聯隊第一大隊（第四中隊欠）及第五中隊は夜に入るも敵の右側背に突入せん欲し獨斷を以て猛烈なる敵火を冒して前進し、十一時黒溝台西南約五百米に達して隊伍を整へ、尋て其右翼に在りし第八師團の諸隊と協同して黒溝台の敵を夜襲せんも、同師團中央隊方面に敵襲あり遂に協同するものなきに至りしに依り、蘇麻堡に退却して夜を徹せり。

村山支隊の 状況

村山支隊は午前五時五十分斜哨に於て第八師團長より午前七時出發、右翼に連絡すべき摺澤支隊と連絡して猛烈に前面の敵を攻撃すべく、若し遠く前進するに際せば狼洞溝に歩兵一大隊を留め、守備に任すべき命令を受領し先づ終二堡附近の敵を攻撃せん欲し六時十分命令を下し、歩兵第二十一聯隊（第三大隊欠）をして同村に向ひ攻撃せしめ砲兵第三中隊をして終二堡方向に對し午前七時迄に斜哨西端に放列を布かしめ、騎兵第五聯隊第二中隊を同時出發荒甸子、沙溝子附近の搜索に任せしむ。

終二堡攻略

歩兵第二十一聯隊（第三大隊欠）（稻葉中佐）は江家窩棚及斜哨附近に在りて摺澤支隊の進出を待ちて前進し、終二堡北方約千米の丘阜より同村西端に互る線に前進し、午前九時三十分同村を占領せり、此間騎兵支隊の主力は洪家窩棚附近を搜索し支隊の左側を掩護す、十時二十分敵の騎兵五、六中隊哈爾堡附近より我左翼に迂回するの狀あり、且つ敵の砲兵哈爾堡南端より終二堡を射撃し尋て其騎兵、砲約二門を伴ひ趙家臥棚附近に現出し、同方面に在りし我騎兵第五聯隊第二中隊の一小隊は其壓迫する所と爲り、曹家窩棚方向に退却せしに依り、騎兵支

隊は午後一時三十分第一中隊を亮子口に差遣し沙溝子方向の敵情を搜索せしむ。

砲兵第三中隊は午前十一時四十分終二堡西南端に陣地を變換し、哈爾堡南端の敵砲八門を射撃し午後零時二十分に至り沈黙せしむ、次て同砲兵退却の狀あるを以て之を急射し、尋て敵騎の哈爾堡より南進するを認め一小隊をして終二堡最南端に陣地を變換して砲撃し之を潰亂せしめたり。

哈爾堡攻略

村山少將は午後一時第五師團命令に依り騎兵第二中隊の一小隊を大台に送り、原隊に復歸せしめ三時五分第八師團長より前面の敵騎を驅逐し、本戦の進捗に伴ひ洪家窩棚に進み、北坨子、牛居、里仁屯に互る線を警戒し爲し得れば河公堡及小北河の守備隊と連絡すべき命令を受領す、即ち歩兵第二十一聯隊は四時第一第二大隊を第一線とし哈爾堡に向ひ攻撃し、砲兵第三中隊は陣地を終二堡西端に變換し、巴荒地南方及哈爾堡南側の敵砲兵を射撃す、當時哈爾堡附近の敵は少くも歩兵一大隊、騎兵一旅團にして其砲兵は巴荒地、哈爾堡間に六門、哈爾堡南側に八門ありて熾烈なり、然るに第一線部隊は此の猛烈なる敵火を冒して前進せるも、地形平坦にして據るべき地物なく、五時三十分頃死傷甚だ多く爾後の前進意の加くならず、此に於て聯隊長稻葉中佐は増援を請へり、即ち村山少將は其第三大隊（第十一第十二中隊欠）を増加す、此時第二師團の第一線は殆き支隊の第一線に連絡し其砲兵は巴荒地、哈爾堡を射撃せり。

第一線部隊は午後六時前進して哈爾堡村端を距る七、八百米に達す、此時敵の機關銃二挺同村より熾に我を射撃す、此間砲兵第三中隊は巴荒地及哈爾堡の敵砲十四門と砲戦せしも六時二十分彈藥缺乏し砲撃中止の已むなきに至る、然れども第一線は前進を繼續して哈爾堡に進入し之を占領せり時に七時頃なり。

村山少將は此夜哈爾堡附近に停止するに決し歩兵第二十一聯隊（第三大隊欠）を以て北、西、南の三方面を警戒し巴荒地附近の第二師團との連絡に任し、殘餘の部隊を以て哈爾堡東部に宿營し、騎兵支隊は日没後に至る迄羅家臥子に在りて搜索せし後曹家窩棚に到り宿營す。

第二師團は午前二時發接子出發康古屯を経て七時三十分狼洞溝に達して其東南に開進す、八時第八師團長より屈家窩棚方向に前進し村山支隊の右翼に連繫して前面の敵を撃攘し、更に五家子方向より黑溝台の敵を攻撃すべき命令に接し、且つ第八師團の老橋、蘇麻堡、五家子附近の線より黑溝台附近の敵を攻撃し、其左翼三尖泡、巴荒地及黃臘坨子方向より敵の砲火を受け、又村山支隊の屈家窩棚、斜哨の線に在りて牛居方向より前進せし敵と戦鬪せるを知り、九時五十分師團の開進を畢るや、十時十分命令を下し歩兵第十五旅團をして屈家窩棚方面より当面の敵を撃退して三尖泡を占領し、砲兵第二聯隊（第一大隊欠）をして屈家窩棚附近に於て巴荒地、三尖泡に對し放列を布き、速に射撃を開始せしむ、乃ち歩兵第十五旅團（歩兵第三十聯隊第一大隊本部及第一第二中隊欠）（小原少將）は十時四十分狼洞溝出發、歩兵第三十聯隊（第一大隊本部及第一第二中隊欠）を右縱隊、第十六聯隊を左縱隊として屈家窩棚に向ひ前進し、其他の諸隊も順次運動を開始し正午屈家窩棚東端に開進す、旅團長小原少將は歩兵第四旅團既に三尖泡を占領して目下五家子附近の歩兵約一旅團の敵を攻撃せると村山支隊の巴荒地、哈爾堡附近の敵騎兵約一師團と對戦中の情報を得、直に歩兵第三十聯隊（第一大隊本部及第一第二中隊欠）同第十六聯隊（第二大隊欠）を併列して第一線とし三尖泡に向ひ前進せしむ。

砲兵第二聯隊（第一大隊欠）は狼洞溝より急進し途中金家窩棚西方に於て頭泡方向より敵の砲火を受けしも、前進を繼續して午後零時四十五分屈家窩棚北端に放列を布き、五家子附近及巴荒地南方の敵砲兵に向ひ射撃を開始し以て歩兵第十五旅團の前進を援助せり。

歩兵第三十聯隊（代理長谷川少佐）同第十六聯隊（谷山大佐）は縱隊横隊を爲り、三尖泡に向ひ前進す、此時哈爾堡附近の敵砲兵熾に之を斜射し、尙頭泡方向の敵砲兵も之に加はり、將校以下百十餘の死傷を生ずるも邁進して三時三十分三尖泡に進入し、同第十六聯隊第四中隊は同村東南の小丘阜を占領して左側背の掩護並に村山支隊との連絡に任す、當時第八師團左翼隊の主力は五家子の敵を攻撃中にして、巴荒地附近の敵兵熾に之を側射せしに依り、直に兩歩兵聯隊の機關砲四門を三尖泡西南端に布き射撃して同隊の前進を掩護せり。

此時師團長は第八師團長より後備歩兵第八旅團は既に黑溝台に突撃し、歩兵第十六旅團は黑溝台東南丘阜の敵陣地を略取せり、依て情況之を許せば先づ其師團の砲兵を黑溝台の攻撃に參與せしめんことを望むとの訓令に接し之を砲兵第二聯隊に傳へ第六中隊をして黑溝台附近の攻撃に參與せしめたり。

歩兵第十五旅團は午後四時二十分村山支隊と協力して巴荒地の敵を撃退すべき師團命令を受領し、即ち歩兵第三十聯隊は第三大隊と第三第四中隊を第一線同第十六聯隊（第二大隊欠）は第三大隊を第一線とし北坨子及巴荒地附近の徒歩せる騎兵約三中隊を撃攘し、漸次躍進して五時四十分敵を撃退して北坨子及巴荒地東方の陣地を占領せしも、敵兵更に巴荒地及北坨子の村端に據り抵抗せしが故に、歩兵第三十聯隊は北坨子に、同第十六聯隊は巴荒地に向ひ攻撃し、其第一線は同四十分北坨子、巴荒地に進入して兩村を占領し、此夜同第三十聯隊は北坨子に、同第十六聯隊（第一大隊欠）は巴荒地に、同第十六聯隊第二大隊は五家子に位置し、各警戒を嚴にして夜を徹す、

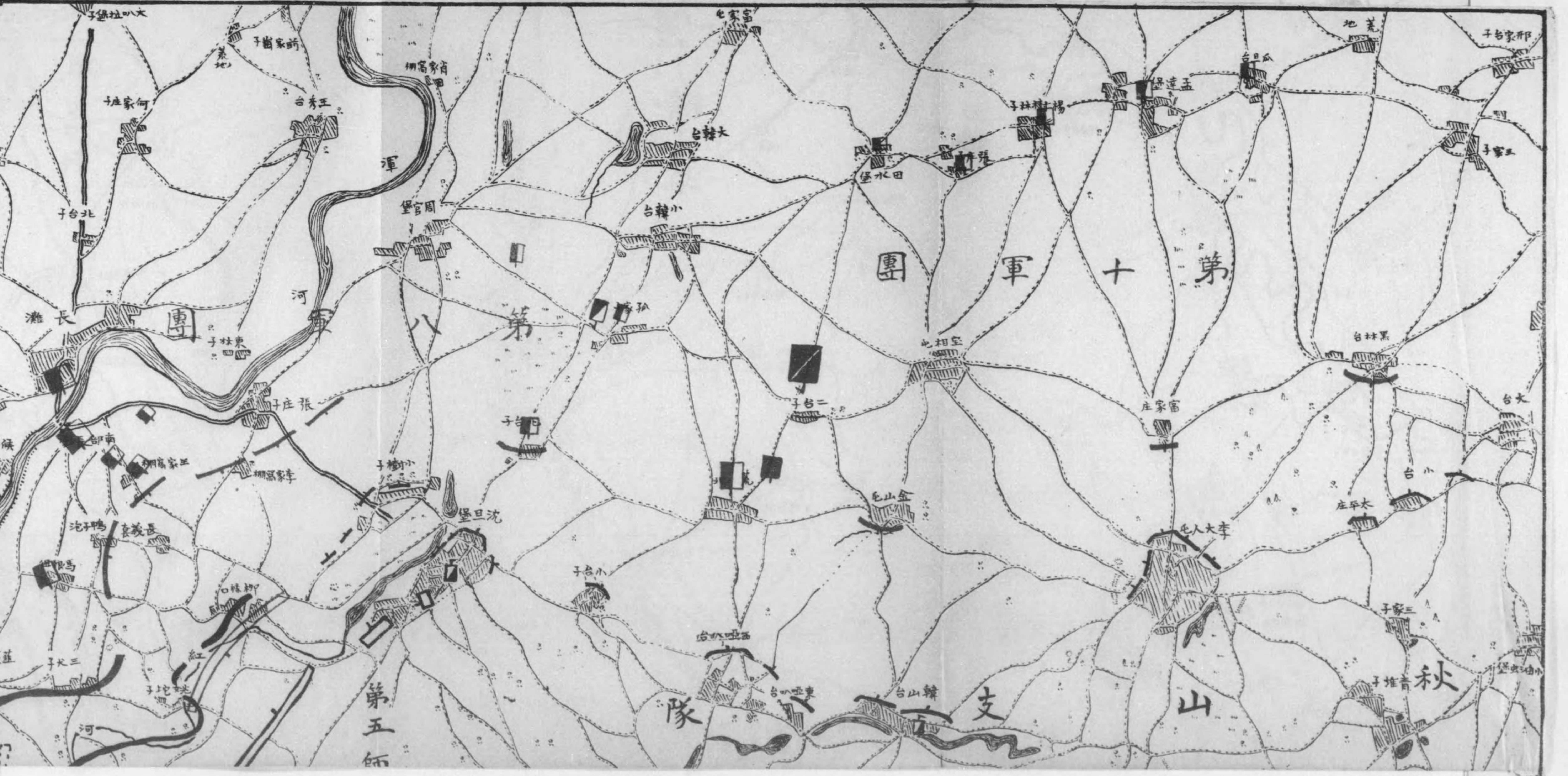
砲兵第二聯隊（第一大隊欠）は小原少將の令下に入り三突泡に、歩兵第四聯隊（第二大隊欠）は屈家窩棚南方に、王兵第二中隊（一小隊欠）は江家窩棚に宿營す。
騎兵第二旅團は午前九時小北河東北端に集合し、三家子に前進午後一時五十五分敵の騎兵約一旅團洪家窩棚に侵入せるを以て諸隊をして徒歩戦の準備をなさしめ、敵の進出を待ちて撃退せんを圖りしも、三時三十分迄南進の狀なきが故に友軍と連絡し五時三十分馬草灣に到着し、九時三十分黄泥窪に到り宿營せり。

一月二十九日の状況

1 李大人屯方面の状況 降雪尙歇まず寒氣其極に達し、攝氏零點下二十度を示せり、支隊主力前面の敵は依然黒林台、富家庄の線を占領し、夜來重砲を以て大台、小台間を射撃せり、支隊長は夜半頃第二軍司令官より第四師團の歩兵一大隊をして代りて小台を守備せしむるを以て、從來の守備隊にて太平庄を固守すべき命令を受け、直に之を歩兵第九聯隊に命ず、乃ち在小台の歩兵第九聯隊第二大隊（第五第八中隊欠）（今屋少佐）は午前五時三十分、歩兵第三千八百聯隊第三大隊に其守備を譲り、七時三十分太平庄に到り其北端を占領し陣地を構成す十時三十分我十五珊米白砲中隊は富家庄を射撃し、同地の敵の歩騎兵の一部を楊樹林子方向に潰走せしめ、砲兵第十三聯隊第四中隊亦之を射撃し、尋て同白砲中隊正午頃迄寶相屯を射撃す、然るに此射撃と共に寶相屯東南端の敵砲約十六門は應射し、其後砲戦を繼續して夕に至る、尙ほ三家子附近の敵砲兵亦太平庄を射撃せり、此間敵の砲兵約一聯隊田水堡北方より二台子西方に行進し、又同歩兵約一大隊、瓜旦台西方約五百米の地を前進せるも



後備歩兵第十旅團



第十軍團

第五師

隊

支

山

秋

長

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

河

子堡拉四

子齒家前

子齒家前

七家富

地荒

子台家那

子台北

台秀王

台韓大

堡水田

子林村楊

子林村楊

子林村楊

子家五

灘長

子林東

堡官周

台韓小

地相空

台林黑

子庄張

子台四

子台二

莊家富

台大

子台南

子台南

子台南

子樹小

堡旦沈

子台小

台山金

台山大李

台小

子台馬

子台馬

子台馬

子台馬

台八四

台八四

台八四

子家三

子台三

子台三

子台三

子台三

子台三

子台三

子台三

子台三

子台三

黑溝附近之戰會

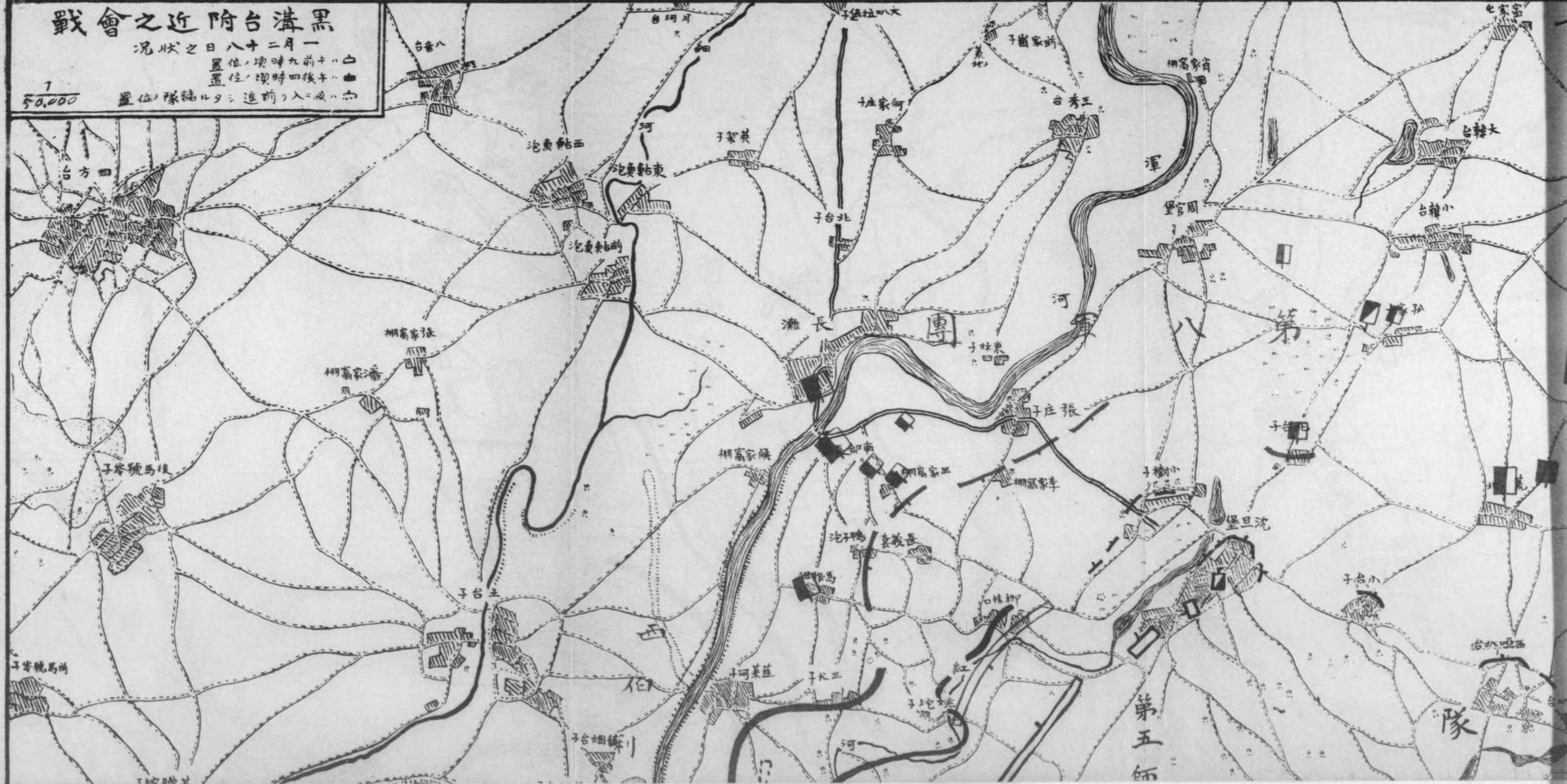
一月二十八日之狀況

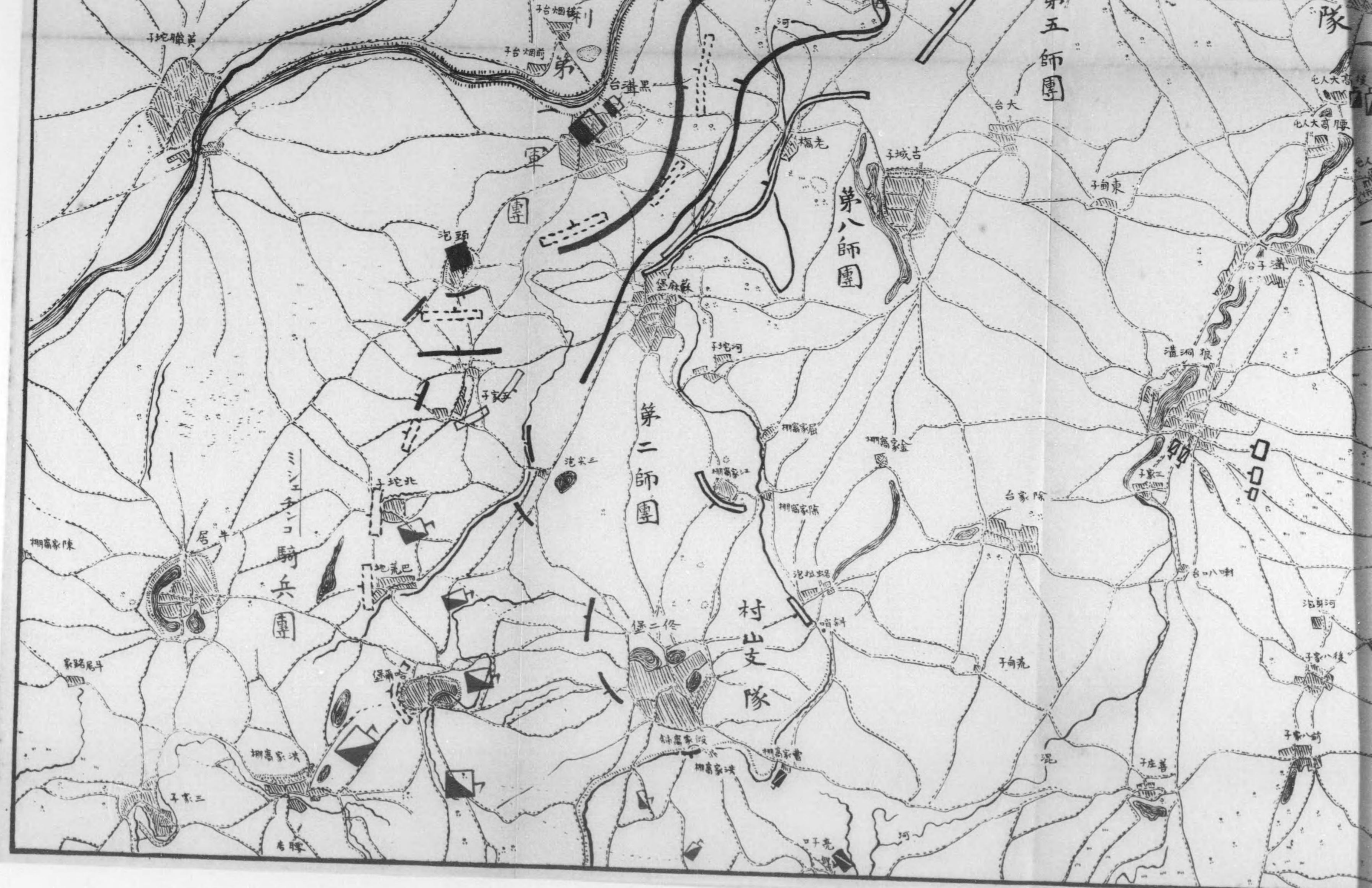
○ 午前九時之位置

● 午後四時之位置

○ 前進之部隊位置

7
50,000





我野砲兵中隊の射撃に依り潰亂せり。

2 啞叭台、韓山台方面の状況

三岳支隊前面の敵は西啞叭台の北部に停止せしも、午前二時頃攻撃を再開し西啞叭台の我諸隊は直に之に應戦し、工兵第四大隊第一中隊の一小隊亦手榴彈を擲ち、戦闘約二十分の後之を撃攘せり、東部及中部啞叭台の歩兵第十八聯隊第三大隊は西啞叭台方面に敵襲ありしを知り、直に前面を搜索し敵兵前進の状なきを確め、西啞叭台に赴援せんとせしも幾も無く該方面の銃聲鎮靜せしに依り之を止めたり。歩兵第十八聯隊長石原大佐は西啞叭台北部の敵を攻撃して、舊守備線たる北端の線を回復せんを欲し、午前四時三十分命令を下し第一大隊をして七時を期し前面の敵を攻撃し舊守備線を奪回せしめ、第九中隊をして同時に中部啞叭台西北端より第一大隊の右翼に連繫して敵の左側を攻撃せしむ、乃ち同大隊は第一第三第四中隊を第一線第二中隊を豫備隊とし、第九中隊と共に午前七時前進せしむ、敵兵既に退却し唯斥候の徘徊するのみなりしに依り、七時三十分舊守備線を占領し、第三第四中隊をして之を守備せしむ、幾も無く歩兵第三十四聯隊第一大隊は兒玉少將の命に依り此攻撃に協力せんを欲し、西啞叭台に到着せしむ此情況を見後高大人屯に歸還せり、而して西啞叭台固有の守備隊たる平佐少佐の率る歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊後備隊兵第三十一聯隊第四中隊、騎兵第九聯隊第一中隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊同第八大隊第三中隊の一小隊は、歩兵第十八聯隊第一大隊の舊守備線回復後諸隊を整頓し、且つ戰場掃除に従へり、然るに八時敵の歩兵約二大隊小台子附近より荒地に退却し、尙ほ同約一中隊荒地東方約一千米に防禦工事を施せるが故に、歩兵第十八聯隊第一大隊は依然西啞叭台北端を守備し、同第九中隊は中部啞叭台に、第十二中隊は東啞叭台に位置して警戒す。

前夜啞叭台に來襲せる敵の戰場に遺棄せし死體一百二を算せり。

韓山台三岳支隊の主力は朝來戰備を嚴にし警戒す、午前七時砲兵第十三聯隊〔佐野大佐〕の主力は韓山台北側に放列を布き、九時頃より金山屯及荒地に向ひ砲撃を開始し、三岳支隊所屬の騎砲兵小隊亦之に協力して金山屯を砲撃す三岳中佐は機關砲一門をして啞叭台に赴援せしめたり。

元來砲兵第十三聯隊〔第一第四中隊を缺き歩兵第十八聯隊第二大隊、工兵第三大隊第二中隊(一小隊欠)を附す〕は第三師團命令に依り韓山台北端の陣地に就き、西方に移動する敵を牽制すべき豫定なりしも、午前一時二十分第三師團參謀長歩兵大佐山田忠三郎より敵兵沈且堡を包圍し、其左翼小台子附近に在り依て同地の敵を射撃せんことを望む旨の通牒に接し、直に第五中隊及歩兵第十八聯隊第五中隊を砲兵第二大隊長鹽島少佐に指揮せしめ後高大人屯附近に派し、敵若し天明に至るも沈且堡の攻撃を繼續せば小台子附近の敵に對する陣地に就かしめ主力〔歩兵第十八聯隊第二大隊(第五第七中隊欠)砲兵第一大隊(第一中隊欠)第六中隊を附す〕をして五時郝家屯を出發し、又既に韓山台に到着せる歩兵第七中隊、工兵第二中隊(一小隊欠)を同地に於て主力に合せしむ。而して同主力の韓山台に到着するや、六時三十分同村北端の陣地に進入し、歩兵第二大隊(第五第七中隊欠)を東端に、第七中隊を西端に配置せしも、朝來煙霧空を罩め射撃するを得ず、然るに七時頃に至り歩兵第十七旅團長兒玉少將より歩兵第十八聯隊(一大隊欠)は西啞叭台に侵入せる敵を攻撃せんとす、依て天明より之を援助せんことを望むの通報あり、尋て該聯隊長石原大佐よりも亦荒地附近一帯を射撃して、我攻撃を援助すべき請求ありしも煙霧尙ほ解れず、九時に至り同大佐より舊陣地を回復し敵兵荒地方向に退却するの通報を得、此時朝霧漸

く散せしに依り砲兵第三第六中隊を以て荒地東端を北方に退却中の敵歩兵に、第二中隊を以て金山屯西方に集合せる敵の騎兵に向ひ射撃し、九時二十分頃砲兵約一中隊荒地より逐次寶相屯方向に退却するを見、第二中隊之を急射するや忽ち混亂して金山屯の後方に退却せり、十時二十分頃敵の砲兵約一中隊金山屯東南端より應射し、約三十分の後沈黙し且つ其陣地を撤退せるが如く、尋て十一時頃敵の歩兵約二中隊金山屯より東北に退却す、乃ち砲兵第二第三中隊之を射撃して潰走せしむ、此頃敵の砲兵約二中隊寶相屯東北より繼に李大人屯を射撃せしに依り、砲兵第一大隊は同時十五分敵の側面を射撃するも、應戦せざりしが故に約十五分の後中止せり、爾後砲兵諸中隊は時々荒地及金山屯附近の移動する敵を射撃す、午後二時五十分敵の砲兵約一中隊寶相屯南端に現はれ繼に我を射撃す、即ち砲兵第六中隊直に之に應戦し約四十分の後沈黙せしむ、然るに四時五十分敵の砲兵一中隊増加して韓山台及西啞叭台を射撃し、遂に此兩村に火災を起すに至る、依て砲兵第一大隊は全力を擧げて大に奮戦し約三十分の後再び之を制壓したり。

今朝後高大人屯附近に派遣せし歩兵第十八聯隊第五中隊及砲兵第五中隊は午前三時四十分郝家屯出發後朱官台、大觀音閣を経て五時四十分前高大人屯に到る、當時西啞叭台及小台子方面の情況明らかならざりしに依り、砲兵中隊は前高大人屯の北端に放列を布き、歩兵中隊は西部腰高大人屯及砲兵陣地の右翼に位置し、八時頃に至り歩兵第十八聯隊の啞叭台北部に侵入せる敵を撃退せるを知り且つ十時に至り、小台子附近の敵亦退却し沈且堡に對する敵の攻撃失敗せるものゝ如きを知り、依然現陣地に在りて警戒せり。

3 沈且堡方面の狀況

豐邊支隊は依然戰備を嚴にして敵の攻撃に備へしも、夜來小台子、北台子方面共

頗る静穩にして小台子に在りし敵兵今朝黎明北方に退却せるを知り、八時騎兵第十四聯隊第四中隊の一小隊を以て小台子、同第十三聯隊第三中隊の一小隊を以て小樹子の守備に任し、歩兵第三十三聯隊をして小台子に對する正面の守備を撤せしむ、乃ち同聯隊（第一大隊欠）は第三大隊の守備を撤し、之を豫備隊として西南部沈且堡に位置す、九時過ぎ敵兵大韓台附近より野砲十二門、周官堡附近より十五珊米白砲四門を以て沈且堡を射撃せしも我砲兵之に應戦せず、午後に至り其の砲撃益猛烈となり村内殆ど砲彈の達せざる處なく、或は家屋を毀ち或は火災を起し多大の損害を生ぜり。

是より先豊透大佐は第一線の守備を交代せんせしも、此に至り之を中止し午後七時二十分敵の砲撃止むや、砲兵第三聯隊第一中隊及騎砲兵中隊（一小隊欠）を以て周官堡、大韓台、孤家子、北台子の各地を射撃せり。

秋山少將は以上の状況に依り此夜各方面にも依然警戒を嚴にして夜を徹せしむ、而して従來三岳支隊に屬し啞叭台方面に在りし後備歩兵第三十一聯隊第四中隊は原隊に復歸し、佐野大佐の率ゐる砲兵第十三聯隊（第一第四中隊欠）歩兵第十八聯隊第二大隊及工兵第三大隊第二中隊（一小隊欠）は第三師團命令に依り韓山台及前高大人屯附近の陣地を撤し、郝家屯及楊家甸子に宿營し、又西啞叭台の歩兵第十八聯隊（第二大隊欠）は第三大隊（第九第十二中隊欠）を以て第一大隊に代り西啞叭台北端陣地の守備に就き、第九第十二中隊は依然現在陣地の守備に任し、第一大隊は後高大人屯に退き宿營す、又同地に在りし歩兵第三十四聯隊第二大隊（鈴木少佐）は午後七時頃西啞叭台守備隊より前面の情況靜穩なりとの通報に接せしも、西啞叭台に到り堅固に守備すべき第二軍命令を受け更に同地に到り歩兵第十八聯隊第三大隊（遠藤少佐）と共に宿營せり。

4 友軍の狀況

第八師團長は引續黑溝台及其附近の敵を攻撃せんと欲し、前夜十時命令を下し第五師團をして柳條口及姚坨子附近を保持し、且つ爲し得れば第八師團の黑溝台攻撃を援助せしめ、第八師團をして攻撃を繼續し村山支隊をして當面の敵を西方に撃退し、第二師團をして村山支隊に連繫し五家子附近に展開して黑溝台を攻撃せしむ、然るに同夜十一時總司令官より後備歩兵第十旅團を第五師團に屬し大台に到らしむ、依て第五師團をして柳條口より長灘方向を攻撃せしめ、黑溝台以南の敵を殲滅すべき命令に接し、同時三十分第五師團長に命するに後備歩兵第十旅團は今夜出發大台に到り貴官の指揮に屬す、依て明朝柳條口より長灘に向ひ攻撃し爲し得れば之を占領すべきことを以てし、同時に第二師團長に明日猛烈に前面の敵を攻撃すべき命令を與へしも、其後第五師團長より後備旅團の到着前、長灘を攻撃するは不可能なるが故に暫く現在地を維持し、該旅團到着後、韭菜河子方向を攻撃せんとするの意見具申ありしを以て之を是認せり。

後備歩兵第十旅團（後備歩兵第二十第四十聯隊）（門司大佐）は従來第四軍に屬し雙台子附近に在りしが二十六日夜總司令官の命に依り、同地出發二十七日拂曉五里台子に到り、總司令官の指揮に屬し前日午前十一時五里台子出發午後二時大東山堡南側に開進し、第二軍司令官の直屬たりしも、午後十時三十分更に第五師團に屬せられ夜半同地出發續紛たる飛雪を冒し午前四時三十分大台に著し、同村東南側に開進す、此に於て第五師團長は三犬子及韭菜河子附近の敵を攻撃せんとし六時左の部署を爲せり。

一、歩兵第四十一聯隊は依然柳條口附近を固守し小樹子、鴨子泡方面の敵に對し師團の右側を掩護し、且つ敵の鴨子泡方向より韭菜河子方向に運動するを妨碍す。

二、歩兵第四十二聯隊（第一大隊本部及第三第四中隊欠）後備歩兵第二十聯隊（第二中隊欠）同第四十聯隊（以上門司大佐指揮す）は葦菜河子の敵を攻撃し、特に馬狼祖及黒溝台方向に對して警戒す。

三、砲兵第五聯隊（第三中隊欠）同第十七聯隊（第一大隊欠）は長義套及葦菜河子附近を射撃し、師團の攻撃を援助す。

四、歩兵第四十二聯隊第一大隊（第一第二中隊欠）後備歩兵第十聯隊（第四中隊欠）は豫備隊を爲り大台に位置す。

是より先柳條口附近の歩兵第四十一聯隊〔杉村中佐〕は午前五時三十分同村西北端に來襲せる敵兵約三中隊を撃退し、尋て此命令に接し杉村中佐は第二大隊〔今木少佐〕及第十中隊を以て、同村北端及其東方地區を、第一大隊〔平野少佐〕及第九中隊を以て同村西端を守備し、第三大隊〔第九第十中隊欠〕〔清水少佐〕を豫備隊とし同村南端に位置せしむ、十時長義套附近の敵兵退却せしを以て直ちに之を占領す。

後備歩兵第十旅團長門司大佐は午前六時三十分、後備歩兵第二十聯隊（第二中隊欠）同第四十聯隊を率ゐて大台を發し七時四十五分、姚坨子東側凹地に開進を終り同地に在りし歩兵第四十二聯隊（第一大隊本部及第三第四中隊欠）を合し八時三十分に向ひ攻撃前進して三犬子を占領し、十時三十分馬狼祖及葦菜河子を占領し、更に長溝方向に追撃す、土台子を占領せる後備歩兵第二十聯隊も亦其左翼に連繫して共に追撃す。

第八師團は二十六日以來晝夜雪中沍寒を冒して多大の損害を顧みず、攻撃を繼續し漸次其歩武を進むるに至り、其右翼隊は午前一時師團長より現に占領せる地を死守すべき訓令を受け、陣地を固守し五時頃老橋北方に來襲せ

三犬子、馬
狼祖、葦菜
河子攻略

第八師團の
黒溝台攻略

し敵の一部を撃退し拂曉第一線の諸隊は前進し、八時其右翼は渾河左岸に達し左翼は黒溝台に進入せり。

中央隊は午前五時敵の歩兵約二大隊黒溝台南端より襲來し、歩兵第十七聯隊の右翼は其包圍する所と爲り、且つ黒溝台南端の機關銃二挺の射撃を受け、激烈なる火戦を交ふるに至り、中央隊長渡部大佐は其豫備隊より歩兵第三十二聯隊第五中隊の一小隊を右翼に派遣し、此方面を警戒せしめしも五時三十分敵兵遂に退却せり、搜索の結果敵兵黒溝台を放棄せるを知り、午前八時運動を起し黒溝台に進入す、歩兵第三十二聯隊第四中隊は此敵を追撃し、諸隊は陸續黒溝台に進入して隊伍を整頓し、更に土台子に向ひ前進せり。

左翼隊は午前八時歩兵第三十一聯隊を以て頭泡を占領し、更に前進して十一時土台子に進入す、歩兵第五聯隊は第三大隊を以て土台子に、主力は黒溝台に到り隊伍を整頓せり。

第二師團長は午前零時八分第八師團長より猛烈に當面の敵を攻撃すべき命令を受け、且つ師團の第一線部隊前夜既に五家子及巴荒地を占領せるものゝ如きを知り、砲兵第二聯隊（第一大隊欠）をして三尖泡北方に放列を布き天明と共に黒溝台方向に對して射撃を開始せしめ、砲戦の後五家子方向より攻撃せんことをし、總參謀長見玉大將より速に黒溝台を攻撃し、第八師團の攻撃に協力すべき注意を受け、六時三十分更に左の部署を爲し全力を擧げて黒溝台を攻撃せり。

一、歩兵第十五旅團（第三十聯隊第一大隊本部並に第一第二中隊欠）は其占領地域を村山支隊に譲り、已むを得ざれば最小限の部隊を残置して、師團の左側背を掩護せしめ其他を以て直に五家子方向より黒溝台の敵を攻撃す。

第二師團の
黒溝台攻撃
部署

二、歩兵第四聯隊（第二大隊及第十一、十二中隊欠）は直に出發藏麻堡に到り、摺澤支隊の左翼に展開し歩兵第十五旅團と連繫して黒溝台の敵を攻撃す。

三、摺澤支隊は歩兵第四聯隊と連繫して黒溝台の敵を攻撃す。

四、歩兵第四聯隊第三大隊（第九、第十中隊欠）同第三十聯隊第一大隊（第三、第四中隊欠）及工兵第二中隊（一小隊欠）は豫備隊と爲り三尖泡に到る。

師團長は午前七時三十分村山支隊に請求するに、少くも牛居附近に前進し、師團の側背を掩護せんことを以てし豫備隊と共に三尖泡に移れり。

摺澤支隊は午前六時三十分歩兵第十一聯隊（第二大隊欠）を第一線とし、八時三十分頃第八師團と歩兵第四聯隊の間を黒溝台に向ひ前進し、十時其北端を占領せり、時に少數の敵兵烟台子南端に在り乃ち續きて之を攻撃し、十時四十五分同村を略取し更に追撃して土台子に達し、張家窩棚、鮎魚泡の敵に對せり。

歩兵第四聯隊（第二大隊第十一、十二中隊欠）（河内中佐）は午前七時三十分屈家窩棚附近出發、摺澤支隊の左翼に連繫して前進し、十時三十分烟台子に、十一時頃土台子に到達す。

歩兵第十五旅團は同第十六聯隊第十一、十二中隊を巴荒地に残し、師團の左側背を掩護せしめ其他を以て、午前七時迄に五家子に集合し、先づ頭泡の敵を撃攘せんとし、歩兵第三十聯隊（第一大隊本部並に第一、第二中隊及第三大隊欠）同第十六聯隊（第十一、十二中隊欠）を併列して第一線とし、八時四十分頭泡に向ひ前進し、敵兵既に退却せしを知り、直に歩兵第十六聯隊第三中隊をして黃臘坨子に向はしめ他を以て黒溝台方向に前進せり。

第八師團長の指揮せる各團隊警戒

第八師團長は古城子に在りて午前十時迄に、第五師團は韭菜河子附近を、第八師團は黒溝台附近を占領せしを知り、長く追撃せば却て全線に互り本戦を惹起するを慮り攻撃を中止し、柳條口、三犬子、烟台子、黃臘坨子及其以南渾河左岸に沿ふ地區を占領して兵力を整頓せんとし、午前十時左の要旨の命令を下せり。

一、第五師團は柳條口、韭菜河子の間を占領す。

二、第八師團は黒溝台を占領し一部を烟台子に派遣し、第五師團の左翼より黒溝台、黃臘坨子の中間迄を警戒す。

三、第二師團は頭泡、五家子、北坨子附近に位置し、第八師團の左翼に連繫し牛居西北陳家窩棚迄を警戒す。

四、村山支隊は洪家窩棚に位置し、第二師團に連結して騎兵第二旅團及小北河守備隊と連絡警戒す。

五、摺澤少將の指揮する歩兵第十一聯隊は第五師團に復歸す。

六、後備歩兵第十旅團及砲兵第十七聯隊（第一大隊欠）は古城子、老橋に、後備歩兵第八旅團は三尖泡に位置し豫備隊とす。

村山支隊の状況

村山支隊は午前四時洪家窩棚に敵なく且つ土民の言に依り前夜多數の敵の騎兵及砲兵（十五門）洪家窩棚を経て牛居に退却せしを知り、歩兵第二十一聯隊第二大隊をして午前六時三十分出發、洪家窩棚を占領せしめ、後備歩兵第三十五聯隊第一大隊長西屋少佐の率ゐる部隊をして一小隊を佟二堡に残置せしめ、其他を八時迄に哈爾堡に招致す、乃ち歩兵第二十一聯隊第二大隊（菊池少佐）は七時三十分洪家窩棚を占領し、同時五十分騎兵第五聯隊第三中隊の一小隊哈爾堡に到着せしに依り、之を同村北方に置き巴荒地附近第二師團との連絡に任し、八時歩兵第

二十一聯隊第二大隊をして牛居方向の警戒、並に敵情の搜索に任し、砲兵第三中隊をして同村西端附近に於て牛居方向に對し放列布置を準備し、殘餘を哈爾堡中部に集合せしむ、當時敵の騎兵牛居附近に濃密なる騎幕を張りて警戒せり。

午後四時三十分歩兵第二十一聯隊本部並に第三大隊、騎兵第八聯隊第二中隊の一小隊を以て牛居附近に在りて第二師團に連繫し、七台子上流約二千米間を警戒し歩兵第二十一聯隊第二大隊（第七第八中隊欠）、騎兵第八聯隊第二中隊（一小隊及一分隊欠）を以て青龍台附近に在りて第三大隊に連繫し七台子迄を警戒し、且つ媽々街附近の部隊及騎兵第二旅團との連繫に任し、其他は洪家窩棚及三家子に宿營せり。

騎兵第二旅團は黃泥窪附近に在りて午前三時總司令官より黃臘坨子方向に急進して敵の背後を擾亂し、第八師團の攻撃を容易ならしむべき命令に接し、旅團長田村少將は該命令に依り、佟二堡附近の敵は歩兵一聯隊騎兵一旅團半、砲十二門機關銃若干にして我左側背其脅威する所を爲りしを知り、吳家崗子を経て烏邦牛に向ひ前進せんと欲し、八時黃泥窪を出發して十時劍台子に達し、午後零時四十五分孫家崗子に達せしも敵情に就き得る所なく、只總司令官の通報に依り前日村山支隊の哈爾堡附近の敵を西方に擊退せしむ、友軍諸隊の黑溝台、巴荒地の線に迫れる情況を知りしも、其後の狀況詳ならざりしが故に前進を繼續し、二時二十分烏邦牛に達し敵情を得ず、更に東進して三時馬圈子に到着し始めて茨榆坨に敵の歩騎兵あるを知り、尙前日來友軍の戰況有利に進捗せるを知り三時三十分馬圈子を出發し午後十時劍台子に歸還して宿營せり。

附記 本會戰に参加せし露軍は集成狙擊兵軍團、西伯利第一第八第十軍團、騎兵團、オレンブルグ哥薩克騎兵師

團、コソゴスキ支隊にし其損害頗る大なりと云ふ。

會戰後の警戒配備

黑溝台附近の會戰は敵の退却を以て終りを告げ、支隊の主力〔歩兵第九聯隊（第一第五中隊及第三大隊欠）騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）砲兵第十三聯隊第四中隊、戰利白砲中隊、工兵第八大隊本部並に第二中隊の一小隊及第三中隊（一小隊欠）〕は李大屯、三岳支隊〔歩兵第九聯隊第一第五中隊後備歩兵第三十二聯隊第四中隊、騎兵第九聯隊（第三中隊欠）同第十聯隊（第一中隊欠）騎砲兵一小隊、工兵第四大隊第一中隊の一小隊、工兵第八大隊第三中隊の一小隊〕及其増援隊たる歩兵第十八聯隊、砲兵第十三聯隊（第一第四中隊欠）工兵第三大隊第二中隊（一小隊欠）は韓山台、東、西、啞叭台、後高大屯、郝家屯、楊家甸子附近、豐邊支隊、後備歩兵第二聯隊第一大隊（第四中隊欠）後備歩兵第三十一聯隊第二中隊、騎兵第十三第十四聯隊、騎砲兵中隊（一小隊欠）工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）は其増援隊たる歩兵第三十三聯隊（第一大隊欠）砲兵第三聯隊第一中隊、工兵第三大隊第二中隊の一小隊と共に小台子、沈且堡、小樹子を守備せり。

第八師團長の率ゐる第五師團は大台附近に在りて柳條口、長義套、鴨子泡、馬狼祖、韭菜河子の諸村を守備し第八師團は古城子及蘇麻堡附近に在りて黑溝台、前後烟台子を守備し其一部を土台子に派遣し、第二師團は頭泡、五家子、巴荒地、哈爾堡の諸村に在りて黃臘坨子及其附近を守備し、村山支隊は洪家窩棚に在りて牛居、三家子、青龍台を守備し總豫備隊たる後備歩兵第八旅團は三尖泡に後備歩兵第十旅團及砲兵第十七聯隊は古城子に在り。

第二軍兵站守備隊たる後備歩兵第二聯隊長伊東中佐の指揮せる部隊は媽々街を、後備歩兵第五聯隊第二大隊長柄内少佐の指揮せる部隊は小北河附近を守備せり。

騎兵第二旅團は創台子附近に在りて守備す。

諸隊は皆戦闘後の整頓に従事し、且つ敵兵近く長灘、四方台の線に駐りて隨時攻撃を再興し得る姿勢に在るのみならず、情況の變移未だ逆睹すべからざるものありしに依り嚴に警戒せり。

滿洲軍に左の勅語を賜はり(一月三十日)騎兵第一旅團は二月一日、前高大人屯に於て徒歩武裝して推讀式を行ひたり。

滿洲軍ハ其左翼ニ來襲セシ優勢ナル敵ヲ邀ヘ勇猛果敢之ヲ渾河右岸ニ擊退シテ其企圖ヲ挫折シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ朕深ク之ニ從事セシ將卒ノ勞苦ヲ察シ其功績ヲ嘉ス

支隊は本會戰に於て軍參謀長より左の賞辭を授けられたり。(一月三十日)

第三師團の一部及秋山支隊は今回の戦闘に際し最も堅忍に防禦し、殊に啞叭台、沈且堡に於ては勇敢に其敵を擊退せり連日の勞を偉こせり。

豐邊支隊は本會戰に於て滿洲軍總司令官より左の通り感狀を授與せられたり。

騎兵第十三第十四聯隊、第一繋駕機關砲隊第二小隊、騎砲兵中隊、野戰砲兵第三聯隊第一中隊、工兵第八大隊第二中隊第三小隊、歩兵第三十三聯隊(第一大隊欠)後備歩兵第二聯隊第一大隊(第四中隊欠)後備歩兵第三十一聯隊第二中隊、工兵第三大隊第二中隊第三小隊

右諸部隊は陸軍騎兵大佐豐邊新作の指揮に屬し一月二十五日より同二十八日に至る間の戦闘に於て沈且堡の守備に任し優勢なる敵の包圍攻撃に對し多大の損害を顧みず激甚の苦戰に堪へ緊急據點をなる全ふるの任務を盡し以て第八師團の右翼を安全ならしめたるは其功實に偉大なりと認む依て感狀を附與す

明治三十八年二月一日

滿洲軍總司令官侯爵 大 山 巖

支隊は本會戰に於て第二軍司令官より左の通り賞狀を授與せられたり。

客年十月中旬以來其支隊は寡少部隊を以て廣正面守備の任を全ふし殊に一月二十五日より二十八日に至り優勢なる敵の攻撃を受くるに方り晝夜奮戰遂に之を擊攘し敵をして其企圖を挫折せしめたり是全く其計畫適切にして指揮當を得たる結果と認む依て本職は茲に其支隊に屬する將校以下の功勞を謝し併せて其忠勇に依頼し將來に於ける軍の成功を完全ならしめんことを期す

明治三十八年二月二日

滿洲軍第二軍司令官男爵 奧 保 肇

支隊長たる騎兵第一旅團長秋山少將の賞辭左の如し。

今回軍司令官より別紙の通り賞狀を授與せられたり予は茲に當り支隊に屬せる將校下士卒の勳績に對し滿腔の誠意を以て深く感謝の意を表するものなり

明治三十八年二月二日

騎兵第一旅團長 秋 山 好 古

第十一章 黑溝台附近會戦後の行動

一月三十日 支隊前面に在りては夜來彼我斥候の衝突の外情況概ね靜穩にして、敵兵依然黒林台、富家庄、金山屯、荒地、北台子の線に在りて富家庄及北台子の南方に各二、三百米の散兵壕を増築せり、支隊は在沈且堡豐邊支隊を除くの外依然前日の配置に在りて戦備を嚴にし、敵の攻撃に備へ特に太平庄守備隊及啞叭台増援隊は工兵の援助を受け防禦工事を増築せり。

豐邊支隊は配備を變更し歩兵第三十三聯隊吉岡中佐の率ゐる増援隊を以て沈且堡——大台道迄主として東正面を〔歩兵第三十三聯隊（第一大隊欠）は第二大隊を以て村の東北端を占領し、第三大隊を豫備隊と爲し砲兵中隊は村の東側に北面して放列を布き、工兵第三大隊第二中隊の一小隊の援助を得防禦工事を施せり〕後備歩兵第二聯隊第一大隊（第四中隊を缺き同歩兵第三十一聯隊第一中隊を附す）を以て歩兵第三十三聯隊の左翼より沈且堡——小樹子道迄主として北正面を、騎兵第十三聯隊を以て村の西端堡壘を、同第十四聯隊を以て西南堡壘を守備し、（騎兵第十三聯隊は第三第四中隊を、同第十四聯隊は第三中隊を守備地に殘置し、其他を拂曉より日没迄後高大人屯に後退し、砲彈の被害を避く）機關砲二門、騎砲兵中隊（一小隊欠）工兵第八大隊第二中隊（一小隊欠）を前日來の位置に置き警戒す。

沈且堡の状況

午前八時頃敵の野砲約八門大韓台附近より沈且堡を砲撃し、尋て孤家子東端に野砲六門、周官堡東方に重砲約三

豐邊支隊の配備

門増加して熾に沈且堡を砲撃す、且つ大韓台附近に輕氣球を揚げたるを以て之を砲撃し、若干の損害を與へ直に降下せしむ、午後二時歩兵約一大隊張庄子より小韓台方向に其一部二台子方向に移動し、三時同兵力の歩兵一縱隊西方より瓜旦台に、歩兵約一中隊東方より孟達堡に、兵種兵力未詳の一縱隊は孟達堡北方より楊樹林子に進入し、尙ほ歩兵一大隊半寶相屯より二台子を経て荒地に前進したるも、其大部は三岳支隊の砲撃を受け、再び二台子に退却し五時歩兵約一大隊荒地より北台子に侵入し、大韓台、孤家子、周官堡の重野砲は不絶砲撃して夜半に及べり。

寶相屯、二台子附近の敵砲兵は依然前日來の陣地に在るが如きも終日發砲せず。

在李大人屯砲兵第十三聯隊第四中隊は午後三時頃孟達堡附近に行動する敵の歩兵を砲撃し潰亂せしめたり。

在韓山台騎砲兵小隊は午後三時五十分頃二台子より荒地に向ひ、前進する歩兵約六中隊を射撃し其大部を二台子に撃退せり。

啞叭台の増援隊長たる石原大佐は兒玉少將の命に依り、前夜同地に到着せし歩兵第三十四聯隊第二大隊（鈴木少佐）を併せ指揮し啞叭台及小台子の守備に任し、三岳中佐は啞叭台の守備を歩兵第十八聯隊に委ね、從來同地を守備せし支隊の一部たる歩兵第九聯隊第五中隊の一小隊、騎兵第九聯隊本部及第一中隊、第二中隊の一小隊、工兵第八大隊第三中隊の一小隊、機關砲一門を日没後韓山台の主力に復歸せしめ、從來啞叭台守備隊に屬せし工兵第四大隊第一中隊の一小隊を秋山支隊長の命に依り、午後一時頃沈且堡に向ひ出發せしめ、以て豐邊支隊に屬し同支隊は後備歩兵第三十一聯隊第二中隊を午後四時出發原隊に復歸せしむ。

李大人屯韓山台、啞叭台の状況

此夜諸隊は概ね現在の配置に在りて至嚴の戦備を整へ、特に啞叭台守備隊は歩兵第三十四聯隊第七中隊を小台子に派遣して守備せしむ。

支隊は夜半第三師團長の令下に屬せらる。

一月三十一日 支隊の配属前日に異ならず、雖、在沈且堡歩兵第三十三聯隊第三大隊（第九第十中隊欠）は第三師團命令に依り、今朝小台子の守備に任し、啞叭台守備隊も亦同命令に依り、歩兵第十八聯隊第三大隊をして未明陣地を撤して廣山屯に到らしめ、同地の守備は同第三十四聯隊第二大隊專任し、益々防備を堅固にし小台子の同聯隊第七中隊は、同第三十三聯隊（二中隊欠）の到着と共に守備を譲り啞叭台に復歸す。

豊邊支隊前面に在りては午前一時三十分頃より三時に互り、周官堡附近の敵の重砲約三門沈且堡を緩射し、六時二十分歩兵約二中隊北台子南端附近より、野砲約八門北台子、孤家子の中間より共に沈且堡を射撃す、依て同地の北正面の守兵は緩徐に之に應射し、其歩兵の近接を待ち猛射して忽ち北台子に撃退せしも、其砲兵は依然射撃を繼續し且つ周官堡附近の重砲約三門亦沈且堡を砲撃するこゝ熾なり、然れども李大屯、韓山台、啞叭台方面は朝來極めて靜穩なり。

午前六時十五分秋山支隊長は敵兵沈且堡を壓迫せんとするの狀あるが故に、黎明迄に韓山台附近に砲兵を増加せんことを第三師團長に請ふ、師團長は直に砲兵第十三聯隊（第一第四中隊欠）をして主力を以て韓山台附近の陣地に、一部を以て沈且堡方面の敵砲兵に對する陣地に就け之を制壓せしむ、乃ち同聯隊（第一第二第四中隊欠）は所屬の歩兵第十八聯隊第二大隊（第五中隊欠）と共に韓山台に到り、十時二十分其北端の陣地に就き、又同歩兵

支隊正面に於ける彼我砲戰

聯隊第五中隊、砲兵第十三聯隊第二中隊、工兵第三大隊第二中隊（一小隊欠）は十一時二十分後高大人屯に達し其北端に陣地を選定し、防禦工事に著手す。當時濃霧にて展望十分ならず、雖情況極めて沈靜にして、唯寶相屯、二台子附近の敵砲兵各一中隊時々高大人屯、小台附近を緩射するのみ、然るに午後二時頃敵の砲兵約三中隊二台子の東南及西南に現出し啞叭台、小台子附近を射撃す、依て韓山台の我砲兵第三第六中隊は二台子東南の敵砲兵に應射し、約三十分の後沈黙せしめ、同時同村西南の敵砲兵も亦射撃を止む、三時頃敵の野砲約二中隊孤家子より二台子に行進す、乃ち第五中隊之を射撃せしも終に射程外に逸走せり、又砲兵第二中隊は後高大人屯北端に放列を布きたる後更に將來の戦況を顧慮し、午後零時四十分西啞叭台北端に豫備陣地を選定し工兵中を除して砲車の掩體を構築せしむ、四時頃孤家子附近の敵砲兵沈且堡附近を熾に射撃するを以て、直に之を砲撃したるも霧尙ほ霽れずして觀測するを得ず終に之を止めたり。

支隊主力方面に在りては李大屯の砲兵第十三聯隊第四中隊は午後一時頃より、三時三十分互り寶相屯を、戰利白砲中隊は二時三十分頃より五時に互り、瓜旦台及寶相屯附近の敵砲兵を斷續射撃し、豊邊支隊沈且堡の騎砲兵中隊（一小隊欠）は正午頃北台子及孤家子を砲撃し、同地に火災を起さしめ、砲兵第三聯隊第一中隊は一時三十分頃北台子及其南方散兵壕を射撃して守兵を散亂せしめたり。

第三師團長は是より先午前十時命令を下し午後六時を期し、右翼隊たる歩兵第九聯隊（第三大隊欠）後備歩兵第二聯隊第一大隊、騎兵第三第六第九第十聯隊（各一中隊欠）砲兵第十三聯隊第四中隊、騎砲兵一小隊、戰利白砲中隊、機關砲十三門、工兵第八大隊第三中隊（以上秋山騎兵第一旅團長指揮す）を以て第四師團の左翼より李大

支隊占領面に於ける第三師團の新配備

人屯を経て韓山台西端に互る線を、左翼隊たる歩兵第五旅團（第六聯隊第一第三中隊及第三大隊欠）騎兵第一旅團、砲兵第三聯隊第一中隊、騎砲兵中隊（一小隊欠）機關砲九門、工兵第三大隊第二中隊、同第八大隊第二中隊（南部歩兵第五旅團長指揮す）を以て右翼隊の左翼より沈且堡西端附近に互る線を占領し、砲兵隊（砲兵第十三聯隊（第一第四中隊欠）歩兵第六聯隊第三中隊）をして韓山台附近に於て富家庄、金山屯、荒地附近に對し陣地を選定し、師團の豫備隊を柳條寨、朱官台に宿營せしめ、軍直屬部隊を大東山堡附近の諸村に位置せしむ、則ち右翼隊は太平庄守備隊を以て太平庄附近を、右翼隊主力たる歩兵第九聯隊（第二大隊本部並第六第七中隊第三大隊欠）騎兵第三聯隊（第三中隊欠）同第六聯隊（第一中隊と第三中隊の一小隊欠）機關砲十門、砲兵第十三聯隊第四中隊、戦利臼砲中隊、工兵第八大隊第三中隊を以て李大屯附近を、韓山台守備隊たる後備歩兵第二聯隊第一大隊（第四中隊は二月一日大隊に復歸す）騎兵第十聯隊（第一中隊欠）騎砲兵一小隊、機關砲三門（三番騎兵中佐指揮す）を以て韓山台附近を守備し、左翼隊は一度陣地に就きしも其後配備を變更し、午後十一時命令を下し啞叭台守備隊たる歩兵第六聯隊（第一第三中隊及第三大隊欠）騎兵第十三聯隊第一中隊の半小隊、機關砲五門、工兵第三大隊第二中隊（竹内歩兵中佐之を指揮す）を以て韓山台守備隊に連り小台子迄を、沈且堡守備隊たる歩兵第三十三聯隊（第一大隊欠）騎兵第十四聯隊第一中隊の一小隊、砲兵第三聯隊第一中隊、騎砲兵中隊（一小隊欠）、機關砲四門、工兵第八大隊第二中隊（吉岡歩兵中佐之を指揮す）を以て左翼より沈且堡西端迄を守備し柳條口附近の第五師團に連絡し、豫備隊たる歩兵第三十三聯隊第一大隊、騎兵第一旅團（一小隊半欠）を後高大屯、東甸子に置き砲兵隊は韓山台北端に在りて終日砲戰を斷續し、午後六時陣地を撤し三台子、大觀音閣附近

に後退して宿營す。

二月一日 旅團は停止して人馬の休養を爲し隊伍を整頓す。

従來我騎兵旅團に屬せし工兵第四大隊第一中隊の一小隊は原所屬に復歸せり、尙ほ騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は總司令官の命に依り、韓山台出發黃泥窪（小北河東方約一里半）に向ひ前進し原師團に復歸せり。

二月二日 支隊（騎兵第一旅團、同第四第六第十聯隊（各一中隊欠）後備歩兵第二聯隊第一大隊）は第三師團長の指揮を脱し、靑龍台附近を根據とし軍の左側を警戒し、且つ遠く北方の敵情を搜索し、勉めて廣く渾河右岸に地歩を占領すべき第二軍訓令を受けたるを以て、明日目的地に向て出發せんませり、然るに騎砲兵中隊及第一繫駕機關砲隊は少時現陣地に殘留せしめらるゝこゝに爲れり。

二月三日 支隊（騎兵第四聯隊（一中隊欠）及騎砲兵中隊並第一繫駕機關砲隊欠）は未明迄に第三師團に其守備を譲り、午前十時狼洞溝東南に集合し、騎兵第四聯隊（第一中隊欠）亦油虫堡より來り合し十一時出發、騎兵第十三聯隊を前衛とし其他を本隊とし、佟二堡を経て午後二時四十分三家子（牛居南方）に到着す、此間支隊長は黃臘坨子に第八師團より有力なる監視隊を派遣する豫定にして媽々街、小北河附近にも守備隊あるを知り、又優勢なる敵兵約十萬、長灘及四方台附近に停止せる情報を得、再び三家子附近に根據を占め遠く北方の敵情を搜索せんを欲し、三時命令を下し後備歩兵第二聯隊第二中隊、騎兵第十三聯隊、機關砲二門を以て七台子を守備し茨榆坨、烏邦牛方向を警戒し特に四方台方向の敵情を搜索せしめ、騎兵第四聯隊（第一中隊欠）を牛居に置き黃臘

挖子、七台子間を警戒し、且つ此間に於ける渾河の渡過點を偵察せしめ、騎兵第六十聯隊(各一中隊欠)を三岳中佐に指揮せしめ、青龍台、胡家台附近に宿營し七台子、媽々街附近を警戒し、特にカ力馬方向を搜索せしめ、後備歩兵第二聯隊第一大隊(第二中隊欠)騎兵第十四聯隊は本隊を爲り三家子附近に宿營す。

二月四日 午前八時我騎兵斥候は三台子の敵騎に對し之を驅逐せんとし、乘馬射撃の後其左側に迂回するや、約二百の敵騎三台子東端より七台子北端に向て來襲せるを以て、騎兵第十三聯隊は徒歩集合し、同村北端土障に據り射撃して直に撃退せり、尋て午後二時敵騎十三媽々街方向より七台子に向て前進す、依て同聯隊は近接せしめたる後猛射すれば、其半數落馬し人馬各二斃れ落馬せる他の四は徒歩退却す、依て之を追撃するや敵砲二門蕭寨門附近より七台子を砲撃し其退却を掩護せり。

從來軍兵站監に屬し媽々街、小北河を守備せる後備歩兵第二聯隊(第一大隊及第六中隊欠)(聯隊本部及第五中隊は小北河に、第二大隊本部及第七第八中隊は媽々街に第六中隊は遼陽に在り)を我支隊に増加せらる、乃ち後備歩兵第二聯隊第二大隊(第五第六中隊欠)は媽々街に於て支隊の令下に入り、又姑く第三師團に屬せし第一繫駕機關砲隊は此日支隊に復歸し、騎砲兵中隊も亦六日復歸すべき豫定なりしに依り、支隊長は五日午前九時命令を下し警戒部隊を牛居、七台子、媽々街の線に配置し搜索區域を蕭寨門以西に擴張し、且つ小北河守備隊及騎兵第二旅團と連絡せしむ。

二月六日夕 支隊は騎兵第四聯隊(第一中隊欠)を牛居に、後備歩兵第二聯隊第一大隊(第三中隊欠)騎兵第十三聯隊、機關砲四門を小池中佐に指揮せしめ七台子に、後備歩兵第二聯隊第二大隊(第五第六中隊欠)、騎兵第

六聯隊(第一中隊欠)、同第十聯隊(第一中隊及第三中隊の一小隊欠)機關砲二門を三岳中佐に指揮せしめ媽々街に、後備歩兵第二聯隊第三中隊、騎兵第十四聯隊、騎砲兵中隊(一小隊欠)機關砲五門を豐邊大佐に指揮せしめ三家子に、後備歩兵第二聯隊本部及第五第六中隊、騎兵第十聯隊第三中隊の一小隊、騎砲兵一小隊を伊東歩兵中佐に指揮せしめ青龍台に置き各其地に防禦工事を施し警戒す。

二月七日 支隊に騎兵第五聯隊(第一中隊の一小隊欠)を屬せられ、同隊は黑溝台より牛居に到着せるを以て支隊長は種田大佐をして、騎兵第四聯隊(第一中隊欠)を併せ指揮し牛居に在りて黃臘挖子、七台子の中間より七台子迄を警戒し、特に長灘方向を搜索せしむ。

二月十三日 支隊長は午後四時三十分命令を下し、七台子及媽々街守備隊をして敵襲に方り、其地を固守せしめ後備歩兵第二聯隊長伊東中佐をして麾下の歩兵第六中隊、騎砲兵一小隊を率ゐ七台子に到り、同地の諸隊を指揮せしめ、在青龍台後備歩兵第二聯隊第五中隊及騎兵第十聯隊第三中隊の一小隊、七台子の機關砲一門を媽々街守備隊に増加せり。

二月十四日 第二軍命令に依り從來小北河守備隊たりし、後備歩兵第三十五聯隊第一大隊(第二中隊欠)を支隊に増加せらる(小北河方面には第三軍の一部進出す)乃ち同大隊は十五日朝第一師團の歩兵部隊に守備を譲り午後五時三十分三家子に到着せしに依り、之を同地守備隊に屬し、同地守備隊の後備歩兵第二聯隊第三中隊を在七台子の原隊に、七台子守備隊に屬せし同聯隊第六中隊を媽々街の原大隊に復歸せしむ、尙ほ小北河に在りし戦利野砲一中隊を屬せられたり。

是日七台子守備隊より騎兵第十三聯隊第二中隊を二泊の豫定を以て、阿司牛方向の敵情を搜索せしむ、乃ち該中隊は午前八時出發、渾河の左岸に沿ふて小北河に到り斥候を放ちて阿司牛方向の敵情を搜索す、間諜の言に依り敵の騎兵無數にして算するを得ざる大集團を砲約二十門は午前八時鄭家屯を出發し、劉家窩棚を経て大烟筒方向に南進中なるを知り、其後尙ほ斥候の報告に依り南進せし敵騎の大集團は蒲河沿を経て、午後五時頃葦子溝に宿營せるを知り搜索隊は老簿に宿營し、翌十五日引續き前任務を續行す、午後敵の騎兵約三百劉家窩棚方向より、約一百は五家子方向より吳家崗子に向て來襲す、時宛も吳家崗子には第一師團の歩兵一大隊到着せるを以て、同大隊は直に散開して猛烈に射撃す、同時敵砲數門五家子附近より吳家崗子を熾に砲撃し、攻撃援助をなせるも我猛射に依り退却し砲兵も日没と共に射撃を中止す、而して敵は小蘭坨子、老歡坨、貓兒頭、楊家窩棚、五家子の線に停止せるものゝ如く該搜索隊は十六日七台子に歸還せり。

第十二章 挺進騎兵隊の派遣

1 第一挺進騎兵隊の編成及行動 沙河對陣中支隊は李大屯附近より韓山台、沈且堡を経て黑溝台附近に互る間を守備し、屢將校斥候を派遣して敵の背後を搜索せしも、更に背後連絡の情況を審にせんを欲し、河水凍結し運動自在の時期に際し適々滿洲軍の總豫備隊たりし、騎兵第八聯隊（第一中隊の一小隊欠）の増加を受けしに依り、三十七年十二月二十三日奉天西方及北方地區の狀態等を搜索せしめんと欲し、騎兵第三聯隊より飯

田少尉を奉天西方地區に、同第十一聯隊より光田特務曹長を奉天北方地區に派遣し、二十五日第一挺進騎兵隊の編成を命じ三十八年一月初旬迄に出發の準備を整へ、奉天方向に派遣せる將校斥候の歸還後出發の期を定むることとし、一月三日編成を終り四日蘇麻堡に集合せしむ。

該挺進騎兵隊は騎兵第十三第十四第五第六聯隊（各一小隊）騎兵第八聯隊の二小隊より集成せるものにして、騎兵第八聯隊長永沼中佐之を指揮す。

奉天方向に派遣せし將校斥候は二百より四日に互る間に歸還し、支隊長は諸報告を綜合して、奉天西方及北方地區に敵の集團部隊なく、唯奉天——新民府街道上及其以南處々に二、三百の歩騎兵あり、又西方に對する敵の警戒線は遼河左岸に沿ひ配置し大民屯（新民府東南約五里）長山子、鞠家窩棚、方家崗子、雙樹子、石佛寺等の各地に二、三百の騎兵あり、其右岸に在りては老達房に約三百あるの外僅かに斥候の出没するに過ぎず奉天——新民府及奉天——法庫門の兩街道上に遼西地方より徵發せる物資運搬の爲馬車の往復頗る頻繁にして東清鐵道に多數の貨車の運行するあり、且つ同鐵道の守備は從來我の知る所と異ならざるを知れり、即ち約三千米毎に監視家屋ありて四、五騎の斥候絶えず線路に沿ふて往復し、特に橋梁、停車場等には三十乃至五十の守備兵を配置しあり、故に奉天附近の敵情を顧慮することなく挺進隊をして遠く敵の右側背に進入せしむるに決し、其出發を九日と定め、同日蘇麻堡を出發し媽蜡店（小北河西方）附近を経て十日轉抽子（小北河西南約五里）に到りミシエチンコ騎兵團の南進せしを知り、十一時北進の途に就けり。

挺進隊の出發と略同時に奉天、鐵峯、撫順附近の敵情、地形を審にせんを騎兵第九聯隊より建川中尉、同第十

二聯隊より徳永中尉同第十四聯隊より乃村特務曹長を派遣せり、此斥候は十四日より二月三日迄の間に歸還せり。第一挺進隊一般の行動は敵の背後に進出するに在り、第一の破壊目標を密門河の鐵橋（長春の東北約三十里張家灣附近）に定め、其時期を奉天附近の會戰に策應せしめんと欲せしも、連絡の關係上不可能なりしが故に、一月下旬より二月初旬の間に決行するにこころし、一月九日蘇麻堡を出發し敵の警戒線内に潜入し、途中に一部隊を殘置し主として本軍と連絡に任じ續きて北進す。

二月九日 拉拉屯（長春の西方約二十三里）に進み、新開河（長春西南約七里）の鐵橋を破壊するに決せり、是れ當時密門河鐵橋の守備兵強大にして成功必しも期す可からざりしが故なり、乃ち挺進隊は十日午後三時拉拉屯を出發し、半ば夜行して九時過ぎ劉家屯に到り、敵の騎兵約一百懷德に進入せるを知り、挺進隊長永沼中佐は今や敵兵近きに在り、而も我紀元節の佳辰に敵の心膽を寒からしむるも亦好記念なりとし、十一日劉家屯を出發し午後五時姚家堡に著し約三時間大休止を爲せり、此間姚家堡子東南半里の地に敵騎の車輛二を監視し來るに會し、之を射撃して車輛を奪ひ、又東南約一里の地に敵騎二十の物資を徵發せるを偵知せしも、別に爲す所なく八時前進を起す暗夜にて咫尺を辨せず、遂に途を失ひ數時間を費すも橋梁に達せず、則ち東方に直進し十二日午前二時頃袁家屯（新開河鐵橋の西方約五千米）に到着し、直に手馬の掩護、救急の準備、橋脚の爆破、軌道、電線の破壊及作業掩護等の部署を定む、時に殘月西に没し四隣暗澹聞きして聲なく、唯遙に驢馬の寂しき聲の聞ゆるのみ。

諸準備完了するや潛行するに約一千米にして新開河の河岸に達し、作業隊は河中を、右翼掩護隊は左岸を、左

翼掩護隊は挺進隊長と共に右岸を前進するや、途中附近村落の狗犬頻りに吠え、而して鐵道橋を距る約六百米の地に達せし頃列車の北行するあり、依て挺進隊長は諸隊を止め先づ鐵橋及監視家屋の情況を偵察せしめ、同家屋の河の右岸に在るを知りしも、敵の歩哨の誰何を受け鐵橋の情況を審にするを得ざりしが故に、右翼掩護隊の一部を散開せしめ更に鐵橋を偵察せしむ、此時敵の斥候二騎監視家屋方向より近接せしに依り、左翼掩護隊は其一部を以て射撃を開き其一を墜せり、此に於て敵兵我近接を覺り、監視家屋周壁の銃眼に據り射撃するにこころし、我兩翼掩護隊も亦之に應射するや、敵火益猛烈となり、我左翼掩護に傷者を生ずるに至りしに依り、永沼中佐は同隊に命するに監視家屋の略取を以てす。乃ち同隊は直に躍進して其周壁に肉薄せり、此間作業隊は猛烈なる敵の銃火を冒して橋脚に達し、爆藥を裝置し栗田少尉之を率ゐて後方百米の河川屈折部に退却し、宮内大尉、小堤少尉之が點檢中敵彈橋脚北側の裝藥に命中し、爲に其一部は爆發し他の部は燃焼せしも橋脚南側に裝著せし爆藥は點火するに至らざりしに依り、宮内大尉は更に作業手を招致し爆藥を裝せしむ、此際小堤少尉は頭部、背部に擦過創を蒙りしも裝藥法の不備を發見し更に修正し、後點火して爆破せしめ直に斥候を放ち、其成果を檢せしめ橋脚裝藥部に於て一、二尺の深さに凹陥せしも全部倒潰するに至らず、橋桁上の枕木、軌鐵等の一部河床に墜落せしを認む、是より先鐵橋の南方約二千米附近に到りし別働隊は、爆聲と共に鐵道、電信線を破壊し退却に就きたり、

此間手馬の監視隊は爆聲に依り馬匹の狂奔を防がんと欲し、全手馬を圍牆内に入れ、且つ傷者の運搬及救急の準備を爲し聲て爆聲を聞き手馬を牆外に出したり。

此戦鬪に於て田村少尉及兵卒二名戦死し、宮内大尉、小堤少尉及兵卒七名、通譯一名負傷し、外に負傷兵卒二名退路を失ひ一名は鐵嶺、一名は新開河に於て敵の俘虜と爲れり。

諸隊は午前五時三十分出發點に集合し、六時三十分袁家屯を發し退却に就き、十時三道河に達して約三時間休止し後蓮花山を経て十三日八寶湖に到り、土民より日本騎兵の一支隊十二日新集廠に到着し、又敵の騎兵長春方向より前進し、其約百騎東南五六里の地に、約百七十騎楊家屯に到着せるを知り、乃ち新集廠に達せし一支隊を第二挺進隊と判断し、連絡として十三日夜佐久間中尉を同地に派遣し、又敵騎の近接に對して之を搜索するに共に各部隊の警戒を嚴にして敵襲に備へたり。

十四日未明八寶湖出發、新集廠に向ひ行進し、午後四時柏家窩棚附近に達し、前夜派遣せし佐久間中尉歸來するに會ひ、新集廠に來りし一支隊の既に出發し蒙古屯附近迄追尾せしも、終に踪跡を得ざるを知れり、此時俄然張家窪子西北高地より敵の砲火を受く、乃ち主力を高地脚に隱蔽し戰鬪準備を整へり、當時敵兵廣正面に散開せるを以て永沼中佐は直に之を攻撃するに決し宮内大尉をして、本隊に攻撃命令を傳へしめ傷者、豫備馬携行者及非戰鬥員をして六合局に到り後命を待たしむ、乃ち挺進隊の主力は敵の退路に急進し、午後六時張家窪子北方二千米に達して敵の縱隊を認め直に徒歩を爲し射撃するや、敵亦應射せしも幾も無く我射程外に脱逸せしに依り、更に乘馬し沼田少尉の率るる六騎を尖兵として前進し、其張家窪子北端に近づきし時村内雜沓の聲あり、乃ち沼田少尉單身之に近づかんせし際、俄然同村端より銃砲火を受けしに依り、先頭に在りし中屋大尉の率るる部隊は中隊縱隊となり永沼中佐之を率る、砲兵陣地の側面を通過して其退路に迫り、踵續せる淺野大尉の率るる部隊一

列横隊に展開して正面より敵の陣地に襲撃せり、時に午後八時にして寒月高く中天に懸れり、然るに敵の砲兵狼狽し撃退して退却を始め五、六十の敵騎其前後に在りて之を掩護す、乃ち中屋大尉の率るる部隊は壕を隔て之と併進し、約二千約を疾驅したる後壕を超え敵の砲兵を襲ひ、格闘の後其掩護隊を潰亂せしめ、砲一門、輜重車一輛を鹵獲し俘虜一を獲り、又淺野大尉の率るる部隊は敵の陣地に突入せしも、敵兵既に退却せし後なりき、然れども小堤少尉は左翼前に敵の騎兵約二百の集團せるを認め、麾下の部隊を提けて之に向ひ、淺野大尉の主力も亦之に準ひ襲撃するや、敵は槍騎兵を第一線とし喊聲を揚げ前進し來り月下に格闘せり、當時我乘馬既に疲勞し況や騎乗輕快ならず、敵騎は全く之に反し動もすれば其包圍する所と爲らんす、殊に敵の防拂に遇ふて落馬せる我兵は軍刀又は騎銃、拳銃を用る徒歩にて格闘する等、混戰亂闘淺野大尉先づ傷つき、尋て全員殆ど戰鬥力を失ふに至れり、此に於て少數の健全者を合して一團と爲し、宮内大尉之を指揮し手馬を牽き徒歩にて敵を射撃す、敵は三々伍々敗走し遂に五、六十の一團を残して死傷者を收容せしも、我猛烈なる射撃に辟易し全部潰走せり、依て更に約四百米追撃して射撃せり。

此戦鬪に於て小堤少尉外下士卒十七名戦死し、淺野大尉、佐久間、及川の兩中尉、沼田少尉外下士卒四十一名負傷せり。

附記 露軍はレニツキー大尉の率るる騎兵三中隊砲二門の支隊にして、此戦鬪に失踪將校一名卒二十四名、戦死卒三名なりと云ふ。

此夜戰場掃除を終り翌十五日内田少尉の率るる部隊傷者を護衛し、他を以て其後方に續行し、午後一時出發歸途

に就き、五時十分新集廠に到り宿營す、途中淺野大尉遂に死せり。

二月二十八日 後五家子(遼陽窩棚西北約五里)に達し敵騎兵の大部隊、奉天方向より北進して昌圖、八面城奉化の各地に約一千二百乃至二千五百、懷德、新集廠に各約八百、砲二門駐屯するを知り、其下旬騎兵約四千法庫門を通過して北進せし情報を得、益々警戒を嚴にし後退を繼續し、三月三日曩に前進途中本軍の連絡に任じ、殘置せし一部隊(該隊は二月十三日後五家子附近に於て敵の糧秣約四十萬斤を燒夷せり)に會し、始て出發後に於ける本軍の情況、殊に黑溝台附近の會戦を知り、更に一日間退却し奉天附近の會戦二月盡日より開始せるを知り、最後の行動として敵の背後の交通線を斷絶するに決し、中屋大尉の率ゐる部隊をして開原、雙台子間、宮内大尉の率ゐる部隊をして雙台子以北、沼田少尉の率ゐる部隊をして開原附近の各交通機關を斷絶せしむ、乃ち諸隊は六日各目的地に向ひ直進し、永沼中佐は日本軍の情況を知り、且つ最後の行動を決定せんことを欲し、新民府に向ひ歸還せり。

中屋、宮内
兩隊の歸還

中屋大尉、沼田少尉の率ゐる兩部隊は共に前進し、途中九日午前十一時三眼井北端に於て糧秣を積載せる敵の車輛十五を押收し、其一部を燒夷し、十日午前五時三十分沙河子停車場の北方約二千米附近に達せし頃、敵兵約二十の射撃を受け、直に迂回し六時頃該停車場の北方六、七百米に到り軌鐵十四個所、電柱四本を破壊せり、此際佐久間中尉以下兵卒負傷す、歸途十一時六家子に敵の馬糧の集積し在るを知り、秣十萬斤を燒夷し、又敵の生牛二十五頭、糧秣車十五輛を押收し十三日歸還の途に就けり、又宮内大尉の率ゐる部隊は三月十日午後六時三十分蓮花泡(昌圖北方約八里)に達し、暫く休養して出發し、十一日午前二時廟子溝停車場を距る約一千五百米の樹

林に達し斥候を放ちて廟子溝停車場南方一千五百米に於て軌鐵及電信線を破壊するや、忽ち停車場の守兵烽火を揚げて警報を傳へ、且つ射撃するに會し午前九時雙樹子に退き、尋て韓家崗子に到りて宿營し、更に列車の顛覆を試みんことを欲し、十三日午前九時韓家崗子出發、十四日午前二時四平街停車場北方森林に達せしも、風雪烈しく寒威強く手が凍へて複雑なる作業に堪へず、乃ち軌鐵五個處、電柱三本を破壊し十四日夕雙城子に到り、十七日歸途に就きたり。

挺進隊の歸還

是より先本軍方面に赴きし永沼中佐、中屋大尉に訓令するに各隊其任務を終り、根據地に歸着せば全隊を率ゐて本軍に歸還すべきを以てし、十三日奉天西北の大石橋に歸着し、又中屋大尉は十三日此訓令に接し二十日全隊を率ゐる高力屯を経て二十四日大石橋に到着、二十九日編成を解けり。

回顧すれば蘇麻堡出發より日を経るこゝに六十有八、其踏破せる行程少くも四百二十里を下らざるなり。

三月十四日第一挺進隊に左の通り感狀を授與せらる。
騎兵第五第十三第十四聯隊(各一小隊)騎兵第八聯隊の三小隊
右は永沼騎兵中佐の指揮に屬し深く敵地に侵入し二月十一日長春南方新開河附近に於て鐵道を破壊し一時其輸送を停滯せしめ從て敵の兵力を此方面に引致したり其功著大なりと認む依て感狀を附與す

明治三十八年三月十三日 滿洲軍總司令官侯爵 大 山 巖
2 第二挺進騎兵隊の編成及行動 支隊は第一挺進騎兵隊を派遣するや、尋て橋を見て第二第三の挺進騎兵隊を派遣せんことを、敵の騎兵團營口方面に南進せしにより、其背後を脅威し情況に應じ遠く北進して敵の

本軍の背後を擾亂せしめんと欲し、一月十二日第二挺進騎兵隊の編成を令し三日間内に出發準備を整へしむ。該隊も亦騎兵諸隊（騎兵第三第六第九第十三第十四聯隊の各一小隊）より集成し長谷川少佐之を指揮す。第二挺進騎兵隊は一月十五日午後五時三十分創台子に集合し、隊長長谷川少佐は十四日我津川支隊の牛莊城西方に於てミシエチエンコ騎兵團を北方に擊攘し、又其一部前日來大灣、老歡坨附近を退却中に在るが如きを知り、十六日黄土坎を経て大畑附近に前進し、敵の背後を脅威せんと欲せり、適々支隊長より速に準備を整へ出發すべき訓令に接し十六、七の兩日老歡坨附近に前進し、敵を搜索し曩に營口方面に南進せし、敵の大騎兵團悉く北方に退却せるを知り、十九日より挺進せんし諸準備を整へり、然るに十九日騎兵第十一聯隊鴨綠江軍に轉入せしに依り、同隊より派遣せる部隊を原隊に復し、午後一時三十分諸隊は創台子に集合の後出發し敵の視目を避け、二十三日間を費して二月十一日少備衛に達し、十二日同地に滞在し土民の言に依り、農安（長春西北約十七里）附近に敵兵四、五百及其備兵三、四百ありて牛馬を徵發し又伯都訥に敵兵約一千、月亮泡に備兵五、六百齊々哈爾の南方に敵兵八百あるを知れり、元來長谷川少佐は勉めて遠く北方の地域に活動せんと欲せしも、先づ農安方向に前進し機を見て鐵道を破壊し後更に北進するに決し、姑く晝間人馬を休養して夜行するにこし、十三日農安附近に向ひ出發し、積雪深く馬脚を没し具に困難を嘗め、十七日午前七時農安の北方秦柴崗に達し、此夜四馬架（張家灣北方）の鐵橋を破壊するに決し、午後六時秦柴崗を出發せしも、地理明らかならざるが故に容易に鐵道線路を達すること能はず、乃ち張家灣油房を経て十八日午前一時三十分郭家屯に達し、四馬架の張家灣停車場東北約三里に在りて同地に守兵約二百あるを知り、前進を繼續し午前三時二十分頃漸く張家灣停車場北方約二千米

に達し四馬架鐵橋の尙ほ其東北約三里に在るを知りしと雖、時既に拂曉に近づきしが故に直に線路を距る二百米に下馬し、午前四時十五分頃より電信線を切斷し、同時二十分より軌道を爆破せり、然れども掩護隊は守兵の來るもの無かりしに依り、機先を制せんと欲し停車場方向に進み、爆聲と共に射撃を開始して威嚇せしも應射するものなく、唯場内信號火の明滅するに過ぎず、乃ち長谷川少佐は鐵道三箇所、電柱三本を破壊したる後掩護隊を退却せしめ、尋て全隊を率ゐて西北方に行進せり、時に十八日午前四時三十五分にして七時七家城子に達し休止中敵の斥候六、七騎追蹙し來り、同地東北約一千米附近に近接せしも直に退却せり、依て更に西北に行進を繼續し二十日夜哈喇木屯附近に於て第一松花江を渡り、二十一日午前六時深井に達し、社裡店に敵の兵站司令部ありて歩騎兵約百五十守備し、伯都訥に敵の糧食積載しあるを知りたり。長谷川少佐は夜に入り社裡店兵站部を襲撃の後更に北進するに決し、午後三時命令を下し最後の集合地を深井とし、掩護隊、糧秣燒棄隊、手榴彈擲爆隊を定め、午後八時出發し十一時社裡店西南高地の西南麓に達し、高地上に敵なく社裡店亦極めて靜肅なるを探知し、該高地麓に急進し直に攻撃配備に移れり、時に二十二日午前一時二十分なり、高地の中腹に達するや掩護隊を高地上の凹地に留め、擲爆隊を敵營に潛行せしめ、點火投擲せしめ別に散兵の一隊は高地防禦線に在りて夜寒酷烈なるも、其一部は防寒具を脱して突撃の準備をなし、午前一時三十分社裡店に爆聲を聞き、擲爆隊の成功を察し同村北方高地に向ひ猛烈に射撃するや、敵兵狼狽せるものゝ如く僅に二、三十の銃數を以て圍壁より亂射せるも、擲爆隊は同時五十分歸還し、散兵の一隊は二時敵を距る約五百米に前進して射撃せしも敵兵時々數發を應射するに過ぎず、乃ち長谷川少佐は糧秣に火を放ち燒夷せしむ、時に手

馬の内我射撃及火光の爲逸走せるものあるを知る、加之我散兵の彈藥殆ど盡き且つ拂曉前敵の追蹶區域外に脱逸するの必要ありしが故に、直に諸隊を手馬の位置に集合せしめ、午前三時深井に退却するに決し行々逸馬收容者を搜索し六時深井に着し、警戒を嚴にし休止に就けり、此時敵の歩兵一名社裡站より逃走して我宿營地に來りしに依り直に之を捕へ其言に依り社裡站に歩兵八十、烏拉爾哥薩克騎兵十五其他雜卒若干あり、我襲撃に依り將校以下死傷十七を生じ他は悉く四散せしむ、又伯都訥に西伯利豫備歩兵第十二大隊と哥薩克騎兵一中隊あるを知れり、而して逸馬收容者は皆歸來せしも悉く收容する能はざりしに依り、農馬を購買して之を補ひ、午前十一時斥候を以て敵情並に逸馬を搜索す、正午頃敵騎二十七東方より雷家屯(深井北方約一里)に侵入せんとせしも、我斥候の射撃を受けて東北方に退却し、雷家屯東方村落に敵の騎兵約一中隊ありて、午後零時二十分雷家屯方向に前進し來れるを知り、又土民の言に依り諸兵連合の敵兵約五百、哈爾濱より長春嶺(深井東北方約十三里)に到着せりこの風説あるを知り、姑く松花江左岸の地に移り踪跡を晦まさんし、午後三時深井を出發せり、時に敵の騎兵斥候同地西方高地に現はれしも追蹶を受けずして四時十五分哈喇木屯の渡場を経て十時東花園に達す。

二十三日朝土民の言に依り敵の騎兵二、三百前夜高家店(東花園の南方約四里)に宿營せり、正午出發雙隆川に達して宿營す、二十四日朝更に土民の我逸馬を牽き來る者あるに會ひ、長谷川少佐は土民の報告に依り、鑿み踪跡を晦まさんとするの不可能なるを覺り、且つ敵の警戒益々嚴なるを慮り、一度退避し機を見て更に東進し敵の交通機關を破壊せんと欲し、西南に向ひ退却に就けり、此際敵の警戒頗る嚴且つ砲兵を有する二百乃至七百の敵の騎兵我退路附近を行動せしも能く之を避け、伏降泉西方を通過し鄭家屯方向に行進して三月三日白

市に達す、此時長谷川少佐は今後鄭家屯南方を経て東進し奉化、昌圖方面に於て鐵道を破壊せんを欲し、四日、積興窩棚に移り夜半運動を起し、六日夜小崗崗を距る一里弱の地に達し、土民の言に依り劉三の率ゐる敵の備數日前小崗崗に來り、前日遼陽窩棚に退却せるを知り、東進の危きを覺とり前決心を翻し、南カッシャーに退却し七日敵の斥候鄭家屯を経て南進せりこの報を得、且つ人馬の疲勞漸次増大し長く行動すべからざるを以て、長谷川少佐は分進隊を編成し、四平街方面に對して更に活動せんを欲し、八日西シユルガに於て編成し射ら之を率ゐる、松村大尉をして挺進隊の主力を率ゐる本軍に歸還せしむ、乃ち同隊は九日午前八時三十分西シユルガ出發、歸途に就きたり。

長谷川少佐の率ゐる分進隊は三月九日日夜後を期して出發せんを欲し、之が準備中午前十時三十五分乘馬兵約五十、東方約三千里の地を西南に前進せりこの報告を得、同少佐は之を觀察せしも風塵烈しく彼我を識別し難く、乃ち警戒兵を増加し之に備ふ、十時五十分該騎兵南方二千米に達し漸次近接し、其後方四百里に約四百の密集部隊續行し而も其敵たるを知る、乃ち家屋に據り防禦するに決し直に集合せしむ、然るに十一時に至り敵騎二十四、五既に前方四、五百米の地を西方に轉し其本隊六百米前に達し、備兵の如きもの約百騎二隊を爲り東方より前進し、約五百米に於て馬上より射撃せり、此に於て郡山中尉の率ゐる部隊をして圍壁の北面を、伊藤中尉の率ゐる部隊をして東南面を固守せしめ、且つ敵の肉薄を顧慮し手榴彈を準備せしむ、時に敵の騎兵約百五十約三百米の高地より射撃を開始し、郡山中尉の率ゐる部隊直に之に應射し敵をして防界線後に退避して、射撃を持續するに至らしむ、伊藤中尉の率ゐる部隊は南方より迫れる敵騎に對し射撃するや、該敵兵疾驅して西方高地に到り、後

其約三十騎方向を變じ西北獨立家屋に達し、該地の者ミ合し徒歩して我を射撃せりと雖敢へて迫らず、而して從來南方に在りし敵兵正午悉く西方高地に移り、全部徒歩戦せるもの如し、乃ち長谷川少佐は此機に乘じ脱逸せんミ決し、半數毎に交互裝鞍せしめ準備整ふや直に乗馬し散開して急遽南方に突進し行くこと五百米にして西北高地の敵騎三十亦散開して追撃し、頻りに馬上より射撃し他の六、七十騎我兩側後より急追せり、然るに我は劣等なる馬匹を混ぜしが故に充分に歩度を伸張すること能はず、遂に敵と相距る約二百米ミ爲りしも、豫定目標たる第一丘阜に達するを得たるを以て落伍者を收容し、郡山中尉の率ゐる十騎を後衛として南方に退却せり、此日南風烈しく砂塵濛々として天を蔽ひ、大に我隱匿に便ならしめたり、然れども敵兵第一丘阜に達するや、徒歩して射撃し我に負傷及落馬者四を生ぜしも之を收容するに違あらずして、第二丘阜に退却し尙ほ南進を繼續して澳保營子に到り始めて休止し、遂に事の爲すべからざるを覺り更にアーレンエーラに向ひて前進し、此夜同地に於て松村大尉の率ゐる主力に合し歸途に就けり、此戰鬪に於て前野少尉外下士卒三負傷し、下士卒五敵の俘虜と爲れり。

三月十一日第一挺進隊の斥候に會し同隊並に本軍大會戦の情況を知り、十九日奉天小西邊門外に歸還し二十一日解散せり。

該隊は一月十九日創台子出發以來日を経るこも六十有二日踏破せし行程少くも四百里なり。

附記 當時露軍は我第一第二挺進隊に對し鐵道及後方の危險を防がんミ欲し、多大の兵力即ち計歩兵十二大隊、護境兵四中隊、騎兵八中隊、哥薩克騎兵三十四中隊半、補充兵一萬、重砲二十四門、騎砲十二門を使用し爲めに

第一線の戰鬪力を減少し殊に「ドン」哥薩克騎兵第四師團を後方に派遣せしが如きは、我第三軍の奉天會戦に於ける繞圍運動を容易ならしめたるものにして、是即ち我挺進隊の與りて力ありし云ふべきなり。

第二挺進隊は軍司令官より左の通り感狀を授與せられたり。

騎兵第三第六第九第十三第十四聯隊の各一小隊

右者長谷川騎兵少佐の指揮に風し前後約二ヶ月間難苦を忍び深く敵地に進入し二月十八日長春、宅賴照間に於て鐵道電線を破壊し尙北進して松花江右岸に出て此に敵を急襲し以て彼の兵力を其方面に引致したり其功偉大なりと認む仍て感狀を授與す

明治三十八年三月二十一日

第二軍司令官男爵 奥 保 肇

支隊長は第一第二挺進騎兵隊に左の通り賞狀を授與す。

第一第二挺進騎兵隊

右は長日月間酷寒を犯し深く敵地に侵入し百難を排し缺乏に堪へ偉大なる精功を遂げ騎兵の名譽を發揚せり余は之に従事せし將校下士卒に對し滿腔の誠意を以て深く感謝の意を表するものなり

明治三十八年三月二十八日

支隊長 秋山 好古

第十三章 奉天附近の會戰

第二軍は黑溝台附近の會戰後二月上旬より中旬に互り、第六師團を以て第四師團の左翼に連なり、千家窪子（遼陽——奉天街道上）より拉木屯を経て林盛堡西南端に互る間を、第四師團を以て林盛堡西南より三家子、小武巖營、萬家園子を経て小台附近に互る間を、第三師團を以て太平庄より李大屯、韓山台を経て沈且堡に互る間を守備し、軍總豫備隊は揚家灣、青堆子、西廣山屯間に位置し、軍司令官大將男爵奧保鞏は大東山堡に在り、當時滿洲軍總司令官の直轄たる第八師團長の指揮する部隊は、第二軍の左翼に在りて、其第五師團は柳條口より長義套、馬狼祖を経て韭菜河子に互る間を、第八師團は黑溝台附近を、第二師團は頭泡、五家子、北坨子の線を守備し、殊に第八第二兩師團の各一部は土台子及黃臘坨子を占領し、後備歩兵第八第十旅團及砲兵第十七聯隊第二大隊は第八師團長の豫備隊となりて古城子、三尖泡附近に在り。

支隊（後備歩兵第二聯隊、同第三十五聯隊第一大隊（第二中隊欠）騎兵第一旅團（騎砲兵中隊、機關砲十二門共）騎兵第四聯隊（第一中隊欠）同第五聯隊（第二第三中隊の各一小隊欠）同第六第十聯隊（各第一中隊欠）戦利野砲兵中隊にして後備歩兵は第二軍兵站守備隊たり）は黑溝台の會戰後第八師團長の指揮する部隊の左翼に在りて牛居より七台子を経て媽々街に互る間を守備し、渾河右岸の敵情搜索に任ず、乃ち騎兵第四聯隊（第一中隊欠）同第五聯隊（第二第三中隊の各一小隊欠）機關砲二門を騎兵第五聯隊長種田大佐に指揮せしめ牛居を、後備歩兵第二聯隊第一大隊、騎兵第十三聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲四門を後備歩兵第二聯隊長伊東中佐に指揮せしめ七台子を、後備歩兵第二聯隊第二大隊、騎兵第六聯隊（第一中隊欠）同第十聯隊（第一中隊欠）戦利野砲兵中隊、機關砲三門を以て媽々街を、自餘の後備歩兵第三十五聯隊第一大隊（第一中隊欠）騎兵第十四聯隊、騎砲兵中隊（一

小隊欠）機關砲二門を以て洪家窩棚、三家子を守備し支隊長は三家子に在り、而して同地に在りし後備歩兵第三十五聯隊第一中隊は二十二日牛居の守備隊に増加せられ、媽々街の騎兵第十聯隊（第一中隊欠）は同朝出發第四軍に復歸し、騎兵第六聯隊長長江少佐同村守備隊を指揮す、支隊長は七台子の騎兵第十三聯隊を同夜媽々街に移すの計畫なりしも、其日媽々街及其附近は第三軍の守備區域に爲り、第三軍の部隊媽々街に到着せば之に同地の守備を譲り、且つ騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊欠及第三中隊欠）を支隊に屬すべき第二軍命令に依り、騎兵第十三聯隊の移轉を中止せり。

二月二十三日 午後二時第三軍の媽々街支隊同地に到着せしを以て、支隊の同地守備隊は日没後媽々街出發、其後備歩兵第二聯隊第二大隊、機關砲二門を牛居守備隊に増加し、騎兵第六聯隊（第一中隊欠）は青龍台に到り七台子、媽々街間の連絡及六間房、カ力馬（媽々街の西北約五里）方向の搜索に任し機關砲二門、戦利野砲兵中隊は牛居守備隊の後備歩兵第三十五聯隊第一中隊と共に三家子守備隊に入り、騎兵第八聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）は黑溝台出發午後二時三十分頃哈爾堡に到着し、牛居守備隊に屬して第八師團との連絡に任せり、而して此夜騎兵第五聯隊第三中隊（一小隊欠）を第五師團に派遣し、從來同師團に在りし同聯隊第二中隊の一小隊に代らしめたり。

二月二十四日 支隊は新に増加せられたる騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を洪家窩棚に招致し同第五聯隊第二中隊の一小隊は第五師團より牛居に到着して原隊に合せり。

本會戰に於ける軍の作戰計畫中支隊の任務左の如し。

秋山支隊は依然牛居より媽々街に互る間を守備し軍の攻撃に際し、渾河右岸に進出して第二第三軍間の連絡に任し、且つ第二軍の左翼を掩護し勉めて軍の前進を容易ならしむ。

二月二十四日

支隊長は右作戦計畫に基きて將來の前進を顧慮し左の部署を爲せり。

一、七台子の後備歩兵第二聯隊本部及第三中隊、機關砲一門は日没後牛居に移りて同村守備隊に入る。

二、三家子の騎兵第十四聯隊は午後より翌朝に至る間に七台子に移り同村の諸隊を合す。

三、牛居の騎兵第四聯隊（第一中隊欠）は晝間三家子に移り、同村守備隊及青龍台守備隊を合し、且つ騎兵第

四第六聯隊（各第一中隊欠）を以て集成聯隊を作り内田騎兵聯隊と稱す。

四、騎兵第八聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）は牛居に移り同第五聯隊（第三中隊欠）と共に集

成聯隊を作り種田騎兵聯隊と稱す。

五、牛居守備隊より黃臘坨子に歩、騎兵の一部隊を派遣し第八師團の監視隊と協力し同村を警戒す。

二月二十五日

騎兵第十四聯隊第三第四中隊は宿營の便宜上、洪家窩棚に残り牛居守備隊は後備歩兵第二聯隊

第五中隊騎兵第八聯隊第二中隊の二小隊を黃臘坨子に派遣し、自餘の諸隊は午後より夜に互り新配備に就きたり。

二月二十六日

支隊は依然牛居、七台子間を守備す、是より先二十三日第二軍司令官より軍兵站監の所望に隨

ひ後備歩兵第三十五聯隊第一大隊（第二中隊欠）及戰利野砲兵中隊を之に轉屬すべき命令を受け、且つ此日同監

の要求ありしが故に該後備歩兵隊を三家子より遼陽に遣り、戰利野砲兵中隊は同監の同意を得て依然之を支隊に

殘置し、又後備歩兵第二聯隊第三中隊を牛居より三家子に招致して戰利野砲兵中隊と共に内田中佐に屬せり、而

して前馬統嶺子、茨榆坨、馬園子の敵兵頻りに防禦工事を施し三台子、蕭家門、沙溝子附近の散兵壕既に立姿の程度に進みしものゝ如し。

午前八時軍は渾河左岸の地區を來勝堡、蘇湖堡の線に前進するに決し攻撃計畫を令達す、乃ち支隊の受けたる訓令要旨左の如し。

秋山支隊は渾河右岸の地區を前進して第三軍と連絡し、第八師團の攻撃に際しては特に其左翼を掩護し且つ勉めて其攻撃を容易ならしむ。

二月二十七日

支隊は第三軍の運動に伴ひ黃臘坨子、前馬統嶺子の線に向ひ前進せんを欲し、依然牛居より

七台子に互る間に在りて第三軍の前進を待てり、而して前面の敵情概ね變化無きも其内部に傳騎の往復頻繁なるを知る。

午後三時四十分黃臘坨子の守備交代に關する第二軍命令を得四時命令を下し牛居守備隊（後備歩兵第二聯隊（第一大隊欠）騎兵第五第八聯隊（各第三中隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）機關砲三門にして、騎兵第五聯隊長種山大佐指揮す）の後備歩兵第二聯隊本部及第二大隊（第五第八中隊欠）機關砲二門を黃臘坨子に派遣し曩に同隊より此地に派遣せる同聯隊第五中隊、騎兵第八聯隊第二中隊の二小隊を併せ、歩兵第三十一聯隊第一大隊（第四中隊欠）に代りて同村の守備に任し、同隊は午後十一時頃守備に就き、尙ほ又機關砲各一門を牛居及七台子の兩支備隊に増加せり。

二月二十八日

支隊は前日午後四時命令を下し七台子の後備歩兵第二聯隊第一大隊（第三中隊欠）騎兵第十三

牛居に向ふ
前進

聯隊、同第十四聯隊（第二中隊の一小隊欠）騎砲兵一小隊、機關砲三門を騎兵第十四聯隊長豊邊大佐に指揮せしめ左側支隊をなし、第三軍の運動に伴ひ三台子を経て後馬嶺嶺子に向ひ前進せしめ、牛居守備（後備歩兵第二聯隊（第一大隊欠）騎兵第五聯隊（第三中隊欠）同第八聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）機關砲四門）を撤し午前七時三十分より全力を以て黄臘陀子を守備し、其騎砲兵中隊（一小隊欠）に戦利野砲兵中隊を加へ、同村附近に放列を布き八時より馬嶺嶺子、茨楡坨方向を射撃して左側支隊を援助せしめ自餘の諸隊（後備歩兵第二聯隊第三中隊、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）同第四第六聯隊（各第一中隊欠）機關砲四門）をして同時牛居に移轉せしむ。

支隊長は前夜馬嶺嶺子附近の敵を撃攘すべき第二軍命令を得しも部署を變せず、騎兵第十四聯隊第二中隊の一小隊を三家子に残置し第二軍司令部の連絡に任し、午前七時三十分主力と共に牛居に前進す。

騎兵第四聯隊（第一中隊欠）は是より先種田大佐に屬する後備歩兵第二聯隊第八中隊及騎兵第五聯隊第一第二中隊の各一小隊に代り、牛居西北渾河の線を警戒し、種田大佐の率ゐる部隊は午前七時三十分頃黄臘陀子に集結し八時頃其騎砲兵中隊（一小隊欠）を同村西南端に、戦利野砲兵中隊を同村東北端の陣地に就けしめ、朝來の濃霧にて射撃するを得ず、十時過ぎ霧霽れ兩砲兵中隊、前馬嶺嶺子を射撃するや、同村端の敵騎五六十後馬嶺嶺子に退却す、是に於て支隊長は十時騎兵第四聯隊第三中隊を牛居に招致して、左側支隊との連絡に任し、十一時其他を率ゐる黄臘陀子に前進し正午到着して種田大佐の率ゐる部隊を併せ、午後零時二十分騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）機關砲二門を騎兵第三聯隊長中山少佐に指揮せしめ、土台子に派遣して支隊の右側を警戒

牛居に於ける状況

し、兼て同地に在る第八師團の部隊と連絡せしむ、乃ち同聯隊は土台子に到り張家窩棚方向に對して警戒するや午後二時三十分頃、鮎魚泡附近より熾なる敵の砲火を蒙れり、又騎砲兵中隊（一小隊欠）は午後一時黄臘陀子西端に陣地を變換し二時頃より再び前馬嶺嶺子を射撃し、同村の敵騎數十を偏堡子方向に撃退す、同時我戦利野砲兵中隊の後馬嶺嶺子を射撃するや、敵砲四門亦同村西方丘阜より緩徐に應射せり、當時支隊長は左側支隊の午後一時茨楡坨に進入せしを知り、將校斥候を派遣して之に連絡せしめ黄臘陀子、三台子間に在りて警戒に任せし騎兵第四聯隊第二中隊を黄臘陀子に招致す、尋て左側支隊の前進近きに在るを察し、四時騎兵第五聯隊第一中隊をして前馬嶺嶺子に前進し、後馬嶺嶺子附近の敵情を搜索せしむ、乃ち同中隊は五時二十分前馬嶺嶺子に達す、時に同村西方丘阜及偏堡子附近に少數の敵騎徘徊せしも、左側支隊の前進に依り六時頃漸次北方に退却せるを以て、支隊長は同中隊を黄臘陀子に招致せり。

左側支隊長豊邊大佐は午前七時三十分騎砲兵小隊をして、七台子西北端に於て三台子、蕭寨門に對し放列を布かしめ、騎兵第十三聯隊第一中隊の一小隊を其掩護に任し、自餘の諸隊をして同時迄に出發準備をなさしめ、斥候を以て敵情を搜索し、八時三十分第三軍第九師團の右翼部隊既に三台子を占領せし通報を得、乃ち騎兵第十四聯隊第三中隊を前衛として前進し、十時同地に達し騎砲兵小隊を以て其北端より茨楡坨附近を射撃し、敵兵北方に退却せしに依り正午之を中止す、是より先豊邊大佐は第九師團の右翼部隊の午前九時過ぎ蕭寨門北方約一千里の丘阜を占領し、茨楡坨附近に大なる敵兵無きを知りしが故に、午後零時三十分三台子を出發し一時頃前衛を以て茨楡坨を占領す、時に同村北方約一千里の丘阜に若干の敵兵あり、乃ち前衛は村端に於て徒歩戦をなすや、敵兵

左側支隊の
機砲馬嶺
嶺子に向ふ
前進

同砂丘に小部隊を残し北方に退却す、其數約百騎なり、尋て本隊も亦同村に達し後備歩兵第二聯隊第一中隊を前衛に増加し、騎砲兵小隊を以て同村丘阜より前馬籠嶺子西方丘阜の敵を射撃し、第九師團の歩兵第三十五聯隊第一大隊（第一中隊欠）も亦同時四十分茨楡埜に到着し三時頃より協力して此敵を攻撃するや、幾もなく四方台方向に退却せしに依り、歩兵第三十五聯隊第一大隊（第一中隊欠）は三時四十分頃敵陣地を占領せり、而して此敵の退却するや、前馬籠嶺子附近の敵兵亦漸次退却せるが故に、左側支隊は四時三十分出發五時三十分頃同村を占領せり、此時偏堡子及其西北丘阜附近に敵の一部尙ほ殘留せるを以て、騎砲兵小隊は六時之を射撃し北方に撃退せり。

是夜秋山少將は中山支隊たる騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）機關砲二門を以て、第八師團の一部に協力して土台子を守備し、且つ同師團との連絡に任し自ら本隊と共に黃臘埵子に宿營す、豐邊支隊は後備歩兵第二聯隊第一中隊及騎兵第十三聯隊を偏堡子に派遣し四方台方向を警戒し、自餘の諸隊を以て前馬籠嶺子に宿營せり、當時前面の敵兵、前鮎魚池、四方台附近を守備し我第九師團の右側衛は前邊外附近に、同師團の主力は王家窩棚附近に停止せるが如し。

午後九時四十五分第二軍司令官より左記要旨の命令を受く。

秋山支隊〔後備歩兵第二聯隊、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）同第四聯隊（第一中隊欠）同第五聯隊（第三中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）同第八聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）同第十三第十四聯隊、騎砲兵中隊、戦利野砲兵中隊、機關砲十一門〕は依然第二第三軍間の連絡に任し、特に我軍

の左翼を援護し爲し得れば當面の敵を攻撃して軍の攻撃前進を容易ならしむべし。

三月一日 支隊長は前夜九時前任務を續行する爲命令を下し、土台子の中山支隊〔騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）機關砲二門〕をして、依然其地に在りて後命を待たしめ、豐邊支隊〔後備歩兵第二聯隊第一大隊（第三中隊欠）騎兵第十三第十四聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲二門〕をして拂曉迄後馬籠嶺子附近を堅固に守備し爾後支隊主力及第三軍の運動に伴ひ、張家窩棚に向ひ前進せしめ、種田支隊〔騎兵第五聯隊（第三中隊欠）同第八聯隊（第一第二中隊の各一小隊及第三中隊欠）〕を黃臘埵子に留めて土台子、後馬籠嶺子間の警戒及連絡に任し、本隊〔後備歩兵第二聯隊（第一大隊欠）騎兵第四聯隊（第二中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）戦利野砲兵中隊、機關砲七門〕は午前六時三十分黃臘埵子出發土台子に到らんとす、然るに後に至り第八師團の通報に依り、同師團の拂曉より長灘附近の敵を攻撃する爲其西南地區に攻撃陣地を占領するを知り、土台子に在りし中山支隊をして其攻撃に協力せしめんを欲し、後備歩兵第二聯隊第三中隊をして午前五時黃臘埵子出發同支隊に屬せしむ、中山支隊は午前七時土台子に於て出發準備を整へ、種田支隊は六時三十分黃臘埵子北端附近に集合し、騎兵第五聯隊第一中隊を土台子、後馬籠嶺子の中間に派遣し、豐邊支隊との連絡並に四方台方向の警戒に任せしむ。

前夜偏堡子及前馬籠嶺子に宿營せし豐邊支隊は早朝後馬籠嶺子附近を占領せんとし、六時偏堡子の騎兵第十三聯隊長小池中佐に一中隊を後馬籠嶺子に派遣し、爲し得れば之を堅固に守備して支隊の來着を待たしめ、尙ほ同中佐の令下に在る諸隊（聯隊の主力及後備歩兵第二聯隊第一中隊）も情況之を許せば同地に前進して支隊の主力に合

午前七時以
後に於ける
状況

すべきを命じ主力を七時、前馬嶺嶺子西方に集合し出發準備を整へり、乃ち騎兵第十三聯隊第四中隊は同時後馬嶺嶺子を占領し、同聯隊の主力及後備歩兵第二聯隊第一中隊之に續きて同地に到着し、騎兵第四中隊を同村西北約八百米の丘阜に派遣して左側を警戒し、歩兵中隊をして同村の北端に防禦工事を施さしむ、當時前面の敵兵後馬嶺嶺子北方千七、八百米の丘阜に歩兵約三十防禦工事を施し、又同一聯隊餘四方台西北を退却中な。

支隊長秋山少將は午前七時本隊を率ゐて黃臘坨子を出發し、八時土台子南方の凹地に到り、同時更に後備歩兵第二聯隊第六中隊を中山支隊に屬し、土台子北端を占領して張家窩棚方向を警戒せしめ、又砲兵隊に命じ土台子北端に放列を布き張家窩棚の敵を射撃せしむ、乃ち戦利野砲兵中隊及騎砲兵中隊（一小隊欠）は九時頃土台子北端土壁後に放列を布き戦利野砲兵先づ張家窩棚を射撃するや、敵歩兵約百同地より前鮎魚泡方向に退却せしに依り兩中隊は之を射撃し、後鮎魚泡附近より八音台方向に行進する敵の歩兵一聯隊を射撃して潰亂せしむ、同時東鮎魚泡附近の敵砲兵土台子を楯に射撃せしに依り、兩中隊は更に射向を該砲兵に轉ず、敵亦應射し爾後専ら砲戦を交へり。

左側支隊の
状況

豊邊大佐は午前八時三十分諸隊を率ゐる前馬嶺嶺子出發後馬嶺嶺子に到り騎兵第十三聯隊を併せ、尋て後備歩兵第二聯隊第一大隊（第三中隊欠）をして同村西北丘阜を、騎兵第十四聯隊第二中隊をして同村西方丘阜を占領せしむ、此時敵の騎兵約三中隊四方台より我左翼に向ひ前進し來りしに依り、豊邊大佐は騎兵第十三聯隊第四中隊をして更に其位置を西方に轉じて警戒せしめ、同第十四聯隊第二中隊を支援隊として其左翼後に位置せしめ、又騎砲兵小隊をして後馬嶺嶺子西方丘阜に放列を布き敵の前進に備へしむ、然るに該敵騎は十時頃偏堡子北方約千米

四方台の攻
撃準備

に於て第三軍の第九師團部隊の射撃を受け龍灣附近に退却せり。

支隊長秋山少將は同時三十分頃第八師團の要求に依り、後備歩兵第二聯隊本部及第二大隊（第六中隊欠）騎兵第四聯隊第二中隊の一小隊、機關砲四門を暫く同師團左翼隊に屬し其攻撃を援助せしめ、十一時黃臘坨子の種田支隊を土台子に招致し、又騎兵第四聯隊（第一中隊及第二中隊の一小隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）を内田中佐に指揮せしめ張家窩棚を占領せしむ、此に於て内田中佐の率ゐる部隊は直に土台子西端に集合し、騎兵第四聯隊第二中隊の一小隊を大間隔に散開して張家窩棚に前進せしめ、同中佐は同聯隊第三中隊の一小隊を率ゐる支援隊の爲之に續行し、自餘を騎兵第六聯隊長長江中佐の指揮に屬し、聯隊縱隊を以て前進中前鮎魚泡の敵砲兵より集注火を受け一度離散せしも、十一時三十分頃悉く張家窩棚に進入して隊伍を整頓し、騎兵第六聯隊（第一中隊欠）を以て張家窩棚を、同第四聯隊（第一中隊及第二中隊の一小隊欠）を以て潘家窩棚を守備せり、種田支隊は騎兵第五聯隊第一中隊を以て依然土台子、後馬嶺嶺子間の警戒及連絡に任し正午黃臘坨子を出發して午後一時土台子に到着し支隊本隊に合せり、斯くて支隊は既に張家窩棚、後馬嶺嶺子の線に進出し四方台を攻撃す、交戦二時間の後敵の騎兵數縱隊を爲り退却せるも歩兵は頑強に抵抗して退却せず、依て第九師團の攻撃を待ちしも各方面の戦況著しき發展を見ずして遂に夜に入りたり。

此夜支隊は種田支隊（後備歩兵第二聯隊、騎兵第五第八聯隊、機關砲二門）及戦利野砲兵中隊を除き、其他を以て第三軍に轉屬せしめらる。

三月二日 四方台、長灘の敵は夜間を利用し退却せり、支隊は第三軍に屬し午前八時土台子を出發し四方台、

支隊第三軍
に轉屬

騎兵第一、
第二旅團を
合して秋山
支隊と稱す

翌日に開す
る軍命令

平安堡、楊士崗子、三堡子を経て午後二時大三家子に到着するや軍命令に依り騎兵第六聯隊（第一中隊欠）を該地に残置し長灘、蘇湖堡間渾河沿岸の敵情搜索並第三軍各縱隊の連絡に任じ同第十四聯隊第四中隊を軍司令部、黑溝台通信所の遞騎に任じ他を以て岔路口に向ひ前進し、午後七時七公台に達し騎兵第六聯隊を以て大三家子に、主力を以て七公台に宿營す。

第三軍の通信網は前日猶ほ意の如くならずして軍司令官は夜に至るも第二軍方面の情況に就き何等の確報を得ざりしのみならず、第一縱隊（第九師團）の情況すら尙ほ明らかならず、此時に方り田村支隊より諸兵連合の敵兵約一萬西北方より馬三家子附近に到着せりとの報告あり、而して奉天附近の敵情に就き信すべき情報を得ざりしが故に、獨立して過度に敵地に進入するは其時機尙ほ早きに過ぎ、或は爲に軍の覆滅を來たし延きて全軍に危害を及ぼすの虞なしとせず、然れども機に乗じて直前の敵を撃攘し以て爾後の作戰を容易ならしむるは固より之を勉めざる可からずとし、明拂曉より前面の敵を攻撃せんとし支隊は左記要旨の命令を受く。

秋山支隊（秋山支隊、騎兵第一旅團（騎兵第十三聯隊第三中隊同第十四聯隊第四中隊欠）、騎砲兵中隊、機關砲九門（内一門は第八師團より追及中に在り）、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）、田村支隊（步兵第三聯隊第一大隊（第三第四中隊欠）、騎兵第二旅團（機關砲六門共）、同第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠））を併せて秋山支隊と稱す）は明拂曉より主力を以て馬三家子方向に前進し、軍の左側を掩護し且つ遠く奉天北方を搜索すべし。

第一 三月三日大房身附近の戦闘

秋山少將は騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）を前衛、同第十三聯隊（第三中隊欠）、機關砲八門、騎砲兵中隊、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を本隊とし午前七時三十分七公台北端を發進し、八時三十分曹家台に達し同村北端に集合せる田村支隊を併せ先づ大房身に前進せんと欲し、騎兵第十六聯隊（第四中隊の二一小隊欠）〔本多大佐〕を馬三家子に差遣し同村以北の敵情を搜索し、同第十五聯隊第四中隊（二一小隊欠）を新民府に派遣し同地に殘せし同中隊の二小隊を合せしめ、又同聯隊第二中隊の一小隊を板橋子に派遣して支隊の左側を警戒し且つ板橋子、新民府以北の敵情を搜索せしめ、依然騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）を前衛とし、大房身を経て前進し爲し得れば前新台子附近を占領して遠く奉天以北の敵情を搜索せんとし本隊を率る之に續行す。

騎兵第十六聯隊は第二中隊を前衛として曹家台を出發し、午前十時頃馬三家子に達し第二中隊を以て東北端を、第三中隊を以て西北端を守備し、第一中隊及第四中隊の二小隊を豫備隊として南端に置き専ら東北方を搜索し、其第三中隊は一小隊を拉馬台に置き支隊に連絡せしむ、然して前夜大荒地に在りし第四中隊（二小隊欠）は遠く北進して搜索を續行せり。

支隊主力の前衛司令官豐邊大佐は騎兵第十四聯隊第一中隊を前兵とし、同第二中隊の一小隊を右側、同第三中隊の一小隊を左側各約七百米に派遣し午前八時三十分曹家台を出發して大房身に向ひ、騎兵第二旅團（騎兵第十五聯隊第二中隊の一小隊同第四中隊同第十六聯隊欠）同第九聯隊（第一第三中隊の各一小隊及第二中隊欠）同第一

大房身附近
に向つて前
進

旅團（第十三聯隊第三中隊欠）騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は支隊本隊となり前衛に續行し十時前兵の先頭、小房身南方約八百米の十字路（二三の家屋あり）に達せしき同村に敵騎在るを發見し、前衛は姑く十字路の人家に隱蔽して敵情を搜索し其僅に三、四十に過ぎざるを知り、前兵の各一小隊を小房身の東西兩側に派遣し、自餘を廣正面に散開して正面より前進するや、敵兵十數回の一齊射撃を爲せしも兩翼に迂回せし小隊其退路を脅威せるを以て、遂に大房身方向に潰走す乃ち前衛は直に同村に向へり、時に大房身西部に敵の歩兵約二百、騎兵五、六ありて土壁に據り我を射撃するを以て、前兵中隊は依然各一小隊を兩側に派遣し之を包圍せんとするや同村北部に退却す。乃ち前兵は西部を占領せり、當時新民府——奉天道に敵の騎兵諸處に往來し大房身北部に歩兵二、三百あり、前兵は徒歩戰を以て之に對す、豊邊大佐は之を擊攘せんと欲し前兵中隊の左翼に第二中隊（一小隊欠）を、右翼に第三中隊を徒歩にて増加せるも敵兵土壁に據り頑強に抵抗せり、此時板橋子の騎兵第十五聯隊第二中隊の一小隊は敵の騎兵の壓迫する所と爲り退却して本隊に合せり。

秋山少將は本隊を大房身西部南端に開進し、且つ諸情報を綜合して古城子附近に敵の大集團在るものゝ如く、其歩兵少くも二千、騎兵約二百午前八時三十分頃與隆甸（大房身西北約三里）より新民府——奉天道を奉天方向に前進し十時頃より騎兵約三三中隊老邊より大兩家子方向に、同約四中隊、北方より大房身附近に前進し大石橋附近に騎兵部隊、大轉灣橋附近に歩兵約一千あるを知り大房身附近に於て與隆甸附近より前進中の敵を拒止し、第三軍の左側背を安全ならしめんを欲し、戦利野砲兵及騎砲兵兩中隊をして大房身西端に放列を布かしむ、乃ち兩中隊は單簡なる掩體を構築し十一時十分、先づ各二小隊を陣地に就かしむ、然るに約二十分の後板橋子方向より敵の

騎兵約一中隊東進せしに依り、支隊長は騎砲兵中隊の他の一小隊をして大房身西部の西北端より之を射撃せしむ發射二十餘發にして敵兵北方に潰走せしも大房身北部の敵兵益増加するものゝ如く火戰漸次熾烈となりたり。是より先敵の滿載輜重車十數輛新民府——奉天道を東進中なりとの報告あり、果して十一時三十分頃板橋子より續々大房身北部に行進するを見る、乃ち我第一線之れを射撃し潰走せしむ、此時大房身東部附近に在りて警戒中の騎兵第十四聯隊第二中隊の一小隊は其十輛を鹵獲せり（梨、乾柿、雞卵、白砂糖、ミルク、角砂糖なり）

前面の敵は益増如し板橋子方面にも活動する敵兵ありしに依り、支隊長は機關砲各二門を大房身の西端及西南最左翼に配置して砲兵の掩護に任す、此時連絡として曩に第二軍司令部に派遣し在りし騎兵第十三聯隊第三中隊復歸せり、午後一時頃諸兵連合の敵の大縱隊老邊方向より行進し、漸次板橋子附近に達す、乃ち戦利野砲兵及騎砲兵兩中隊は同村西方及小兩家子東南森林より東進する歩兵約一大隊を射撃するや、直に散開して前進せしに依り、

支隊長は歩兵第三聯隊第一中隊を大房身西部の西方に展開し、機關砲二門を前衛の右翼に加へ戦利野砲一小隊をして同村東南端より大房身東部及北部を射撃せしめ、機關砲二門を其右翼に置き之を掩護せしめ、自餘の機關砲六門を同村西南方に備へ、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）及同第十五聯隊第二中隊を中山中佐に指揮せしめ、小邊に差遣し後方及兩翼の警戒に任じ、騎兵第十三聯隊、同第九聯隊（第一第三中隊の各一小隊及第二中隊欠）を豫備隊として大房身南端に置き陣地西北部の諸隊（歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十五聯隊、第二中隊欠）、戦利野砲四門、騎砲兵中隊、機關砲十門）を田村少將に、同東北部の諸隊（騎兵第十四聯隊（第二中隊の一小隊及第四中隊欠）戦利野砲二門、機關砲四門）を豊邊大佐の指揮に委ね、歩兵第二中隊を豫備隊とせり、

午後一時より三時に互る状況

騎砲兵小隊及其附近の機關砲二門は二時頃古城子、板橋子間を東南方に前進する敵の歩兵約一大隊、騎兵二、三中隊を射撃し、其一部の散開して新民府——奉天道に沿ひ乾涸せる小流に入り、他の一部の潰亂して北方に迂回せんとするや、右翼の戦利野砲兵小隊亦射撃を後者に加へ益潰亂に陥らしむ、然れども此敵は遂に古城子附近に集合せり、此時敵の砲兵約一中隊板橋子東北端より我左翼の砲兵陣地及散兵線を射撃し、敵の第一線益々前進し歩兵第三聯隊第二中隊の一小隊は騎兵第十四聯隊の散兵に増加し、二時三十分頃戦闘猛烈と爲り、敵兵續々増援を得、其大房身北部より板橋子に到る街道附近の者漸次左翼を擴張し、大房身北部の敵と連絡するに至り、同村附近に大なる兵力を集合し、我右翼を攻撃せんとするの形勢あるを以て、歩兵第三聯隊第二中隊の他の一小隊を同方面に増加し、北端の騎砲兵小隊は大房身北部の土壁に向ひ破壊射撃を行ひ、又右翼の戦利野砲兵小隊は同村及其附近に増援する敵を射撃し、遂に同村に火災を起し其土壁の諸處に大破壊孔を穿てり、尋て敵の歩兵約二中隊大房身東部附近より我右翼に向ひ前進せしに依り、騎兵第十三聯隊第一中隊は徒歩戦に依り、戦利野砲兵小隊の左翼に増加し共に猛射を加へて之を撃退せり（此時豊邊大佐は第一線を觀察中負傷し騎隊は暫く小池中佐の指揮に屬す）此間同聯隊第二中隊は騎砲兵陣地の後方に進み掩護に任ぜり、三時頃一大隊を下らざる敵の歩兵小隊家子東南の森林附近より一縱隊となりて大兩家子に向ひ前進し、其一部散開して東方に向ひ、又同約一大隊板橋子東南より展開して前進し我歩騎兵及機關砲は猛烈に之を射撃し、又戦利野砲兵及騎砲兵兩中隊は南進する密集部隊を射撃するや敵の死傷算なく暫く前進を躊躇せしも、遂に其一部は劉家窩棚南方小流の線に達し他は大兩家子に侵入せり。

馬三家子に於ける騎兵第十六聯隊の状況

中山中佐の率ゐる部隊は午前十一時小房身に達し、騎兵第三聯隊第一中隊の一小隊を以て小邊を守備せしも午後一時三十分頃敵の歩兵一、二大隊老邊附近より迂回して小兩家子に進入せりとの報告に接し、二時頃同聯隊第二中隊を小邊に派遣し、尋て全部を以て同村に入り大兩家子に進入せし敵と對峙して夕に至れり、此間馬三家子に在りし騎兵第十六聯隊（第四中隊の二小隊欠）は敵の歩騎兵李官堡、紅旗台、大石橋附近に停止し午後二時頃歩兵約二大隊後民屯附近より紅旗台方向に退却するの報を得し外其前面には唯、前新台子附近に斥候の出没せるを認むるのみなりしも、四時頃に至り敵の騎兵約一中隊古城子方向より前新台子方向に行進し、途中より馬三家子の西北に向ひ尋て他の約一中隊前新台子より馬三家子北方に散開して前進するを以て、直に第二第三第四中隊を以て之を撃退せり。

横山搜索中隊の行動

騎兵第十六聯隊第四中隊（二小隊欠）（横山大尉）は搜索中隊として前夜馬三家子西方約五里の大荒地附近に在りしも今朝同村を出發し、張高麗屯（大房身西北四里半）附近に達せし時敵の歩兵約二千、騎兵四百、砲若干輿隆向より東進するを發見し、直に第三軍司令官及支隊長に報告し、後門台を経て馬三家子に到り三時頃原聯隊に合せり。四時二十分頃に至るや敵砲兵の板橋子西南に在りしもの同村東端に、又東方に在りしもの其南端に、陣地を變換せしが如く約三中隊を以て我大房身陣地の西部及村落内を猛烈に射撃し、騎砲兵小隊の損害少からず、隊長を失ふこと二回に及び、同中隊長林大尉は當時稍安全なる主力の指揮を特務曹長に委ね、自ら該小隊を指揮せり、尋て戦利野砲兵中隊は彈藥盡ならざりしに依り射撃を中止するの已むなきに至る、然るに敵の砲火尙は繼續し其歩兵七八百米に近接せしも、我歩騎兵及機關砲の猛烈なる射撃の爲停止し、五時三十分頃動搖を始めたが、六時頃

午後四時頃より夕に至る状況

馬三家子西北道路に沿ひ敵の徒歩兵約一中隊前進し來り、同村を距る約一千米に停止せり、當時騎兵第十六聯隊長本多大佐は第二第四中隊を藍家屯に、第三中隊を拉馬台に移して支隊主力の側背を掩護し、第三中隊は拉馬台に至り大房身東部より退却して、同村に在りし騎兵第十四聯隊第二中隊の一小隊を協力して新民府——奉天道の敵を射撃するや、其歩兵約一小隊を少しく前進せしも暫時にして退却せり、而して黄昏に至り大房身北部の倉庫に火を放ち劉家窩棚方向の第一線部隊を逐次退却せしめ、板橋子附近に集合せしもの亦西十里河方向に退却を始む、此に於て我砲兵及機關砲に猛烈に之を射撃するや、隊伍を亂し多數の死傷者を遺棄して東北方に敗走せり、而かも砲兵は最後迄陣地に留まりて其退却を掩護せり、大兩家子の敵兵も亦七時頃より退却を始め、我砲兵及機關砲の側射を受け多大の損害を蒙りしもの如し、然るに獨大房身北部の敵は頑強にして未だ容易に退却せず、黄昏に至る迄絶えず我を射撃し夜に入り尙ほ若干部隊を留めて本隊の退却を掩護せり。

新民府に派遣を命ぜられたる騎兵第十五聯隊第四中隊（二小隊欠）は午前八時曹家台を出發し、午後二時二十分大民屯（曹家台西方約五里）に達して、前日來新民府に在りし同中隊の二小隊を併せ、同時頃敵の騎兵約三中隊一半台（大民屯西北約七千米）附近に出没するの情を得、佟家房申（大民屯西北約半里）北方丘阜に向ひ前進し斥候を以て一半台及大遼河右岸の敵を搜索せり。

支隊は斥候を以て敵を追蹙し姑く騎兵第十六聯隊を馬三家子に、歩兵第三聯隊第一大隊（第三第四中隊欠）を大房身に、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を小邊に留め自餘を以て、八時十分大房身を出發して曹家台及岔路口に後退して宿營し、騎兵第十四聯隊第一中隊を高家窩棚に差遣して左翼を警戒し、馬三家子、

大房身及小邊に残留せる諸隊は九時より十一時の間に主力に合して宿營す。

新民府方向に前進せる騎兵第十五聯隊第四中隊は九時佟家房申附近に到りて宿營せり、而して敵の騎兵約三中隊午後六時頃西方より來りて李家窩棚（大民屯西北約二里）附近に於て大遼河を渡り東北方に退却し、馬廠に尙ほ一部残留し又大遼河の線に點々監視兵ありて馬廠、李家窩棚附近に燄火あり。

此日の戦闘に於て支隊の損害は戦死下士卒十七名、負傷將校八名、下士卒七十一名、俘虜卒二名、馬匹の死傷二十七頭あり。

附記 露軍は「ビルゲル」中將支隊の歩兵第四十一師團司令部及同第一旅團、同第二百四十一聯隊の二中隊「オレンブルグ」哥薩克騎兵第十聯隊第六中隊、同第十一聯隊第四第六中隊、砲兵第四十五旅團第一大隊にして總司令官の命に依り二十八日夜奉天出發一日夜高力屯に達し、二日夜更に奉天に向て召還せられしものにして、此戦闘に於て將校九名下士卒五百六十八名を失ふと云ふ。

此戦闘に於て支隊は第三軍司令官より左の通り感狀を授與せらる。

歩兵第三聯隊第一大隊（二中隊欠） 騎兵第一旅團騎兵第三聯隊（一中隊欠） 騎兵第九聯隊（一中隊欠）
騎砲兵中隊、戦利野砲兵中隊、第一第二繋駕機關砲隊。

右は秋山少將の指揮に屬し三月三日大房身附近の戦闘に於て優勢なる敵の攻撃を拒止して軍の左側背を安全ならしめ遂に是を撃攘して多大の損害を與へ以て軍の作戰を容易ならしめたり其功績顯著なりと認む依て茲に感狀を授與す

明治三十八年三月十二日

第三軍司令官男爵

乃木希典

支隊長の答辭左の如し。

三月三日大房身に於ける我軍の微功に對し感狀を授與せられ感激の至りに堪へず今後益々奮勵今日の榮譽に背かざらんことを期す

明治三十八年三月三十日

秋山少將

支隊長の訓示左の如し。

振古夫曾有なる奉天附近の大會戰に於て當支隊が感狀を得たるは余の感激措く能はざる所なり茲に滿腔の誠意を以て余が指揮にありし將校下士卒に對し感謝の意を表し今後益奮勵今日の榮譽に背かざらんことを期す

明治三十八年三月三十一日

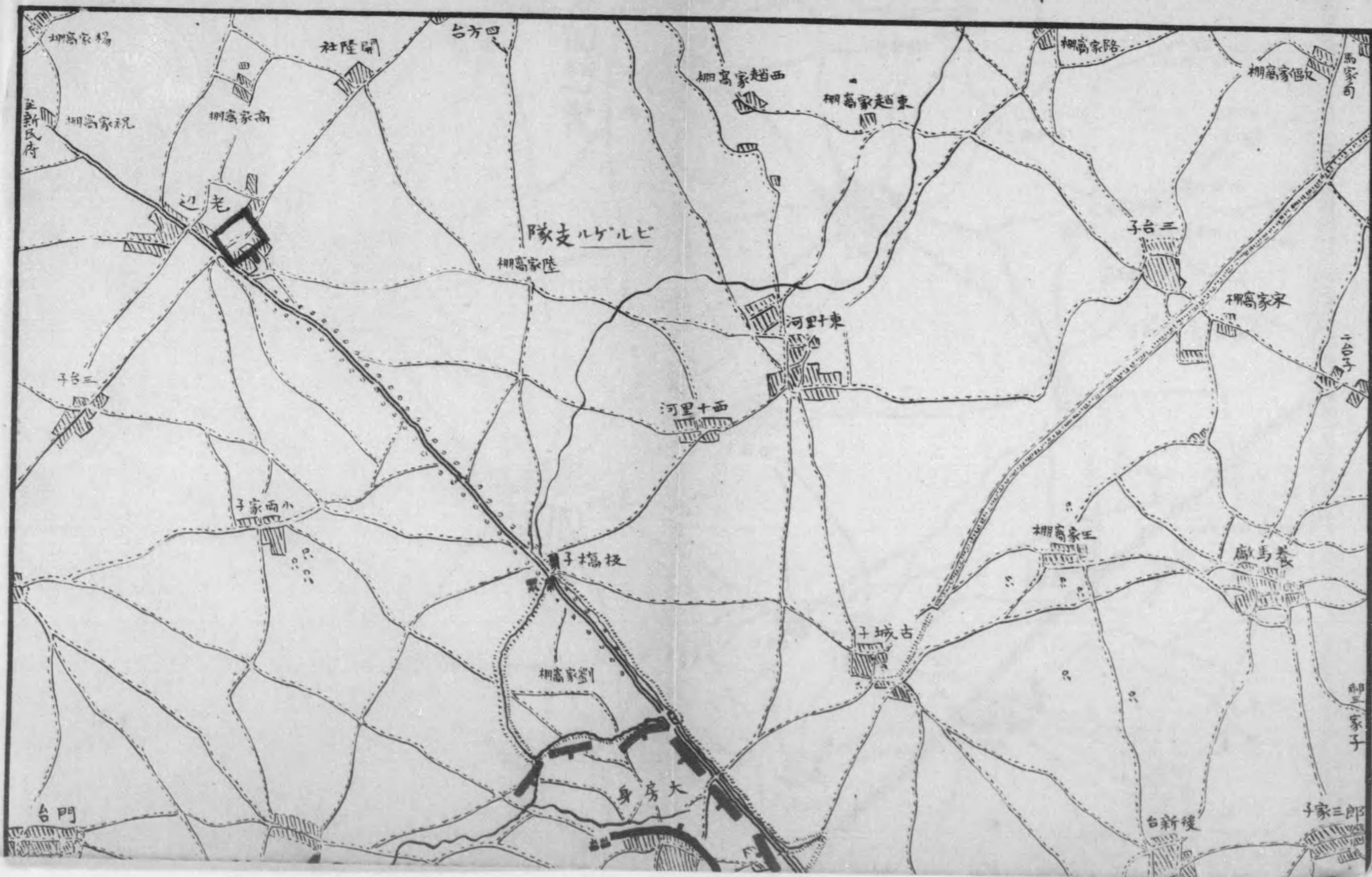
秋山好古

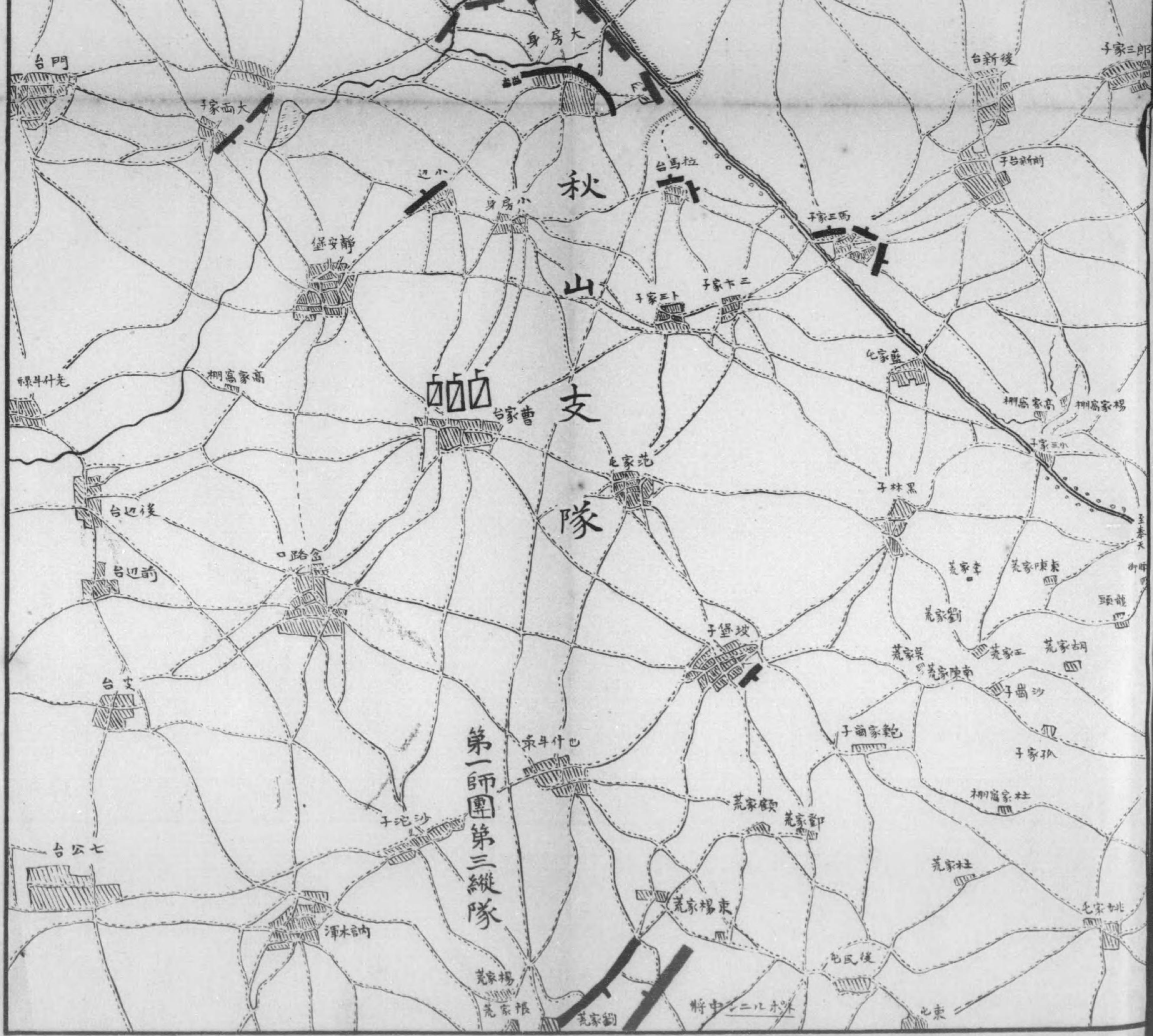
前新台子に
向て前進

三月四日 前面の敵は退却を續行す、支隊は平羅堡に向ひ前進せんとし午前八時曹家台北方に集合し、先づ馬三家子に向ひ尋て戰況に應じて平羅堡に前進せんと欲し、騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を前衛とし馬三家子に向はしめ、同第十三聯隊を左側衛とし大房身に前進せしめ、同第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）を大民屯に差遣して板橋子及新民府附近に出没する敵騎に對し、第三軍の左側を警戒せしめ、自餘〔歩兵第三聯隊第一大隊（第三第四中隊欠）騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）同第二旅團（第十五聯隊第四中隊欠）騎砲兵中隊、戰利野砲兵一小隊（戰利野砲兵中隊は前日の戰闘に於て彈藥乏しきを以て一小隊を残し後方に退き輜重と合せり）機關砲十四門〕を支隊本隊とし午前九時曹家台を出後して前衛に續行す、前衛は斥候を平羅堡方

奉天附近之會戰三月三日大房身之戰 圖十第

1/20000 位置、頃時八前午、日





前新台子
向て前進

振古夫會有なる奉天附近の大戦に於て當支隊が感狀を得たるは余の感激措く能はざる所なり茲に滿腔の誠意を以て余が指揮にありし將校下士卒に對し感謝の意を表し今後益奮勵今日の榮譽に背かざらんことを期す

明治三十八年三月三十一日

秋山 好古

三月四日 前面の敵は退却を續行す、支隊は平羅堡に向ひ前進せんとし午前八時曹家台北方に集合し、先づ馬三家子に向ひ尋て戦況に應じて平羅堡に前進せんと欲し、騎兵第三聯隊(第一中隊の一小隊及第三中隊欠)を前衛とし馬三家子に向はしめ、同第十三聯隊を左側衛とし大房身に進せしめ、同第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)を大民屯に差遣して板橋子及新民府附近に出没する敵騎に對し、第三軍の左側を警戒せしめ、自餘〔歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠) 騎兵第十四聯隊(第四中隊欠) 同第二旅團(第十五聯隊第四中隊欠) 騎砲兵中隊、戦利野砲兵一小隊(戦利野砲兵中隊は前日の戦闘に於て彈藥乏しきを以て一小隊を残し後方に退き輻重と合せり) 機關砲十四門〕を支隊本隊とし午前九時曹家台を出後して前衛に續行す、前衛は斥候を平羅堡方

向に派遣し騎兵第三聯隊第二中隊（二小隊欠）を前兵とし、午前十一時頃前兵を以て平羅堡南方に、前衛本隊を以て郝三家子に、支隊本隊は馬三家子に達す、左側衛たる騎兵第十三聯隊は第二中隊を前衛とし、小房身を経て同時頃大房身に到り敵情を搜索せり、支隊長は前日同地附近に於て戦闘を交へし敵は前夜古城子より平羅堡に互る間に宿營し、今朝來東北方に退却し北大橋（平羅堡東南約半里）附近に尙大部隊あるが如く、又郝三家子、古城子附近に在りし騎兵二、三中隊は我前衛及左側衛の前進するに随ひ退却し、午前九時頃歩騎兵約三中隊平羅堡東北丘阜附近を東方に向ひ行動せるを知れり、尋て左側衛は小數の敵騎を驅逐して午後一時三十分養馬廠に、前衛は平羅堡に本隊は前新臺子に前進し、續きて敵情を搜索せしも其後情況變化なく、友軍第一師團の左縱隊も秋家屯に停止し、前進の狀無きを以て三時支隊は現在地附近に宿營するに決せり。

騎兵第六聯隊（第一中隊欠）は支隊に屬せられ二時四十分弓匠堡子より追及して支隊本隊に合せり。

騎兵第九聯隊は第一中隊（二小隊欠）を前衛とし老什牛祿（曹家台西方約一里半）花樓（曹家台西方約四里）を経て午後一時三十分頃大民屯に到り、第三中隊の一小隊を同村西北部に、第二中隊の一分隊を小北屯（大民屯北方約一公里）に分遣して北方を警戒す三時敵の騎兵二、三百佟家房申（大民屯西北半里）に進入せしも其後大部は北方に、一部は一半台方向に退却せり。

前日新民府方向に進み同夜佟家房申に宿營せる騎兵第十五聯隊第四中隊は小數の敵を驅逐し、午後三時新民府に入り徒歩戦を以て東方より來るれ敵騎約五十を驅逐するこゝ二回なりき。

支隊は騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊、第三中隊欠）を大民屯附近に、同第十五聯隊第四中隊を新民府に、前

衛は警戒兵を平羅堡に残して耶三家子附近に各宿營せしめ、左側衛は警戒兵を養馬廠に残して機關砲八門と共に後新台に、歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第六聯隊（第一中隊欠）は新民府——奉天道を警戒して馬三家子に宿營せしめ支隊本隊は前新台子に宿營せり。

第三軍司令官は諸報告に依り奉天附近に於て敵兵混亂して退却を準備し既に人員、貨物の鐵道輸送頻繁なるが如きを知り、乃ち敵兵退却に就くものと判斷し、速に奉天停車場、田義屯の線に進出して敵を潰滅に陥らしめんと欲し午後九時後民屯に於て命令を下せり支隊に關する其要旨左の如し。

秋山支隊は北方に對して軍の左側を掩護し且つ速に奉天——鐵嶺道及奉天北方に於ける鐵道線路方面を搜索すべし

三月五日 前面の敵は退却を續行す、支隊は第三軍命令に基づき午前七時前新台子に於て命令を下し、軍の左側を掩護し速く敵の側背を搜索する爲、先づ平羅堡に到り戰況に應じ三家子（平羅堡東北約一里半）附近に進出せんを欲し、騎兵第十五聯隊（第四中隊欠）〔杉浦大佐〕を前衛とし平羅堡に、同第六聯隊（第一中隊欠）〔長江中佐〕を左側衛とし養馬廠、二台子に向ひ前進せしめ依然騎兵第十五聯隊第四中隊を以て、新民府を守備し馬三家子に歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十六聯隊第三中隊の半小隊を留めて奉天——新民府道の警戒に任じ、大民屯（老邊西南六里）の騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）〔平佐少佐〕をして同村北方に動作して軍の左側背を掩護せしめ、騎兵第三、第十四聯隊より各將校斥候を奉天北方に、騎兵第二旅團より二組の將校斥候を鐵嶺（奉天東北約十六里）附近に派遣せしめ、自餘を本隊〔歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、騎兵第一旅

團（第十四聯隊第四中隊欠）同第二旅團司令部、同第十六聯隊（第三中隊の二分隊欠）同第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）騎砲兵中隊、戰利野砲兵一小隊、機關砲十四門）とし支隊長之を率ゐる前進し、午前八時三十分前衛は平羅堡に、左側衛は二台子附近に到着せしも、敵情に就き得る所無く更に前進して午後二時頃前衛は溝家沿に、左側衛の一部は白新台に達し、支隊本隊は平羅堡南端に開進し友軍第三縱隊の前進を待てり、然れども同縱隊は依然前日の位置に停止せるが故に、支隊も亦爾後前進せず後、軍の運動を中止せるを知り、平羅堡を根據として搜索を續行せんと欲し此に防禦陣地を構成せり（第八師團より追及中の第一緊要機關砲隊の一門此日支隊本隊に合す）

是れより先午前十時三十分頃敵の騎幕は大辛屯、全盛堡、李七堡子附近に在り東十里河、老邊附近にも其斥候出沒し、又前夜道義屯附近に在りし敵兵一、二千奉天方向に退却せしもの如く、奉天より北行の汽車輸送頻繁なるも前面の敵兵退却の形勢無く、十一時頃支隊長は長徑約二千米を有する敵の一縱隊午前九時三十分頃全盛堡西北約二里半を東北方に行動し十時頃歩兵第一聯隊小辛屯（道義屯東方約一里）附近を北進中に在りとの報告を得敵の大部既に北方に退却を始めたるやを疑ひ、騎兵第十六聯隊〔本多大佐〕をして奉天——鐵嶺道を退却する敵の有無を審にし、且つ汽車運行の情況を偵察せしむ、此に於て本多大佐は十一時三十分大窪（奉天東北約三里）三窪（奉天東北約四里）方向に斥候を派遣し、第二中隊を左側衛とし蒲河（奉天東北約五里）方向に前進せしめ第三中隊を前衛と爲し、平羅堡を出發し虎石台に向ひ前進し、午後零時十分前衛の先頭、道義屯西方に達せし時同村より敵騎約一小隊の射撃を受け好心台方向に轉進して、同時四十分好心台南方丘阜に達せり。

當時敵の大部隊の行動を認めざるも東方地區に於ては支那車輛の往復頻繁にして、鐵道線沿道の村落は概ね敵の歩騎兵之を守備し、約四十輛を連結せる汽車の往復は一時間約二回なるを認めたり、尋で同聯隊の主力は好心台南端に到り二時二十分、前衛は敵騎二、三十を撃退して王士屯西南丘阜を占領し、翠花屯附近に敵の歩兵あるを見、左側衛は四家子附近に在りて敵騎二小隊と相對せり是より先敵騎數中隊李七堡子、馬家甸附近に隱顯し又三家子西北約二里半附近を行動せし縱隊は拉拉屯附近に停止し、而も同地附近に敵騎の往來頻繁なりしも午後二時頃騎兵約三中隊李七堡子附近より前進し、其約一中隊は溝家沿東北一千米の小丘阜に在りし支隊の前衛たる騎兵第十五聯隊第三中隊の一小隊を包圍せんとし、同小隊は退却して同村の主力に合す、尋で敵騎約一小隊、五兵林子方向より同聯隊に逼りしも其撃退する所爲れ、二時二十分頃敵騎約一中隊全盛堡方向より騎兵第十六聯隊の左側背に、約三中隊其左側に迫りて徐家店附近に達し、尋で歩兵二中隊、騎兵二、三中隊亦王士屯に來進せり、本多大佐は永く停止するを不利とし前衛及四家子附近の左側衛に退却を命じ、尋で第一中隊を後衛として黃泥坎に退却す、敵は我に追躡し四家子附近より砲撃を受けしも損害なく、黃泥坎北方丘阜に於て斥候を收容し、四時五十分平羅堡の本隊に合せり。

支隊の前衛は午後三時頃再び溝家沿西方五兵林子に侵入せる敵騎約二小隊を撃退し尋で同騎兵五、六中隊李七堡子附近に開進し徐家店にも亦同約四中隊の集合せしに依り、前衛司令官杉浦大佐は獨力戰鬪を交ふるを不利とし支隊長の認可を経て三時四十分、平羅堡に向ひ退却せり、而して其後尾の將に溝家沿を出でんとするや、徐家店方向の敵兵我側面に向ひ驟歩を以て前進し、五兵林子のもの側面より射撃し、同砲兵李七堡子東南方より射撃せ

しも前衛は距離を開きて退却し、敵之に追尾して後尾中隊の後方約一千米に近逼す、乃ち支隊長は騎砲兵中隊及戰利野砲兵小隊を以て平羅堡北端より此敵を射撃して前衛の退却を收容し、前衛は損害を受くることなく四時三十分平羅堡に歸還せり。

左側衛、支隊の前衛溝家沿より退却せしを知り直に其前衛を劉家窩棚に、本隊を二台子の東南部に移せり。

騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は午前十時三十分大民屯出發後洪家屯（老邊西南約四里）門台（老邊南方一里半）を経て午後三時三十分老邊に達し、斥候を北方に派遣して搜索せしも敵を認めずして同村に停止せり。

支隊は主力を以て平羅堡に、左側衛を以て養馬廠に令下の騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は老邊（板橋子西方約一里）に同第十五聯隊第四中隊は新民府に宿營す。

此日對戦せし露軍は騎砲兵を有する騎兵十五、六中隊にして其六、七中隊は沈淮子附近に留まり、他は北方に退却せり、土民の言に依れば奉天南方に在りし敵兵奉天停車場附近に移り北陵、三台子附近に砲兵を有する多數の騎兵集合せるが如し。

此夜軍司令官より左の命令を受く。

秋山支隊は常に軍の左翼外に位置し北方及東方に對し、軍の左側を掩護し且つ遠く前方を搜索すべし。

三月六日 支隊は第三軍の左翼なる第三縱隊の左側に在りて前任務を續行し、第三縱隊長令下の那隊平羅堡附近に到着せば其西北方の三台子附近に轉進して軍の左側背を掩護せんとし、午前四時騎兵第十三聯隊に命じ一中

隊を七時宿營地を出發し、養馬廠を経て東十里河に派遣し支隊の左側を警戒せしむ、尋で五時三十分頃第三縱隊の馬場少將の率ゐる部隊平羅堡に着せしに依り、六時三十分更に命令を下し、騎兵第六聯隊(第一中隊欠)〔長江中佐〕を右側衛を爲し、八時養馬廠出發二台子を占領せしめ同第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)〔平佐中佐〕を依然老邊に置き前任務を續行せしめ、同第十三聯隊(第一中隊欠)〔小池中佐〕を前衛と爲し、郝三家子養馬廠を経て馬家甸に到らしめ、支隊本隊〔歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠) 騎兵第三聯隊(第一中隊の一小隊及第三中隊欠) 同第十四聯隊(第四中隊欠) 同第二旅團(第十五聯隊第四中隊欠) 騎砲兵中隊、戰利野砲兵一小隊機關砲十五門〕は八時平羅堡南方に集合す、右側衛は午前八時養馬廠を出發して二台子に到り、騎兵第一聯隊を協力して同村を守備し、第三中隊の二小隊を劉家窩棚に派遣して敵情を搜索し、前衛は八時平羅堡南方を出發し支隊本隊之に續行す、十時三十分前衛は歐家窩棚附近に達し、前兵たる騎兵第十三聯隊第四中隊を以て馬家甸を占領す、同時頃支隊本隊は宋家窩棚附近に開進し騎兵第十三聯隊第一中隊は東十里河に達す、時に敵の騎幕、黃泥坎、溝家沿、李七堡子及拉々屯に互り李七堡子附近に砲兵を有する歩騎兵數百現在するものゝ如く又鐵道線路西側の諸村に各百餘騎ありて鐵道を掩護するに似たり、是より先工兵第一大隊第一中隊は第三軍命令に依り、午後一時三十分到着して支隊の令下に入る、三時頃敵騎約二百李七堡子より五兵林子に入り、其一部白新台に進み稍活氣を呈せしに依り、支隊長は歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠) 騎砲兵中隊、機關砲六門を田村少將に指揮せしめ、三台子北端を占領す、同時二十分敵砲六門李七堡子より馬家甸、歐家窩棚を射撃し騎兵約二百更に五兵林子に前進す、乃ち前衛司令官小池中佐は騎兵第十三聯隊第二第三中隊を以て徒歩戰を準備し

其一部を歐家窩棚東端に配備せり、而して溝家沿、李七堡子附近の敵兵益々活潑となり、六時頃に至り、其騎兵四、五百は李七堡子より同五、六百は五兵林子より前進し逐次我斥候を驅逐して左右より前衛を包圍せんとするに遭ひ、前衛は姑く徒歩戰して之に對せしも優勢の敵に對し永く交戰するを不利と爲し、第四中隊を後衛として三台子の本隊に歸還せり、恰も支隊は第三軍司令官より第三縱隊は明日の行動の爲本夜其左翼部隊を以て溝家沿附近を、主力を以て二台子、養馬廠附近に集合する豫定なるに依り、支隊は第三縱隊をして全く後顧の憂無からしむる爲本日中に大辛屯、沈淮子、老邊の線以北に進出し、該方面の敵を成るべく北方に壓迫すべき訓令に接せしに依り、直に歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠) 騎兵第十三聯隊(第一中隊欠) 機關砲九門を田村少將に指揮せしめ、馬家甸を攻撃せしめ騎兵第十六聯隊機關砲二門を本多大佐に指揮せしめ沈淮子を占領せしめ、右側衛をして爲し得れば第三縱隊の運動に伴なひ白新台に前進せしむ(支隊長は當時未だ第三縱隊の前進を止めしを知らざりき) 騎砲兵中隊は午後七時三十分三台子北端より馬家甸を射撃し、同時頃歩兵第三聯隊第一大隊長湯池少佐は支隊長の命に依り、第二中隊を散開して前進し敵の抵抗を受くること無く馬家甸を占領す、尋で田村少將は自餘を率ゐて同村に到り更に信家窩棚を占領して防禦工事を施し、本多大佐は騎兵第十六聯隊第一中隊を前衛とし、路家窩棚を経て前進し九時三十分沈淮子を占領せり、而して右側衛は第三縱隊前進せざりしに依り、依然二台子及劉家窩棚を守備せり。

支隊は此夜右側衛を以て二台子及劉家窩棚を、田村少將の率ゐる部隊を以て信家窩棚及其附近を、本多大佐の率ゐる部隊を以て沈淮子を守備し、本隊は三台子及其附近に、騎兵第十三聯隊第一中隊は東十里河に、同第九聯隊

(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)は老邊に、同第十五聯隊第四中隊は新民府に宿營せり、而して馬家甸附近り退却せる敵兵李七堡子に停止せしが如く、萬金台(老邊東北約四里)附近に敵の騎兵約一中隊來りしも新民府及興隆台(李七堡子北方約二里)附近に敵影を認めず、前夜出發せし騎兵第六聯隊の將校斥候(綿貫中尉の率る下士以下十騎)は夜中敵の警戒線内に潛入し文官屯、虎石台兩停車場間に於て鐵道を破壊し、七日午前十時頃歸還せり。

第三軍司令官は今や全く敵の側背に進入せしも、奉天南方に於ける各軍の攻撃未だ大なる發展を遂げざりしに依り、方に軍の全力を傾注すべき秋なりとし、午後八時藍家屯に於て軍直屬團隊に此要旨を訓示し、明七日前面の敵を擊攘して先づ昭陵(北陵)、田義屯の線に進出せんことを欲し命令を下せり、支隊に關する其要旨左の如し。

秋山支隊は黃泥坎、沈淮子及老邊の線以北に於て勉めて遠く敵を壓迫し軍の左側及左側背を掩護すべし

三月七日 前面の敵は退却を續行す、支隊は軍の左側背掩護に任じ、馬家甸に主力を集め爾後北進して敵を壓迫せんと欲し、前夜半三台子に於て命令を下し、二台子の騎兵第六聯隊(第一中隊欠)を右側衛として先づ白新台を占領せしめ、尋で沈淮子の騎兵第十六聯隊、機關砲二門を左側衛とし共に本隊の運動に伴なひ北進せしめ、馬家甸附近の田村少將の率る部隊(歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠)騎兵第十三聯隊(第一中隊欠)機關砲九門)をして依然同村を守備して本隊の到着を待たしめ、騎砲兵中隊及戰利野砲兵一小隊をして騎兵第十五聯隊第三中隊の掩護に依り、午前六時三十分同村に到り田村少將の指揮下に入らしめ、東十里河の騎兵第十三聯隊第一中隊を原隊に復歸せしめ、本隊(騎兵第十四聯隊(第四中隊欠)同第十五聯隊(第四中隊欠)同第三聯隊

翌日に關する軍命令
前進部署

全盛堡に向ふ前進

(第一中隊の一小隊及第三中隊欠)機關砲四門、工兵第一大隊第一中隊)は午前七時迄に馬家甸南方に集合し、老邊の騎兵第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)をして午前五時三十分同村を出發し、石佛寺(老邊の東北約五里半)方向に前進せしむ、而して新民府の騎兵第十五聯隊第四中隊は依然同地に在り、右側衛は午前六時三十分二台子を出發して白新台を占領し、田村少將は依然歩兵第三聯隊第一中隊を以て信家窩棚を守備し、自餘を以て馬家甸に在り、而して砲兵の到着するや騎砲兵中隊を同村東端に、戰利野砲兵小隊を西北端に配備し左側衛は拂曉頃沈淮子に集合して共に本隊の前進を待てり、支隊長は本隊の馬家甸に集合するや七時三十分中山中佐の指揮する騎兵第三聯隊(第一中隊の一小隊及第三中隊欠)同第十四聯隊(第四中隊欠)をして前面の敵情を搜索せしむ、騎兵第三聯隊長中山中佐は八時將校斥候を李七堡子方向に派遣し、同第十四聯隊第三中隊(二小隊欠)を左側衛とし沈淮子を経て朱家窩棚に前進せしめ同第三聯隊第一中隊を前衛とし、拉々屯に向ひ前進し、九時頃木家窩棚に達せり、支隊長は同時頃馬家甸に在りて第三縱隊左翼隊の既に李七堡子を占領し、且つ萬金台(馬家甸西北約二里)附近に敵騎七、八十あるのみの報告を得、木家窩棚を経て尹家窩棚に進まんことを欲し、右側衛をして其の南方を、左側衛をして拉々屯に進ましめ中山中佐の率る部隊を併せ、十時頃張家窩棚に向ひ出發す、同時三十分頃姚家庄の敵砲兵全盛堡方向を射撃せしに依り、支隊長は歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、戰利野砲兵小隊を前衛に増加し、田村少將をして之を指揮し木家窩棚を守備せしむ、乃ち田村少將は増加隊と共に直に同村に進み戰利野砲兵小隊を以て敵砲兵を射撃せしも距離遠く効力なきが故に少時にして之を止む、中山中佐の率る部隊の左側衛たる騎兵第十四聯隊第三中隊(二小隊欠)は同時頃原隊に合せり、支隊の前衛は十一時頃

李七堡子に、同左側衛は拉々屯に達す。午後零時三十分支隊は前衛の戦利野砲兵小隊を本隊に收めて全盛堡に向ひ轉進し前衛は騎兵第三聯隊第二中隊を前兵として二時頃同村に、尋で支隊本隊は李七堡子に達す、右側衛は是より先全盛堡に在りて大辛屯の敵と對せしも敵兵退却せしに依り直に同村を占領せり、此間曩に彈藥補充の爲後方に残りし戦利野砲兵中隊（一小隊欠）は支隊本隊に合す、支隊長は三時頃歩兵第三聯隊第二中隊及機關砲九門を田村少將の令下に増加し、第三縱隊の部隊に代りて全盛堡の守備に任じ、尋で更に工兵第一大隊第一中隊の一小隊を増加し、其機關砲二門を割き右側衛たる騎兵第六聯隊に轉屬す、左側衛は依然拉々屯に在りて警戒す。騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は午前七時第一中隊（二小隊欠）を前衛として老邊を出發し、萬金台に向ひ九時頃薄荷台に於て尙義林より前進せる敵騎約二十を撃退し、尋て于家台に進みて尙義林より退却する敵騎約一中隊を射撃し十時頃萬金台に達し、午後零時二十分更に三台子に進み二時二十分第三中隊の一小隊は閔家窩棚より我斥候を窮迫せる敵騎約二十を撃退し四時三十分四台子に前進す。

此夜本隊の右側衛は大辛屯に、支隊本隊は全盛堡及李七堡子に、左側衛は拉々屯に、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は萬金台に宿營し、新民府守備隊は支隊長より其附近靜穩に歸せば原隊に復歸すべき訓令を受けしも既に遅かりしに依り明日出發するに決し此夜依然同地に停止せり。

三月八日 第三軍は有利なる戰鬪を以て奉天を包圍し猛烈に攻撃す、敵は今朝未明より全線退却を始め、我滿洲軍は全線追撃を開始せり、支隊は前夜第三軍司令官より命令到着せざるを以て現在地附近に停止し、軍の左側背を警戒せんとし前夜十時命令を下し、騎砲兵中隊、戦利野砲兵中隊の各一小隊をして天明前全盛堡に放列を布

き田村少將令下の部隊（歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）同第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）機關砲七門、工兵第一大隊第一中隊の一小隊）に工兵第一中隊（一小隊欠）を屬して全盛堡に防禦工事を施さしめ、右側衛司令官長江中佐の率ゐる騎兵第六聯隊（第一中隊欠）機關砲二門をして依然大辛屯を、左側衛司令官本多大佐の率ゐる騎兵第十六聯隊、機關砲二門をして依然拉々屯を、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）をして、依然萬金台を守備せしめ自餘の諸隊（歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十三聯隊同第十五聯隊（第四中隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）戦利野砲兵中隊（一小隊欠）機關砲四門）を本隊とし午前七時李七堡子に在りて出發の準備を整へしむ、午前六時遂に軍命令到達せざるを以て、更に命令を下し田村少將に屬する騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）機關砲二門、工兵第一大隊第一中隊の一小隊及本隊の歩兵第三聯隊第一中隊を大辛屯に派遣して右側衛を増加し、以て同村に堅固なる防禦工事を施し敵情を搜索せしむ、八時十分軍命令を得現在地附近を堅固に守備せんを欲し、田村少將に屬せし騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）を好心台に派遣して支隊の右側を警戒し、且つ第一師團との連絡に任じ戦利野砲兵中隊を大辛屯の右側衛に増加し、騎兵第十三聯隊第二中隊之を護衛し、本隊は八時三十分李七堡子を出發し全盛堡に到り田村少將の率ゐる部隊を合し更に機關砲二門、工兵第一大隊第一中隊（一小隊欠）を右側衛に増加せり。

騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は午前八時好心台に到着して、第一師團と連絡し右側衛の増加部隊は概ね九時より十時三十分の間に於て大辛屯に到着す、此に於て右側衛司令官長江中佐は歩兵第三聯隊第一中隊を同村北端に、戦利野砲兵中隊を東端に、騎兵第六聯隊第二中隊を其中間に、同第十四聯隊第二第三中隊を

支隊前面に於ける状況

西北に配置し自餘の諸隊を村内に置き村縁に防禦工事を施せり。

好心台騎兵第三聯隊の退却

支隊本隊、拉々屯、萬金台方面の状況

朝來敵の歩騎兵の小部分王士屯、蘭西屯附近に在り尙ほ奉天——鐵嶺道方面に屢々濃塵揚り、大部隊の行動と判斷せしも其進退何れに在るや詳ならず、九時三十分頃敵の騎兵約一中隊鐵嶺道に侵入せしも爾後前進せず、午後一時頃に至り戦利野砲兵中隊をして鐵道を威嚇する目的を以て、郎家士方向を射撃し尋で敵騎兵三、四中隊鐵嶺道に入るを發見して之を射撃し北方に潰走せしめ、二時五十分頃歩兵約百五十、王士屯東方丘阜より王士屯に向ひ前進し同村の我斥候之を射撃するや、敵は暫く其東方凹地に入りしも三時二十分再び前進し、遂に王子屯に侵入し其歩兵約百、同村西南丘阜に進み尋で兵力を増加せり、乃ち好心台に在る騎兵第三聯隊長山中佐は各中隊を陣地に就かしむ、當時同隊は斥候を諸方面に派遣し兵力少く徒歩戦の銃數僅に七十、乘馬豫備隊亦一小隊に過ぎざるに反し、敵の散兵約二百其後方に約百より成る豫備隊あり、尙ほ別に騎兵約四百兩側後に在りて前進す、則ち其近接するを待ちて射撃を開始するや、敵兵一度退却の色ありしも後更に前進して方襲より包圍せんとし其一部既に村内に入り我手馬の位置危険と爲りしを以て、山中佐は遂に退却を命じ諸兵を好心台西北約六百米の凹地に集め之と相對す、四時頃長江中佐は敵兵好心台に侵入せるを知り戦利野砲兵中隊を以て之を射撃す、乃ち騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）は此機に乗じて襲撃し、同時三十分好心台を回復す、同砲兵中隊は午後五時頃敵の歩兵約一中隊の尙ほ好心台東方樹林中に停止し在るを發見し直に之を撃退せり。支隊本隊は田村少將令下の部隊と共に依然全盛堡に在りて、歩兵第三聯隊第二中隊の一小隊、騎兵第十五聯隊第二中隊の一小隊を以て下坎子を守備し、同騎兵中隊（二小隊欠）を尹家窩棚に派遣し警戒に任ず、午前十時三十

分頃我騎砲兵中隊は姚家庄に敵の騎兵あるを發見し、全盛堡北端より之を射撃し北方に撃退せり、爾後支隊長は騎兵第十三聯隊（第二中隊欠、小池中佐）を姚家庄に派遣す、同隊は少數の敵騎を驅逐して正午頃同村を占領せり、當時鐵嶺道北方に敵の騎兵大部隊屢々往復せり。

左側衛は騎兵第十六聯隊第四中隊を拉々屯の西部に、同第三中隊を東部に第二中隊を中央部に配置し、防禦工事を施して之を守備す、午前十時頃敵の騎兵約二中隊孟家台（拉々屯の北方約二里）附近に出沒し、其一小隊營子附近の我下士哨に迫りしも下士哨は斥候と協力して之を撃退す。

騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）は依然萬金台に在りて其第一中隊（一小隊欠）を右、第三中隊を左に併列して同村を守備せしも靜穩にして唯午後一時頃邊壩子（萬金台東北約二里半）附近に敵騎の小部分あり、夕に至り石佛寺（萬金台東北約三里）に其大部隊在るを知りしに過ぎず。

支隊は此夜好心台、大辛屯、全盛堡、拉々屯、萬金台に互る線を守備し、主力を以て全盛堡及其附近に宿營す、又曩に新民府に派遣せる騎兵第十五聯隊第四中隊は午前八時同地出發奉天——新民府道を経て午後七時十分原隊に復歸し後李七堡子に宿營せり。

支隊は第三軍司令官より左記要旨の命令を受く。

秋山支隊は其主力を以て大辛屯附近に位置し遠く敵を北方に壓迫し軍の背後を掩護すべし。

三月九日 南風吹荒み紅塵萬丈咫尺を辨ぜず、我滿洲軍は猛烈に奉天を包圍攻撃し、彼我の砲聲百雷の如く、支隊長は第三軍命令に基づき主力を以て大辛屯に轉進するに決し、且つ支隊の正面廣きに失し將來の追撃に有利な

大辛屯進出準備

らざるが故に之を緊縮せんむ欲し、萬金台の騎兵第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)を拉々屯に、同村の騎兵第十六聯隊(機關砲二門を附す)を全盛堡守備隊(歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、騎兵第十五聯隊、騎砲兵一小隊、機關砲七門、工兵第一大隊第一中隊の一小隊)に合して同守備隊長田村少將の令下に入れ、同隊に屬する第一繁駕機關砲隊の三門を大辛屯に送り原隊に復し、又大辛屯の騎兵第六聯隊(第一中隊欠)を好心台に移して同地守備隊たる騎兵第三聯隊(第一中隊の一小隊及第三中隊欠)に合せしめ、本隊たる騎兵第十三聯隊、騎砲兵中隊(一小隊欠)を午前七時三十分子出發大辛屯に到り、該地守備隊(歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十四聯隊(第四中隊欠)、戰利野砲兵中隊、機關砲九門、工兵第一大隊第一中隊(一小隊欠))に合せしめ、天明後射ら同村に移れり、中山中佐は夜來王土屯附近の敵兵退却せしに依り、同村東南森林に監視哨を配置し斥候を以て前方を警戒し、八時三十分頃新に到着せる、騎兵第六聯隊(第一中隊欠)をして好心台西半部の守備に任せり、豊邊大佐は同時頃増加隊到着せしに依り、騎砲兵及戰利野砲兵中隊を陣地に就け、騎兵第十四聯隊第一中隊をして鐵爐舖方向を搜索せしめ、田村少將は舊拉々屯守備隊たる、騎兵第十六聯隊の九時頃全盛堡に到着するや、其第二中隊を尹家窩棚に出し、同村の騎兵第十五聯隊第二中隊及第三中隊の一小隊を姚家庄に差遣し、同村の騎兵第十三聯隊の監視部隊を交代せしめ、又騎兵第十五聯隊第四中隊の一小隊を下坎子に出し、同村の歩兵前哨を交代せしめ自餘を以て全盛堡を守備せり、而して騎兵第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠)は斥候を萬金台に残置し十時同村を發し、十一時三十分拉々屯に到着し、同村に在りし同第十六聯隊第一中隊の一小隊を原隊に復せしめ、第三中隊の一小隊を小營子に、同中隊の斥候を拉々屯の東部に派遣して警戒せり。

支隊長は午前八時十分大辛屯に於て前夜三時三十分發の軍命令を受領し、支隊の任務の前日に異なること無く、且つ第九師團の道義屯附近に主力を集結して、敵の退路に迫らんことを知り、直に田村少將に命ずるに戰況に應じ隨時全盛堡守備隊の主力を提げ大辛屯に前進するの準備に在るべきを以てし、又第九師團に連絡して支隊の右翼を前進せしめんを、好心台守備隊をして軍左翼の運動に伴なひ大古城子方向に進出して、敵の側背を脅威せしむ、當時馬古家子、蘭西屯、鐵爐舖、六間房に數十騎より成る敵の監視部隊ありて其附近に三、四中隊の騎兵行動せり。

好心台守備隊長中山中佐は第九師團の部隊、道義屯附近より進出せんことを知り、騎兵第六聯隊(第一中隊及第二中隊の一小隊欠)を依然好心台に置き別命を待たしめ、午後四時騎兵第六聯隊第二中隊の一小隊を右側衛、同第三聯隊第一中隊(一小隊欠)を前衛として發進し、右側衛は王土屯東南高地に達し、其前方約五百米に在る敵の歩兵五、六十と徒歩戰を開始し、前衛も亦同村東方高地に於て少數の徒歩兵と衝突して、之と相對し本隊は王土屯に停止して前面の敵情を搜索せり。當時上小屯子に敵兵なく小辛屯に歩騎兵約百ありて、斥候は同村に進入するを得ず。

曩に鐵爐舖方向の搜索に任せし大辛屯守備隊の騎兵第十四聯隊第一中隊は姚家庄附近の敵に妨げられて前進する能はず、大辛屯北方森林に停止す、戰利野砲兵中隊の一小隊は二時三十分東北より蘭西屯に向ひ行進せる、敵の騎兵約一中隊を射撃して北方に潰走せしめ、二時五十分再び蘭西屯に向ひし敵の半中隊を射撃せり、尋で騎砲兵中隊の一小隊は東方より馬古家子方向に敵騎の侵入するを認め之を撃退せり、而して敵騎の大部隊、營盤附近に

在るが如きも敢て行動せず支隊は依然現在地に停止して日没に及べり。

騎兵第十四聯隊より派遣せし將校斥候たる中路中尉の指揮せる一小隊は新台子（大辛屯東北約六里）附近に前進し敵の背後を搜索中敵の騎兵二、三百の包圍に陥り遂に血路を開き、七時頃歸還し新台子附近に大なる敵兵なく石佛寺附近に數多の露營火ありしを報せり。

此夜中山中佐の率ゆる部隊は夜間好心台を退き宿營し、支隊の自餘の諸隊は概ね現在の姿勢を以て宿營せり。此日滿洲軍に左の勅語を賜はりたり。（三月八日）

我滿洲軍は客冬沙河對戰以來銳ヲ貯ヘ敢ヘテ妄リニ動カス以テ戰機ノ熟スルヲ俟チ一度意ヲ決シテ起シヤ全線活動敵軍ヲ壓迫シテ既ニ克ク包圍ノ形ヲ占ム

朕ハ勝報至ル毎ニ我戰勢益々佳境ニ進ムヲ憐ヒ又爾將卒餘寒尙酷烈ノトキニ於テ數晝夜ニ互ル艱苦ヲ察シ軫念太タ切ナリ夫レ各々自愛シテ耐久ノ勇ヲ養ヒ光輝アル功績ヲ奏シ以テ朕及朕カ億兆ノ臣等ニ答ヘヨ

二月三十日大辛屯附近の戦闘

支隊は午前六時第三軍司令官より主力を以て石山子（大辛屯東北約七里）方向に挺進し、敵の退路に迫る可き命令を受領し前進の爲め、好心台の中山支隊（騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）同第六聯隊（第一中隊欠）機關砲二門）をして本隊の運動に伴なひ高力屯方向に前進せしめ、騎兵第十六聯隊をして灰土崗より三台子を経て四家子（三台子の東北約一里）方向に前進し支隊の左側を警戒せしめ、騎兵第九聯隊（第一中隊の一

石山子方向
挺進準備

前進開始

小隊及第二中隊欠）を田兵台及尹家窩棚に移し、從來の大辛屯守備隊たる、歩兵第三聯隊第一大隊本部及第一中隊、騎兵第十三聯隊同第十四聯隊（第四中隊欠）、騎砲兵中隊（一小隊欠）戦利野砲兵中隊、機關砲七門、工兵第一大隊第一中隊（一小隊欠）及全盛堡の田村少將の率ふる歩兵第三聯隊第二中隊、騎兵第十五聯隊、機關砲六門、騎砲兵一小隊、工兵第一大隊第一中隊の一小隊をして午前八時迄に大辛屯北方に集合せしむ。

中山中佐は騎兵第三聯隊第一中隊（一小隊欠）を前衛、同第六聯隊第三中隊の二小隊を右側衛として、好心台より王士屯に向ひ前進し、午前九時右側衛は同村東南丘阜に、前衛は同村東北丘阜に達し共に敵の小部隊に遭遇して停止し、爾後敵兵増加せしに依り遂に前進するを得ざりき。

騎兵第十六聯隊は第三中隊を前衛、第二中隊を左側衛とし午前八時三十分頃全盛堡より下坎子に達す、此時敵の騎兵一小隊六間房附近に在るを知り、九時二十五分を撃退して同村を占領す、當時騎兵約五中隊、三台子北方に在り、其一部は營盤、灰土崗附近に行動し時々我斥候を射撃して其進入を妨礙せり。

支隊長は田村少將の率ふる部隊の大辛屯に到着するや、午前八時騎兵第十四聯隊（第四中隊欠）を前衛とし先、關西屯に前進せしめ、本隊たる歩兵第三聯隊第一大隊本部及第一第二中隊、騎兵第十三、第十五聯隊、野砲兵中隊、機關砲十三門、工兵第一大隊第一中隊を以て之に續行せんとし、前衛司令官豊邊大佐は騎兵第十四聯隊第二中隊を前兵とし其先頭大辛屯東北丘阜の北端に達せしき、關西屯方向より射撃を受けて停止す、而して支隊本隊の出發するに先立ち午前九時畢家窩棚東方に敵の騎兵約一聯隊の東進するを發見し、戦利野砲兵一小隊は大辛屯北方森林に、騎砲兵中隊の一小隊は同村北端より之を射撃す、尋て騎砲兵中隊の全部は約一千米前方に進出し

關西屯の攻

全力を以て之を射撃するや、忽ち混亂して北方に退却せり、尙ほ支隊長は蘭西屯の敵を撃退せんを欲し、十時四十分歩兵第三聯隊第二中隊及機關砲二門を前衛に増加して敵を攻撃せしめ、戦利野砲兵中隊（一小隊欠）を大辛屯東北端の掩體に就かしめ、各砲兵をして攻撃を援助せしむ、乃ち豊邊大佐は歩兵第二中隊及機關砲二門を以て攻撃に任じ、支隊長は別に機關砲二門を大辛屯北方一キロの森林に置き、砲兵を掩護せしむ、歩兵第二中隊は稜線後に散開して前進し敵前約一キロに達するや、敵は土壁の銃眼より猛烈に射撃せしむ、我は之を冒して十一時頃敵前約六百米に達し射撃を開始せり、此際機關砲及大辛屯北方の戦利野砲兵中隊（一小隊欠）騎砲兵中隊亦射撃を加へしむ、敵兵糧を後方より増援を得て抗戦せり、此に於て騎砲兵中隊は敵の増援兵を砲撃す、大辛屯東北端の戦利野砲兵中隊（一小隊欠）は初め東方より大辛屯北方に前進する敵を、後に蘭西屯を射撃せり、尋て大辛屯北方の戦利野砲兵中隊は該村北端の同中隊に合す、支隊長は蘭西屯の敵兵益々増加せしに依り、大辛屯に據り時機を待たんと欲し十一時二十分頃前進部隊をして退却せしむ、乃ち砲兵兩中隊及機關砲は繼に射撃して退却を掩護し歩兵第二中隊は敵の猛烈なる射撃を受け、各個に稜線後に退却せり、此際戦死下士卒五名、負傷二十四名を出せり、尋て大辛屯北方の騎砲兵中隊は同村西北端に陣地を變換し、自餘の諸隊も亦同村に入り村縁を守備せり、當時蘭西屯、鐵爐舖附近に敵の歩騎兵各二、三中隊ありしも敢へて前進せず、又騎砲兵を有する敵の騎兵二、三聯隊鐵爐舖北方附近を行動し鐵道西側に沿ひし諸村に依然敵の歩騎兵あり、支隊長は午後零時二十分歩兵第一中隊、騎兵第十五聯隊、騎砲兵一小隊及機關砲六門を田村少將に指揮せしめ、全盛堡に派遣して同村を守備せしむ。騎兵第九聯隊は午前八時五十分第一中隊（二小隊欠）を前衛とし斥候を拉々屯に留めて同村を出發し、九時五十

攻撃中止

分尹家窩棚に到着し、前衛を田兵台に派遣し、魯家店、小屯子、西龍灣附近の敵の小部隊に對し且つ前面及遼河河畔の敵情搜索に勉めたり。

午後
の状況
及宿營

支隊前面の情況は午後三時以後大なる變化なく、田村少將の率ゐる部隊は全盛堡に到りて、騎兵第十六聯隊を併せ前方に小部隊を配置して警戒し、支隊の自餘は概ね現狀を維持す、六時頃敵砲約六門は馬古家子方向より、同四門は蘭西屯東南より大辛屯を猛烈に射撃す、我戦利野砲兵中隊は之に對し極力應射し、騎砲兵中隊は敵の側射を受け射撃する能はざるに至りしも、敵は日没に至りて射撃を止めり。

支隊は此夜中山支隊（騎兵第三聯隊（第一中隊の一小隊及第三中隊欠）騎兵第六聯隊（第一中隊欠）機關砲二門）を以て好心台に、田村少將の率ゐる部隊（歩兵第三聯隊第一中隊、騎兵第十五第十六聯隊、機關砲六門、騎砲兵一小隊）を以て全盛堡に、直轄せる部隊（歩兵第三聯隊第一大隊本部及第二中隊、騎兵第十三聯隊同第十四聯隊、第四中隊欠）騎砲兵中隊（一小隊欠）戦利野砲兵中隊、機關砲七門）を以て大辛屯に、騎兵第九聯隊（第一中隊の一小隊及第二中隊欠）を以て拉々屯附近に宿營す。

情報に依れば第三軍の第九師團は第一師團の左翼に轉進し、第二軍の第六師團は正午奉天を占領し、第一軍は午前十一時三十分渾河を徒涉せり。

第三軍司令官は現在地附近に兵力を集結して北進の準備を爲し命令を下せり、支隊に關する其要旨左の如し。

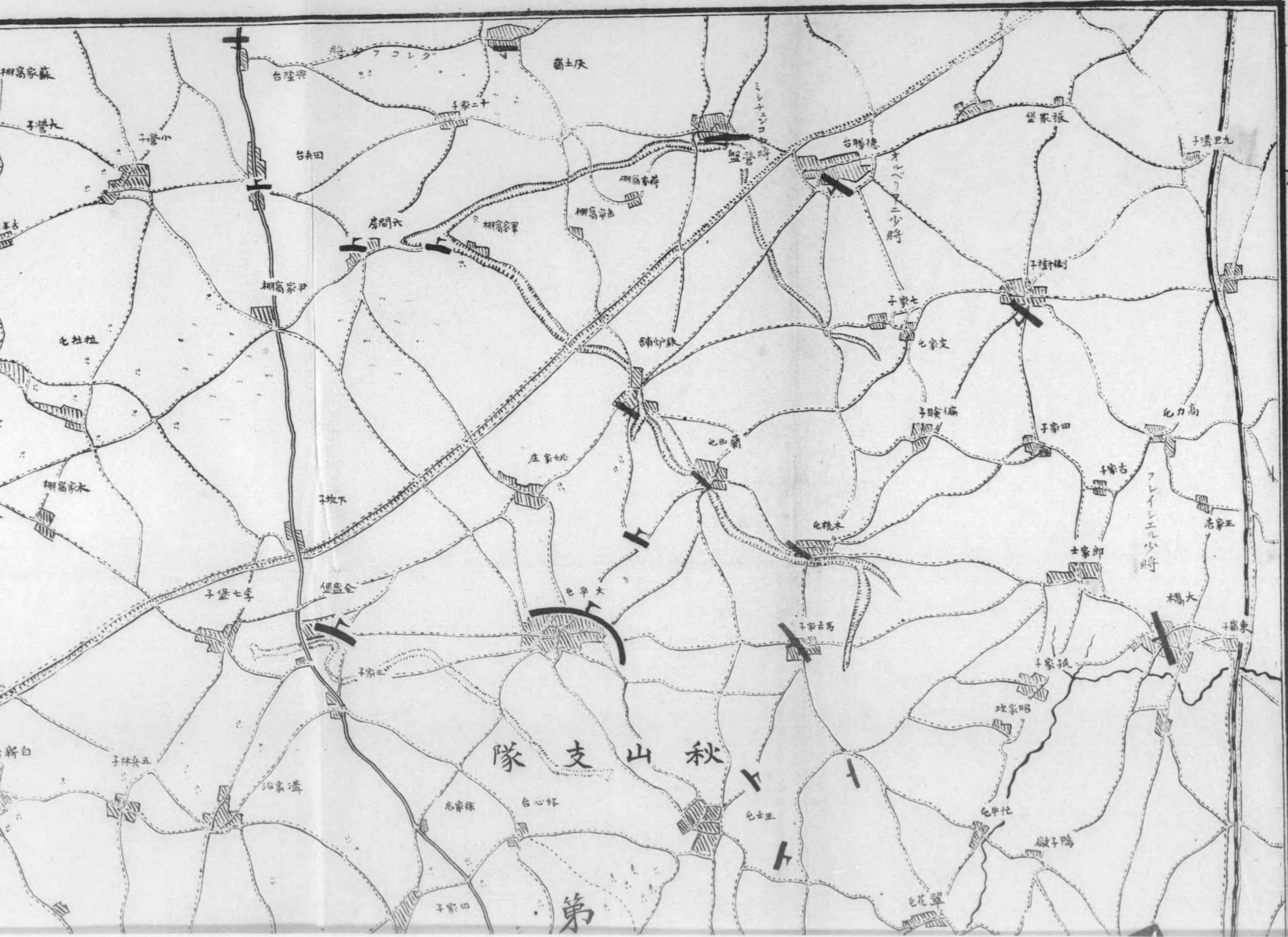
秋山支隊は主力を以て退却する敵を鐵嶺方向に追撃すべし。

第十四章 鐵嶺附近の追撃戦

三月十一日 支隊は午前二時三十分頃第三軍命令を受領し、敵を鐵嶺方向に追撃せんとし、不要の携行品を棄却し、黒外套は兵站司令部に委託し輕裝とし、中山中佐の率ゐる騎兵第三聯隊(第三中隊及第一中隊の一小隊欠)同第六聯隊(第一中隊欠)機關砲三門を右側衛、騎兵第十六聯隊(本多大佐)を左側衛とし、支隊本隊の運動に伴なひ行動せしめ、騎兵第九聯隊(第一中隊の一小隊及第二中隊欠(平佐少佐))をして一部を拉々屯に残置し、主力を營盤、興隆台の間に移し奉天—石佛寺道を警戒せしめ、本隊(歩兵第三聯隊第一大隊(第三第四中隊欠)騎兵第一旅團(第十四聯隊第四中隊欠)同第二旅團(第十六聯隊欠)騎砲兵中隊、戦利野砲兵中隊、機關砲十三門、工兵第一大隊第一中隊)は午前七時三十分大辛屯に集合し、其戦利野砲兵中隊の一小隊及機關砲三門を拂曉東北方に對し、同村の陣地に就かしむ、而して支隊長は七時迄に敵の一縱隊前日午後石佛寺方向より南下せしが如く、且つ前面の敵兵前日夕より漸次増加して一師團に上り本軍の退却を掩護し、鐵道附近に敵の二、三軍團在るが如きを知れり。

右側衛は依然好心台に在りて、午前七時騎兵第六聯隊第二中隊を王士屯東方丘阜に、同第三聯隊第一中隊を胡士台方向に派遣して敵情を搜索し、王士屯東方丘阜及馬古家子に敵の部隊あるを知れり。
支隊本隊は同時三十分大辛屯に集合し敵情を搜索せる後、情況に應じて北進せんを欲し各隊より斥候を派遣す。





奉天附近之會戰

三月十日大辛屯ノ戦闘

白ノ軍ノ午前十時頃ノ位置
 黒ノ軍ノ午後ノ位置

五万分一

